

郷土 Yamagata

— 語って 創る やまがたの未来 —



山形県教育委員会

「郷土 Yamagata ー語って 創る やまがたの未来ー」 発刊のことば

山形県には、緑あふれる豊かな自然、村山・最上・置賜・庄内とそれぞれの地域ごとに特色のある歴史、草木塔などに象徴される生きとし生けるものを畏れ敬うという感性を大切にしてきた風土、世界で活躍した偉人や地域の発展に尽くした先人など、誇るべき「資源」があります。

また、国宝土偶「縄文の女神」をはじめとする文化財や地域にのこる伝統文化や民俗芸能など、様々な山形の宝が数多く存在します。

県教育委員会では、平成27年5月に「第6次山形県教育振興計画」を策定し、子どもたちが、私たちの郷土である山形県を知る学習や活動を進めることにより、郷土に誇りと愛着を持ち、地域を愛する心を育んでいくことに取り組んでいます。

本書は、郷土である山形県の過去を知るとともに、郷土の今を考え、未来に希望を持つことができる内容としています。そのため、各地域の良さや魅力を多様な視点からまとめ、豊富な写真や図表を取り入れることで、興味・関心を持ちやすく、わかりやすい内容としています。同時に、英語訳も掲載することで、郷土の良さや魅力を英語で県内外の人や外国人に誇りを持って発信することができるように工夫しています。

多くの方々にご覧いただき、私たちの郷土である山形県に関心を持ち、理解を深めていただくために、本書が広く活用されることを切に願います。

最後になりますが、本書の作成にあたり、多大なご協力をいただきました方々に厚く御礼を申し上げ、発刊のことばとします。

平成28年3月

山形県教育委員会

郷土 “Yamagata” 目次

◇はじめに	1
-------	---

特集1 山形の歌、踊り、ふるさと発信

◇山形県民の歌「最上川」	4
◇紅花の山形「花笠踊り」	6
◇山形県スポーツ県民歌「月山の雪」	8

特集2 外国人が称賛した山形

1 ケネディ大統領が尊敬した上杉鷹山	10
2 山形ー山の向こうのもう一つの日本	12
3 イザベラ・バードが見た山形	14

1章 生き方を支える山形の精神文化

1 出羽三山と山形の精神風土	16
(1) 出羽三山信仰と「三関三渡」(生まれ変わり)の旅	
(2) 歩いて感じる神秘の山々	
(3) 出羽三山信仰が育む精神風土	
2 受け継がれてきた祈願の舞	18
(1) 霊峰月山の麓で500年以上も続いた民俗芸能ー黒川能ー	
(2) 鳥海山信仰が育んだ蔵岡の歴史と文化ー杉山比山ー	
(3) 1,200年の伝統を受け継ぐ舞楽ー林家舞楽ー	
(4) 安久津八幡宮「延年の舞」ー安久津延年ー	
3 国宝土偶「縄文の女神」ー美と祈りの世界ー	20
(1) 国宝土偶「縄文の女神」の価値	
(2) 縄文の女神、その美しさの秘密	
4 山形人の心が見える世界	22
(1) 草木塔が語りかける自然と人間の共生	
(2) 世界に伝える「草木塔の精神」～山形大学の取組み～	
(3) 親の深い愛情が見えるムカサリ絵馬	
(4) すべての子どもを笑顔に～日本最初の学校給食～	

2章 母なる川「最上川」

1 未来に伝える山形の宝「最上川の文化的遺産」	24
(1) 大江町の最上川の文化的景観が国の重要文化的景観に選定	
(2) 最上川の文化的資産50選と写真コンテスト受賞作品	
2 最上川舟運の発展を支えた人	26
(1) 三難所「碁点・三ヶ瀬・隼」(村山市)を開削した最上義光	
(2) 自費を投じて黒滝(白鷹町)を開削した西村久左衛門	
(3) 大阪・江戸に向かう西廻り航路の整備をした河村瑞賢	
3 最上川が育んだ鮮やかな世界「紅の国」	28
(1) 紅花屏風絵に見える紅花産業	
(2) 川が運んだ文化～上方文化との交流～	

3章 語り継ぎたい山形の人

1 山形の産業・くらしの土台を築いた人	30
(1) 山形県の産業・経済の土台を作った最上義光	
(2) 山形県の近代化を進めた三島通庸	
(3) 荒れ地を豊かな大地に変えた北館大学助利長～北楯大堰～	
(4) 砂嵐から大地の恵みを守った本間光丘	
(5) 奇跡の堰「飯豊山穴堰」を作った黒井半四郎	

2 郷里山形を愛した文学者たち	34
(1) 母の語りとふるさとの風土に育まれた「ひろすけ童話」	
(2) 郷土の自然を、風土を精根込めて歌った斎藤茂吉	
(3) 郷里鶴岡の面影を作品に記した藤沢周平	
(4) 「遅筆堂文庫」に込めた井上ひさしの願い	
3 地域とともに生きた人	38
(1) 「土に叫ぶ」村おこしの先駆者 松田甚次郎	
(2) 僻地医療に生涯をかけた女医 志田周子	

4章 理想郷山形！未来に輝く山形の産業

1 豊かな自然を活かした産業	40
(1) 日本一おいしいブランド米「つや姫」	
(2) 食産業王国やまがた 地域に根ざした6次産業化	
(3) 森と川と海が一体となった豊かな海洋資源	
(4) 「森林ノミクス」で育てる林業から使う林業へ	
2 山形から生まれた「世界の最先端」	44
(1) 世界を変える有機エレクトロニクス	
(2) 世界が注目するバイオベンチャー	
3 世界に誇る匠の技～山形伝統工芸～	46
(1) 職人が育む山形の伝統的工芸品	
(2) 進化する山形の伝統の技	
4 世界にはばたくメイド・イン・ヤマガタ	48

5章 まち・ひと・しごと 地方創生への道

1 山形発！世界に発信	50
(1) 世界に認められた食の都「庄内」	
(2) 映画分野で創造的資産のある山形市がユネスコ創造都市を目指す	
(3) ユネスコ無形文化遺産を目指す「新庄まつりの山車行事」	
2 山形らしく、地域づくり	54
(1) 日本最初のグリーン・ツーリズム（観光農業）を進めたまち寒河江市	
(2) 地域興しの若い力	
(3) 花を活かしたまちづくり	
(4) まち全体が協力し合う有機農業	
3 大学生と取り組む地方創生	58
(1) アートプロジェクト「ひじおりの灯」（肘折温泉×東北芸術工科大学）	
(2) 若者が文化の拠点をつくる（飛島×東北公益文科大学）	
(3) 地（知）の拠点大学による地方創生の活動	
4 地域を元気にする『ふるさと塾』	60
(1) 地域文化の伝承と地域の活性化	
(2) ふるさと塾 県内賛同団体一覧	

6章 山形シーズンストーリー ～自然と食を満喫する旅！ 君も私もふるさと観光大使～

- 特集 芭蕉が語る「山形自然絵巻」
- 1 春 冬を越えて輝く 春の山形美 ～置賜さくら回廊と飯豊・小国の新緑の山々～
- 2 夏1 山形自慢の「日本一」を満喫 ～さくらんぼ狩りと紅花染め～
- 夏2 体験 山形の大自然 ～最上の巨木、最上川舟下り(仙人掌・幻想の森)→鳥海高原、そして飛島へ～
- 3 秋 「本当に、うまい！」山形の秋の味覚 ～芋煮、地酒、そばに山菜、そして果実～
- 4 冬 山形「雪の芸術」の旅 ～小野川温泉かまくら村、米沢の雪灯籠、蔵王の樹氷、山寺の雪景色～
- ◇ 温泉王国「やまがた」－旅を潤す山形の温泉－

7章 知っ得やまがた「基礎知識」

- ◇郷土で語り継がれている人たち
- ◇山形県の主要統計指標
- ◇山形県のシンボル
(県章、県の花、県の木、県の鳥、県の獣、県の魚)
- ◇山形県のなんでもNo.1

山形県民の歌「最上川」

「最上川」昭和天皇御製 島崎赤太郎／作曲

広き野を ながれゆけども 最上川
うみに入るまで にごらざりけり

この歌は、昭和天皇が、1925（大正14）年に山形県においでになられてご覧になった「最上川」の様子を、その翌年1926（大正15）年の「うたかいはじめ歌会始よ」においてお詠みになられたものです。1930（昭和5）年にいたって、宮内庁の許可を得て、東京音楽学校（現在の東京芸術大学）の島崎赤太郎教授が作曲し、以来、県民に親しまれてきました。その後、1982（昭和57）年3月31日「山形県民の歌」に制定されました。



昭和天皇の歌碑 酒田市日和山公園
(平成27年2月5日 山形新聞)



Yamagata Prefecture has the local people's song "Mogamigawa" (The Mogami River). It says:

"Although the Mogami River runs through wide fields;
It does not get muddy until it reaches the sea."

The words of the song were written by the Showa Emperor in 1926. The composition follows the style of *tanka*, traditional Japanese short poems. A *tanka* consists of five lines of 5, 7, 5, 7, and 7 syllables.

The Mogami River is known as the "mother river" of Yamagata Prefecture because it flows throughout all the prefecture's lands, and the song expresses the leisurely way it flows.

Both Matsuo Basho, a famous *haiku* poet in the Edo era, and Saito Mokichi, a poet born in Yamagata Prefecture, loved the river and composed poetry about it.

◇和歌や俳句に詠まれた最上川

「最上川」という言葉は、古くは、特定の連想（イメージ）をうながす言葉としての地名である「歌枕」として詠まれることがほとんどでした。その最初に出てくるのが『古今和歌集』です。

「もがみ川 のぼればくだる いな舟の いなにはあらず この月ばかり」『古今和歌集』（詠み人知らず）

農民たちの一年の労働が終わろうとしている明るい生活を背景として、若い男女の恋の語らいがうたわれています。男の求婚に対して、いなにはあらず（いやではない）のだと、はっきり言い、この月ばかり（今月だけは待ってほしい）と応えているのです。収穫期の緊張感、「のぼればくだる」という動的な情景など、一首に若々しい生命を与えています。

西行も歌枕として詠んでいます。

「つよくひく 綱手と見せよ もがみ川 その稲舟の いかりをさめて」 『山家集』（西行）

その後、山形県民の歌「最上川」になった昭和天皇の和歌や、最上川を愛し詠った斎藤茂吉の和歌は実際の最上川を見て詠んでいます。

俳句の世界でも、最上川は松尾芭蕉や正岡子規に詠まれています。

「五月雨を あつめて早し 最上川」
『おくのほそ道』（松尾芭蕉）

「ずんずんと 夏をながすや 最上川」
『はて知らずの記』（正岡子規）

山形県民の歌

最上川

昭和天皇 御製
島崎赤太郎 作曲

♩=76 堂々とよどみなく

The musical score is written in G major and 4/4 time. It features a vocal line and a piano accompaniment. The tempo is marked '♩=76' and '堂々とよどみなく' (majestically and with a steady flow). The score includes dynamic markings such as *mf*, *f*, and *un poco ritard.* The lyrics are written in hiragana below the vocal line.

ひろき野をなが一れゆーけどもも
がみがーわもがみがーわうみーに
入るまでにーらざりけりにーらざりけり

コラム 1 「最上川」を演奏する山形交響楽団



創立名誉指揮者である村川千秋の「ふるさとの山形にオーケストラを」の情熱の下、1972（昭和47）年1月に発足。県下企業の支援を得て、演奏レベルの高さでは全国的にも定評がある楽団に成長しています。現在、定期演奏会、庄内演奏会、モーツァルト演奏会、自主演奏会の他に、年間30回の依頼演奏会、約100回のスクールコンサートなどの演奏活動を東北6県、新潟を中心に実施しています。また、山響の特徴として、楽団員により室内楽活動が活発に行われています。



紅花の山形「花笠踊り」



『花笠音頭（花笠踊り唄）』は、山形県の花笠まつりで歌われる日本の民謡で、「ヤッショーマカシヨ」の合いの手でおなじみです。起源は諸説ありますが、大正中期に尾花沢で土木作業時の調子あわせに歌われた土突きがルーツとされます。昭和初期に民謡化され、「花笠音頭」または「花笠踊り唄」として広まりました。

花笠まつりは山形県の山形市、尾花沢市、天童市、鶴岡市、上山市など各市で8月頃に行われるほか、10月上旬に静岡県伊東市で「伊東温泉花笠踊り」として開催されています。



The Tohoku region, located in northern Japan, becomes lively with festivals when summer comes around. So does Yamagata Prefecture. Among the many festivals in Yamagata Prefecture, the Hanagasa Festival, a flower hat dance festival, is one of the most famous. In the Hanagasa Festival, dancers dance in lines with a flower hat in their hands. Every year many visitors both from all over Japan and from abroad come to the festival, held in early August.

The festival is held not only in Yamagata City but also in Obanazawa City, Tendo City, Tsuruoka City, and Kaminoyama City. It is said that Obanazawa is the birthplace of this festival. The festival is enjoyed by many people in the prefecture, from children to the elderly.



コラム② 花笠踊り発祥の地「徳良湖」

花笠踊りは、田植え踊りを元に、菅笠に紅色に染めた紙を結びつけて花笠を作り、振ったりまわしたりして景気をつけたのが始まりとされています。踊り方は地域によって異なり、10種類余りのさまざまな踊り方ありましたが、1963（昭和38）年に、誰でも踊ることができるようにと、新しい振り付けの「正調花笠踊り～薫風最上川～」（女踊り）が誕生しました。男踊りといわれる「正調花笠踊り～蔵王暁光～」が誕生したのは1998（平成10）年と、ずっと新しい踊りになります。

また、花笠踊り発祥の地である尾花沢地方に伝わる俗に「笠回し」と言われる踊り方は、徳良湖の灌漑用水池工事で歌われた土突き作業の後ろで、笠をあおいで風を送るしぐさが原型とされています。



花笠踊り原型の築堤時の作業の様子



薫風最上川

蔵王暁光

花笠踊り

山形県民謡／編曲・寛 哲郎

揃ろた揃ろたよ 笠踊り揃ろた
 秋の (チヨイチヨイ)
 出穂よりまだ揃ろた
 (ハア ヤッシヨマカシヨ)

花の山形 紅葉の天童
 雪を (チヨイチヨイ)
 ながむる尾花沢
 (ハア ヤッシヨマカシヨ)

おらが在所へ 来てみてしゃんせ
 米の (チヨイチヨイ)
 なる木がおじぎする
 (ハア ヤッシヨマカシヨ)

目出度目出度の 若松様よ
 枝も (チヨイチヨイ)
 栄えて葉も茂る
 (ハア ヤッシヨマカシヨ)

そ ろ た そ ろ た - よ か さ お ど - - り
 そ - ろ - - - た - - あ き - - - の チ ヨ イ チ ヨ イ
 で ほ - よ - り - - - ま だ そ - ろ -
 た - ハ ア ヤ ッ シ ヨ マ カ シ ヨ



山形県スポーツ県民歌「月山の雪」

山形県スポーツ県民歌は、1948（昭和23）年に「第32回全日本陸上競技選手権大会」の本県開催を契機に、戦後の復興とスポーツを通して県民の意識を鼓舞するために制作されたもので、同大会開幕式で披露され、その後、数多くのスポーツ関連行事で歌われてきました。

この歌を、2014（平成26）年2月開催の第69回国民体育大会冬季大会スキー競技会「やまがた樹氷国体」の開始式で演奏するため、明るくさわやかでシンプルな行進曲風に編曲しリニューアルしました。学校の運動会等の行事や、各競技団体、地域のスポーツ大会等で子どもから大人まで幅広い世代に親しんでいただき、永く未来に受け継いでいきたいものです。



“Gassan no yuki, kurenai somete...” (The snow on Mt. Gassan glows red...)

Yamagata Prefecture has a song called “Gassan-no-Yuki” (Snow on Mt. Gassan), which is sung at sports events. It is a very cheerful and encouraging song.

There are three professional sports teams in Yamagata Prefecture: Montedio Yamagata, a soccer team; Passlab Yamagata Wyverns, a basketball team; and Prestige International Aranmare, a volleyball team.

Especially when the supporters cheer Montedio Yamagata, all of them sing “Snow on Mt. Gassan,” and their voices become a loud chorus in the stadium.

山形県のプロスポーツ

パスラボ山形ワイヴァンズ

パスラボ山形ワイヴァンズは、山形県を本拠地としてナショナル・バスケットボール・デベロップメント・リーグ（NBDL）に参加の男子プロバスケットボールクラブチームです。

「パスラボ」は、「人から人へのパスを開発する研究所」という意味で、チームマインドとしています。人から人へのパスを繋げることで、チームの勝利だけでなく、チームと地域の連携・交流を作り出したいという精神も込められています。

「ワイヴァンズ」は、古の伝説のドラゴン「Wyvern（ワイバーン）」で、チームが目指すチームスタイル、ドラゴンのように冷静に状況判断しながら、力強く攻撃するチームを目指しています。



Aranmare（アランマーレ）

プレステージ・インターナショナルアランマーレは、酒田市を活動拠点とする女子実業団バレーボールチームです。



Aranmare（アランマーレ）は、コーポレートカラーから太陽の光を浴びて育つオレンジ（arancia）と海（mare）に面した地域性をイメージし、明るく笑顔があふれるチームで地域を元気にしたいという想いを込めて名付けられたものです。

アランマーレは、バレーボールの“強さ”だけではなく、“人間力”も兼ね備えた『善くて強いチーム』を目指しています。スポーツ教室の開催など地域に根差した活動を行い、地域のみなさまに愛され、共に成長できるチームとなるように活動しています。

山形県スポーツ県民歌 月山の雪

作詞：西条八十
作曲：古関裕而
編曲：仁藤雄資



一、
月山の雪、紅そめて
朗らかに明けゆく、
興ずは力、若き力、
今さきがけて、我ら起つ
スポーツ山形
フレフレヒップヒップフレ

二、
必勝の意気、高鳴る胸に
輝くグラウンド、旗は招くよ
溢るる生命、若き命、
いざ全力を、あけて往け
スポーツ山形
フレフレヒップヒップフレ

三、
栄冠目指し、正しく剛く
闘う気迫ぞ、祖国の柱
鍛えん明日に、強き明日に
ああ逞しの、健康美
スポーツ山形
フレフレヒップヒップフレ

四、
勝ちどきの歌、とどろくところ
誉れに沸きたつ、最上の流れ
振えやチーム、若きチーム
ああ山形の、大チーム
スポーツ山形
フレフレヒップヒップフレ



モンテディオ山形

モンテディオ山形は、山形市、天童市、鶴岡市を中心とする山形県全県をホームタウンとする日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟するプロサッカークラブです。「MONTEディオ」のMONTE（モンテ）は山を、DIO（ディオ）は神を意味し、全体の意味は「山の神」となります。この由来は、山形を代表する霊山としての出羽三山（月山、湯殿山、羽黒山）にちなんだものとなっています。また、「MONTEディオ」には、意味的に「神秘的郷 山形」を表現するだけでなく、山頂すなわち頂点を目指して戦うチームになってほしいという多くの県民の夢と希望が込められています。



©MONTEディオ YAMAGATA





米沢市でスピーチするキャロライン・ケネディ駐日米国大使



上杉鷹山の像とキャロライン・ケネディ駐日米国大使の来訪記念碑（米沢市松が岬公園）

1 ケネディ大統領が尊敬した上杉鷹山

コラム 3 鷹山を尊敬したケネディ大統領

ジョン・F・ケネディは、ニューフロンティア精神を掲げ、1960（昭和35）年に、43歳の若さで第35代アメリカ大統領に選ばれた人です。特に、ソ連との核戦争勃発の可能性があったキューバ危機に対応した指導者として有名ですが、残念ながら1962（昭和37）年暗殺により悲劇的な死を遂げました。

ケネディ大統領が就任時に、日本記者団から、「貴方が日本で最も尊敬する政治家は誰ですか」と問われて、「上杉鷹山」と答えたと言われています。上杉鷹山という人物は、内村鑑三著の「代表的な日本人」によって大統領が知ることになったとされています。

ケネディ大統領は、何よりも国民の幸福を考え、民主的に政治を行い、そして「政治家は潔癖でなければならない」といって、その日常生活を、文字通り一汁一菜、木綿の着物で通した鷹山の姿に、自分の理想とする政治家の姿を見たのかもしれません。



第35代アメリカ大統領
ジョン・F・ケネディ
(ウィキペディアより)

(1) キャロライン・ケネディ、父の思いを伝える

第35代アメリカ大統領ジョン・F・ケネディの長女で、駐日米国大使として就任したキャロライン・ケネディは、2013（平成25）年11月27日に東京都内で講演し、父親のケネディ元大統領が生前、上杉鷹山に心を寄せ、「善政と公益への献身を称賛していた」と述べました。

翌年の2014（平成26）年9月27日には来県され、米沢市で開催された「なせばなる秋まつり」で、伝国の杜2階バルコニーから、詰めかけた大勢の市民に上杉鷹山を尊敬した父の思いを語りました（下記）。

2015（平成27）年9月26日には、大使が来訪時にスピーチした要約文を記載した「キャロライン・ケネディ駐日米国大使の来訪記念碑」が建立されました。

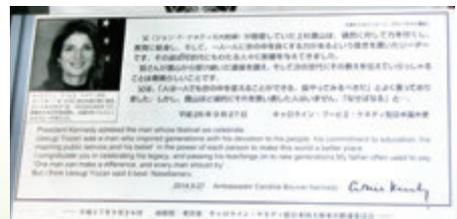
キャロライン・ケネディ第29代駐日米国大使 米沢市訪問での挨拶の一部（H26.9.27）

「予もいづれの年よりか、片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず」と俳人松尾芭蕉はこの地域に関する著名な作品の冒頭で記しています。同じように私の漂流も本日ここに連れて来てくれたということで喜びにたえません。

御存知のとおりケネディ大統領は、本日お祭りで祝っている方に敬服しておりました。上杉鷹山は、領民に対する献身、そして教育へのコミットメント、人を鼓舞した公共サービス、そして一人ひとりに世の中を良くする力があるとの信念を通し、何世代にもわたる人々を触発してきたリーダーであります。

皆様が鷹山から受け継いだ遺産を讃え、そして新しい世代にその教えを伝えておられることをお祝い申し上げます。父は「一人でも世の中に変化をもたらす、違いをもたらすことができる。皆やってみるべきだ。」とよく言っておりました。しかし、上杉鷹山ほど端的にそれを言い表した人はいないと思います。

「成せば成る」（大使が直接、日本語で）ありがとうございます。



キャロライン・ケネディ駐日米国大使のメッセージが刻まれた記念碑

(2) 内村鑑三が著書「代表的な日本人」で英語で外国に紹介した上杉鷹山

内村鑑三（1861～1930）は、「代表的な日本人」として西郷隆盛・上杉鷹山・二宮尊徳・中江藤樹・日蓮の5人をあげ、その生涯を叙述しました。日清戦争の始まった1894（明治27）年に書かれた本書は岡倉天心『茶の本』、新渡戸稲造『武士道』と共に、日本人が英語で日本の文化・思想を西欧社会に紹介した代表的な著作です。

次の文は、内村鑑三が上杉鷹山について叙述した一部の抜粋ですが、鷹山が残した名言「成せばなる 成さねばならぬ何事も 成らぬは人の成さぬ成けり」に通じるものと読み取ることができます。

藩主の地位に就いてから二年後、鷹山は、はじめて自領の米沢に足を踏み入れました。それは晩秋のことで、ただでさえ悲哀のたちこめる状態であるところへ、「自然」が、さらにも悲しさを添えていました。

行列が、荒れ果てた、だれも顧みるものもないさびれた村を、一つまた一つ通るたびに、目の前に展開する光景を見て、多感な年若き藩主の心は深い衝撃を受けました。乗り物のなかで、鷹山が、自分の前にある火鉢の炭を一生懸命に吹いている姿を供の家来が見かけたのは、そのときでありました。家来の一人が、

「よい火をお持ちしましょう」と申しました。

「今はよい。すばらしい教訓を学んでいるところだ。それは後で言おう」

鷹山は答えました。その晩、行列が泊まった宿で、藩主は供の家来を集めて、その午後に学んだ新しい、貴重な教訓を説明しました。

「この目で、わが民の悲惨を目撃して絶望におそわれていたとき、目の前の小さな炭火が、今にも消えようとしているのに気づいた。大事にしてそれを取り上げ、そっと辛抱強く息を吹きかけると、実に嬉しいことには、よみがえらすことに成功した。“同じ方法で、わが治める土地と民とをよみがえらせるのは不可能だろうか” そう思うと希望が湧き上がってきたのである。」

—内村鑑三著「代表的な日本人（1908）」の和訳（岩波文庫）より一部抜粋—

(3) 現代も学べる経営学「上杉鷹山の三大改革」

鷹山は、当時窮地に追い込まれていた米沢藩を救うため、財政の再建、産業の開発、精神の改革の3つの大きな改革を進めました。

① 財政の再建

鷹山は、自らが節約した生活を行い、透明性の高い財政運営に努めました。

日常の食事は一汁一菜、衣服は上等な絹ではなく綿で作られたもので、奥女中は50人から9人に減らしました。役人たちにも質素儉約の協力と理解を求めました。また、財政難を克服するため、1年間の米沢藩の収入、支出、借金などを詳しく記載した帳簿を作成するとともに、より多くの人々の意見を聞くことを大事にしました。

② 産業の開発

鷹山は、養蚕や青芋、漆、織物などさまざまな物品を米沢藩の特産品にしました。また、農民だけでなく藩士に対しても田畑の開墾や治水のための土手修理を実施させています。更には、飢饉に対して人々を救うため、野草などを食料にする知恵をまとめた「飯糧集」を米沢藩が作成しました。

③ 精神の改革

鷹山は、「民の父母」となることを自分に言い聞かせ、藩政改革のために、例え重臣であっても処罰する、という厳しい態度で自分を律し、藩政に取り組みました。

鷹山は、「民の父母」としての根本的な方針を、自ら助ける「自助」、近隣社会が互いに助け合う「互助」、藩政府が手を貸す「扶助」の「三助」としています。

コラム 4 細井平洲と上杉鷹山

米沢市関根の普門院に細井平洲先生上杉鷹山公敬師の像が建てられています。この敬師の像は、1796（寛政8）年、上杉鷹山46歳、細井平洲69歳の時、平洲が3度目の米沢訪問をした時の、感動の対面の様子を再現した銅像です。鷹山が、14歳の時から教えを受け、終生師事した平洲への尊敬の思いをこめた出迎えでした。

平洲のふるさと東海市では、「米沢を見ずして平洲を語るなかれ」と言われ、米沢市と交流してきましたが、この度、東海市の市制45周年を記念して、2人の感激の出会いの場面を制作した像を、東海市平洲会が寄贈したものです。



上杉鷹山が細井平洲と再会した時の様子を再現した銅像（米沢市 普門院）



“Do it and it will be done: if you do not, nothing will be done; if something is not done, that is because you did not do it.”

These are the famous words of Uesugi Yoazan, lord of Yonezawa *Han* (the Yonezawa Domain) during the Edo period. Uesugi Yoazan rebuilt the economy of the Yonezawa *Han*, and developed many industries. He also promoted important changes to the people's way of thinking that would become the basis of their lives.

The 35th president of the United States, John F. Kennedy, respected Uesugi Yoazan as a great politician. His daughter, U. S. ambassador to Japan Caroline Kennedy, spoke about this to the people of Yamagata when she visited Yonezawa City in 2014.



ライシャワー博士の寄稿文碑（山寺芭蕉記念館）と山寺全景

Yamagata- The Other Side of the Mountain

It is a beautiful land, reminiscent of Japan as it used to be. So it seemed to Basho when he made his famous trip to Yamagata and the northland three hundred years ago, and this is the way I felt when I visited Yamagata a little over twenty years ago. It is not only the land of the past but also, I hope, the Japan of the future, where there is room for growth but growth which does not mar the happy balance between man and nature.

ライシャワー博士の寄稿文碑に刻まれた『山形－山の向こうのもう一つの日本』の英文

2 山形－山の向こうのもう一つの日本

コラム ⑤

ポスト山形DCポスター



このポスターは、2015(平成27)年6月13日から9月12日まで実施した「山形日和」観光キャンペーン(ポストDC)を広く情報発信するために使用されました。

(1) 「碑文」“山形－山の向こうのもう一つの日本” ～ライシャワー博士が書き綴った山形の自然・人～

「山形－山の向こうのもう一つの日本」は、元駐日米国大使エドウィン・O・ライシャワー博士の言葉です。博士は、松尾芭蕉や、円仁えんにんと山寺、山形の文化や自然、人の魅力を紹介し、山形は、「もう一つの日本」と言っています。それは、自然の中に点在する小都市に快適な生活空間があり、日本の本来の姿を思い出させる美しいところであると記しております。

“私は強く言いたいのです。山形を良い例として「もう一つの日本」を見落としてはならないと。将来において自然と人間が健全なバランスをとっている、そのような「もう一つの日本」に日本全体がなることを望みます。”

山形は将来の日本のあるべき姿だという、博士のメッセージは、山形にとってかけがえのないものと言えます。

エドウィン・O・ライシャワー博士は東京に生まれました。ハーバード大学教授で、慈覚大師じかくだいし円仁えんにん(山寺立石寺の開祖)の研究で、博士号を取得、ケネディ大統領の要請を受け、日本人の妻、ハル夫人(松方正義元首相の孫)と共に、親日家の駐日米国大使として活躍しました。

ライシャワー博士が書き綴った『山形－山の向こうのもう一つの日本』は、1988(昭和63)年、山形市の市民グループ「風」(代表:田中裕子氏)の依頼により、英文による山形紹介本『YAMAGATA－The Other Side of the Mountain』に寄稿されたものです。



山形—山の向こうのもう一つの日本

日本はある意味で2つの違った国で成り立っています。一つは、巨大な工場や切れ目なく続く都市、そして東京一帯から北九州まで延々と続く高速道路から成り立っています。この意味での日本は、近年他の国々に知られるようになりましたが、たいてい魅力的ではありません。生活環境が制約されていて快適ではありません。自然自体も、人間の圧力によって無慈悲にも脅かされてきています。

ところが、このおびただしい主要地域とは遠くない所に、もう一つの日本が存在するのです。そこには、果てしなく続く山脈や大森林が広がり、そしてあちこちに点在する村や町や小都市の住民にとって、とても快適な生活空間があります。日本の本来の姿を思い出させる美しいところです。

それは、松尾芭蕉が300年前にかの有名な旅行で山形を訪れた時に目に映ったものであり、私自身が20年以上も前に山形に旅した時に感じたものです。山形が過去の日本であるばかりでなく将来の日本であると共に発展の余地があり、しかもその発展には自然と人間の喜ばしい均衡を決して損なうことのないものであって欲しいと私は望んでいます。

山形の位置する日本海側の気候は、暖かい時期には太平洋側とほとんど変わりません。しかし、冬においては著しい差があります。シベリアからの季節風は日本海側を横切るときに湿気を吸収し、山脈の西側に多く雪を降らせます。そこがかの有名な『雪国』です。冬期間常に5～6フィート（150～180cm）の雪が積もっています。

私はこの「もう一つの日本」に属する山形を訪ねるにあたり、あえて晩冬を選びました。トンネルを抜ける短い線路は、私を太平洋の乾いた地面や太陽のまぶしい空から、雪に埋もれた冬の不思議な国山形に連れていってくれました。

私には、ほんの一瞬のうちに世界の半分を旅したかのように感じられました。山形の人は雪のことを言い訳し、当惑しているように思われました。しかし、私にはすばらしいことに思われました。雪は山々や広大な山形の自然の美しさに、さらに素敵な魅力を与えてくれているのですから。私の山形への関心は、言うまでもなく、自然の美しさに留まりません。

私の学者としての経歴のはじめに、円仁（慈覚大師）の日記の翻訳や研究に多くの年数を費やしました。円仁は日本の僧侶で、9世紀に10年にわたる中国留学の間、日記を書き続けたのです。後に円仁は山形に寺を築き、その遺品は山形の歴史的財産になっているのです。もちろん、それらは私にとって興味深いものです。

山形の人々もまた魅力的です。外国人があまり訪れないので人々は外国人の訪問客には新鮮な気持ちで親切にしてくれます。

私は友人から日本でどこを見るべきかと尋ねられると、きまって踏みならされた道から一步はずれてみるように勧めます。もちろん、東京や大阪などの大都市は日本の縮図であるから見るべきであるし、日本の歴史を残す京都や奈良のようなところも見逃せません。しかし、私は強く言いたいです。山形を良い例として「もう一つの日本」を見落としてはならないと。将来において自然と人間が健全なバランスをとっている、そのような「もう一つの日本」に日本全体がなることを望みます。

1988.3.1 エドウィン・O・ライシャワー（日本語訳：ハル・M・ライシャワー）



ライシャワー博士御夫妻立石寺来訪

(2) ライシャワー博士が研究した慈覚大師円仁と山寺

ライシャワー博士は東京帝国大学（現東京大学）での研究活動の博士論文に「円仁」を選んでいました。慈覚大師円仁は838～847年まで、日本から中国に留学しており、その時書いた日記をライシャワーは英訳しています。

山寺は、860年に慈覚大師円仁によって開山されており、そして、その山寺には慈覚大師円仁の霊も祀られています。その山寺が一望できる芭蕉記念館敷地内に「山形—山の向こうのもう一つの日本」の碑文が建立されています。



慈覚大師円仁が開山した山寺全景



Currently, Yamagata Prefecture is telling others about the good points of Yamagata with the catchphrase “Another Japan.”

“Yamagata—the other side of the mountain” are the words of Edwin O. Reischauer, former U.S. ambassador to Japan. He highly appreciated Yamagata as a place which “still maintains a healthy balance between man and nature,” and people in Yamagata are proud of this.

Reischauer is also known all over the world as a researcher about Ennin, or Jikaku Daishi, who founded Yamadera Risshaku-ji Temple. Ennin is enshrined at Yamadera, and the words “Yamagata—the other side of the mountain” are engraved on the stone monument which stands in the Yamadera Basho Museum grounds. From there, you can see the whole view of Yamadera.



イザベラ・バード (Isabella Lucy Bird, 1831年~1904年) は、イギリスの女性旅行家、紀行作家。明治時代の東北地方や北海道、関西などを旅行し、その旅行記 "Unbeaten Tracks in Japan" (日本語題『日本奥地紀行』『バード 日本紀行』) を書いた。(ウィキペディアより)



川西町下小松古墳群からの米沢盆地 (川西町) 眺望風景



現在の南陽市鳥上坂と白竜湖風景とバードが歩いた鳥上坂 (高橋由一石版画) 山形県立図書館所蔵

3 イザベラ・バードが見た山形

(1) アジアのアルカディアと^た称えられた米沢盆地

イザベラ・バードの山形県における最初の旅は、置賜地方の「十三峠」越えの旅でした。その旅のほぼ半分が土砂降りの中の移動で、苦難をくぐり抜けてようやく辿り着いたのが、米沢盆地でした。「十三峠」最後の諏訪峠を下ったバードは、川西町小松の町を含む米沢盆地を気に入り、次のように表現しました。

コラム 6

イザベラ・バードが歩いた山形路

北日本旅行のバードが山形県への最初の一步を踏み出したのは、「十三峠」への道でした。新潟県から玉川 (小国町)、手ノ子 (飯豊町) を経て小松 (川西町) に進みました。吉田、洲島、赤湯を通り、白竜湖を見ながら鳥上坂 (南陽市) を歩き、米沢盆地を満喫しました。

その後、上山を通り、近代化が進められた山形に入りました。山形の街を堪能した後は、天童、東根、村山、尾花沢、新庄に入り、山形の旅の最後は金山町となり、秋田へと向かいました。



米沢の平野は、南に繁栄する米沢の町があり、北には^{とうじ}湯治客の多い温泉場の赤湯があり、まったくエデンの園である。〈鋤で耕したというより、鉛筆で描いたように〉美しい。米、綿、^{あいら}とうもろこし、^{たばこ}煙草、^{あひ}麻、^{なす}藍、^{すいか}大豆、^{あんず}茄子、くるみ、水瓜、きゅうり、柿、杏、ざくろを豊富に栽培している。実り豊かに微笑する大地であり、アジアのアルカディア (桃源郷の意) である。自力で栄えるこの^{ほうやく}豊沃な大地は、すべて、それを耕作している人びとの所有するところのものである。(中略) 美しさ、勤勉、安楽さに満ちた魅惑的な地域である。山に囲まれ、明るく輝く松川 (最上川) に灌漑されている。どこを見渡しても豊かで美しい農村である。

「アルカディア」というのは、ギリシャに実在する地域名で、ギリシャ神話世界の神々の故郷の一つとされ、古くから、憧れを込めた「牧歌的理想郷」の代名詞として使われました。アジアのアルカディアは米沢盆地を指した表現で、米沢盆地の北端に位置する「ハイジアパーク南陽」には、バードの記念コーナーが併設されています。



ハイジアパーク南陽の「イザベラ・バード記念コーナー」

(2) 美しい風景のある温泉場上山市

当初、赤湯温泉に宿泊するつもりだったイザベラは、余りに多くの宿泊客でにぎやかすぎたため、急きよ歩を進め上山温泉に泊まっています。バードは上山の町の印象を次のように記しています。

上山の町は、楽しい家々に庭園があり、美しい風景のある温泉場で、旅館のもてなしに感動し、清潔で日本で最も空気がからりとしており、町が心地よく横たわっているところである。

(3) ほれほれとして見たくなる地方天童市

初代県令三島通庸^{みしまみちつね}による近代化政策が進められ、文明開化最先端の町、県都山形に滞在した後、天童に向かいました。

当初は、天童に宿泊予定でしたが、天童の宿屋が「お蚕様」^{かいさま}で満員（当時は旅人よりも蚕が大事にされていた）で、楯岡に向かうことにしましたが、天童の町については次のように記しています。

山形の北に来ると、平野は広くなり一方には雪を戴いた^{いた}すばらしい連峰が南北に走り、一方には側面にところどころ突き出た断続的な山脈があり、この楽しく愉快的な地域を取り囲んでいる。ほれほれとして見たくなる地方で、多くの楽しい村が山の低い裾野に散在している。温度はただの70度（摂氏21度）で北風であったから、旅をするのは特に愉快であった。

(4) ロマンチックな雰囲気のある金山町

新庄市から国道13号線を北上し、上台峠を越えると突然目の前が開け、金山の幻想的な風景に思わず感嘆の声がもれます。バードも同じ感動を覚えたのでしょうか、金山入りした時のことを次のように記しています。



イザベラ・バードが目にしたと思われる金山町の風景

今朝、新庄を出てから、険しい尾根を越えて、非常に美しい風変わりな盆地に入った。

ピラミッド形の丘陵が半円を描いており、その山頂までピラミッド形の杉の林で覆われ、北方へ向う通行をすべて阻止しているように見えるので、ますます奇異の感を与えた。

その麓に金山の町がある。ロマンチックな雰囲気のある場所である。

私は正午にはもう着いたのであるが、一日か二日ここに滞在しようと思う。駅通にある私の部屋は楽しく心地よいし、駅通係はとても親切であるし、しかも非常に旅行困難な地域が前途に横たわっているからである。



Isabella Bird was an English traveler from the UK. During the Meiji period she traveled through Tohoku, Hokkaido and Kansai, and wrote a book about this journey. According to the book, she came from Niigata to Kawanishi Town by crossing the Jusan-Toge pass. Passing through Nanyo City, she visited cities, towns and villages located along the Route 13. She ended her trip to Yamagata by visiting Kaneyama Town.

Bird wrote about the natural beauty of Yamagata, the scenery of the towns and villages, and people's wonderful way of living there. She was impressed to see the Yonezawa Basin, and called it "an Asiatic Arcadia." She described Kaminoyama as "a clean, dry place," Tendo as "as cheerful and pleasant a region as one would wish to see," and as for Kaneyama, she said it "lies in a romantic situation." In each city, town, and village she visited, monuments were built in memory of Isabella Bird's visit and her admiration for them.

県内にある イザベラ・バード記念碑



川西町埋蔵文化財資料展示館郷土館 1985(昭和60)年



上山市月岡公園 2004(平成16)年



天童市舞鶴公園 2003(平成15)年



金山町金山小学校正門 1977(昭和52)年

1章 生き方を支える山形の精神文化



1 出羽三山と山形の精神風土

コラム 7

蜂子皇子と出羽三山の開山

出羽三山の開山は1,400年余前の593(推古元)年と言われています。第32代崇峻天皇の御子である蜂子皇子が、聖徳太子の勧めにより宮中を逃れ、越路(北陸道)を下り、能登半島から船で海上を渡り、佐渡を経て由良(現鶴岡市)の浦に辿りついたところ、三本足の大きな鳥が飛んできて、羽黒山へ導いたと言います。

蜂子皇子はそこで難行苦行の修行を積まれると、ついに羽黒の大神「伊氏波神」のご出現を拝し、羽黒山頂に社を創建され、その後月山、湯殿山を開かれたそうです。これが、羽黒山に伝わる開山の由来です。

蜂子皇子は、五穀の種子を出羽国に伝え、人々に農耕を教え、産業を興し、治病の方法を教え、人々のあらゆる苦悩を救うなど、幾多の功徳を残されたそうです。全て民の苦悩を能く除くという事から能除太子と称され、91歳で薨去されました。



蜂子皇子御尊影
(左下が金剛童子、
右下が除魔童子)

(1) 出羽三山信仰と「三関三渡」(生まれ変わり)の旅

出羽三山は、山形県の中央にそびえる月山(1,984m)・羽黒山(414m)・湯殿山(1,504m)の総称であり、月山を主峰として羽黒山と湯殿山が連なる優美な稜線を誇っています。「西の伊勢参り」、湯殿山を中心とした「東の奥参り」と言われるほど多くの人たちの信仰がありました。地域によっては、15歳になった男子はそれをしなければ一人前と認められないほど、出羽三山詣は重要とされていました。

日本列島においては古くから、山や川、木や石、動物などを神そのものとする考えや、山や川が神の住処であり、神によって生み出されたものとする考えがあったようです。また人間は神の宿る山から魂を授かり、この世に生を受けて、死後その山へおもむき、神として鎮まるとも考えられていました。高くて形のよい山は、豊かさの源であり、魂の鎮まる地であると同時に、神聖な場所として、麓の人々から敬われていました。

羽黒修験道では三山の特徴から、羽黒山は現在の幸せを祈る山(現在)、月山は死後の安楽と往生を祈る山(過去)、湯殿山は生まれ変わりを祈る山(未来)と見立てられました。生きながら若々しい生命をよみがえらせることができるというその信仰は、江戸時代に庶民の間で現在・過去・未来を巡る「生まれ変わりの旅」(羽黒修験道では「三関三渡の旅」と言う。)となって広がりました。

(2) 歩いて感じる神秘の山々

羽黒山を訪れると、日本最長級の2,446段の石段と、その両側に立つ樹齢300~500年の杉並木に外界とは異なる空気を感じるでしょう。国宝「羽黒山五重塔」の素木づくりの凛々しい姿を拝み、見上げるほどの杉の古木に囲まれながら自然の畏怖を体感できます。一段一段祈りを捧げながら石段を登った先には、東北最大級の茅葺屋根建造物である荘厳な三神合祭殿が参拝者を待っています。

標高1,984mの月山山頂には月読命を祀る月山神社があります。夏になると、山開きを待ちわびた人々で山が賑い、参拝者の列が山頂の神社まで連綿とつながります。月山はミヤマウスユキソウやリンドウ、クロユリといった高山植物の宝庫でもあり、美しい花畑が広がる様はさながら極楽浄土のようです。



「湯殿山道中略図」賑わう山形市七日町の背景に出羽三山（山形美術館所蔵）



埼玉県志木市
柳瀬川の湯殿山碑



出羽三山詣

出羽三山信仰において、最も神秘性をもって語られる湯殿山は頂部からお湯の湧き出る赤色の巨岩を御神体として祀ります。そして、山自体が神聖なものとして崇拝されるため、参拝者は素足になって御神体を拝みます。羽黒山から月山、そして湯殿山へと山から山へ参拝を続け、ようやく目にする御神体は、生涯忘れられない光景として人々の目に焼きつきます。東北の自然に惹かれてこの地を訪れた松尾芭蕉や斎藤茂吉は、その感動を句や歌に詠みました。また、湯殿山麓の寺院には全国的にも珍しい即身仏が安置され、今なお地域の人々の信仰の対象となっています。

(3) 出羽三山信仰が育む精神風土

山形に生まれた私たちは山や海に囲まれて生活しています。そして、豊かな自然を目にし、その歴史や文化にふれるたびに、先人たちが大切にしてきた「厳しい自然を生き抜く知恵」「自然を崇拝する心」「祖霊を崇拝する心」を感じることができます。

山形の人は実直で、律儀で、勤勉であるし、また、やさしく、思いやりがあり、おもてなしの心を持っているとも言われます。これは、山形が誇るべき精神風土と言っても過言ではないでしょう。

山形の即身仏(ミイラ)～生と死に対する精神風土が見える世界～



鉄竜海上人の即身仏

- ① 鉄門海上人（注連寺・鶴岡）
- ② 真如海上人（大日坊・鶴岡）
- ③ 本明海上人（本明寺・鶴岡）
- ④ 鉄竜海上人（南岳寺・鶴岡）
- ⑤ 忠海上人（海向寺・酒田）
- ⑥ 円明海上人（海向寺・酒田）
- ⑦ 光明海上人（蔵高院・白鷹）
- ⑧ 明海上人（個人蔵・米沢）

出羽三山山伏修行体験塾

山伏とは修験者のことであり、その修行は死と再生（＝生まれ変わり）の行であり、十界の行（＝断食・水絶ち・抖そう・南蛮いぶしなど）と厳しいものです。山伏修行体験は、白装束を身にまとい、俗世界から離れて修行の一端を体験し、出羽三山の自然、そして修験道を学びます。いわば、自然と一体となって自然のエネルギーを体内に吸収すること、自然と人間との共生を体感すること、そして、日本古来からの山伏の精神文化を実際に体験することで自分自身を見つめ直す事として行われています。



出羽三山山伏修行体験

コラム 8

ミシュランの最高格付けランク 「羽黒山参道の杉並木」

レストランの格付けで知られるミシュランの観光ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン2009」（仏語版）の日本を代表する観光地の紹介の中で、樹齢300年以上の杉並木が立ち並ぶ姿が荘厳の鶴岡市の「羽黒山参道の杉並木」が、最高ランクの格付け・三つ星★★★＝「わざわざ訪れる価値のある場所」に選ばれています。

この他にも、二つ星★＝「近くにいれば寄り道をして訪れるべき場所」に、羽黒山の「三神合祭殿」、国宝「羽黒山五重塔」、「齋館」、鉄門海上人の即身仏が眠る「注連寺」が選ばれました。



羽黒山参道の杉並木



In Yamagata, there are many mountains well known to the Japanese people. Among them, the “Dewa Sanzan” (Three Mountains of Dewa): Mt. Gassan, Mt. Haguro and Mt. Yudono, in particular, have been visited by many people since olden days. People believe that Mt. Haguro stands for the world of the present, Mt. Gassan for that of the past, and Mt. Yudono for that of the future. Therefore, many people have traveled through the Dewa Sanzan by starting from Mt. Haguro, practicing *shugyou* (ascetic training) on Mt. Gassan, and being spiritually reborn at Mt. Yudono.

At Mt. Haguro, there are 2,446 stone steps, one of the longest sets in Japan. On both sides of the steps stand magnificent cedar trees, each about 500 years old. On the way to the top, there is the *gojumoto* (five-storied pagoda) that is designated as a national treasure. In summer, you see beautiful mountain plants everywhere on Mt. Gassan. On Mt. Yudono, many people pray in bare feet to the huge sacred rock.



黒川能野外能楽「水焰の能」(7月)



王祇祭の豆腐焼き

蠟燭能の後の役者と客の交流会

黒川能・春日神社旧例祭「王祇祭」(2月1日~2日)

2 受け継がれてきた 祈願の舞

コラム 9

民俗芸能の宝庫「真室川」

秋田と山形の一部に伝わる神楽の一種に番楽があります。番楽は、約350年以上前に修験者が伝えたものとされており、県内には6つの番楽が残されています。真室川町には今も平枝・釜淵・八敷代の3地区に残されており、地区の祭りの時に神社に奉納する神事として行うのが基本とされています。番楽は、未来に伝えたい山形の宝であり、大変貴重な伝承文化になっています。

また、真室川町にはこの番楽だけではなく、昔話や童歌、囃子など多くの伝承文化が残されています。この伝承文化を受け継いでいくため、地域一体となった取組みが行われています。



真室川町「平枝番楽」

(1) 霊峰月山の麓で500年以上も続いた民俗芸能 —黒川能—

①黒川能の歴史と魅力

黒川能は、春日神社の「神事能」として500年以上もの長い間、鶴岡市櫛引地区の黒川の住民の手によって受け継がれてきました。黒川の皆さんが能役者で、囃子方を含め、子どもから長老まで約150人、世襲によって受け継がれます。1976(昭和51)年5月には国の重要無形民俗文化財に指定されました。黒川の地区によって上座、下座に分かれ、それぞれ能座を作っています。上座、下座は競い合い、また助け合い、今日まで途切れることなく残ってきました。

②黒川能の心「王祇祭」(2月1日~2日)

鎮守である春日神社の年4回の例祭に、神事として黒川能が奉納されますが、中でも天地凍てつく旧正月(2月1日~2日)に行われる「王祇祭」は最も重要な祭りとなっています。また、「王祇祭」は別名「豆腐祭」とも言われます。祭事に関わるすべての仕事は、「世帯持ち」と呼ばれる当屋に頼まれた4名の男女の責任で進められます。食材の準備や豆腐焼きなど1年をかけて準備します。王祇祭と黒川能は、お互いに命を与え合い支え合っています。そして黒川の人びとの生活サイクルは、王祇祭を中心にめぐっています。祭りと能と生活が一体となった地域、それが黒川であり、黒川能の里です。

③黒川能野外能楽「水焰の能」(7月最終土曜日)

夏に野外で行われる「水焰の能」は故郷の豊かな実りと人々の招福息災を祈るものです。「水面に映し出される能楽」と「かがり火のゆらめき」が能役者の洗練された能舞と融合し、見る者を幻想的な世界に誘います。

黒川能の多くが神への奉仕と奉納という形で社殿等で演じられている中、定期的に行われている野外演能は「水焰の能」だけです。

④黒川・蠟燭能での交流会(2月第4土曜日)

2月末には、春日神社内の能舞台で蠟燭の灯りが揺らめく中、幽玄の能が舞われます。特にこの時は、第2部の交流会で、凍み豆腐煮などの郷土料理や樽酒を囲みながら、お客様と能役者や地元ボランティアスタッフとの交流で盛り上がります。



遊佐町蕨岡「杉沢比山」



谷地どんが祭り「林家舞楽」



安久津八幡宮「延年の舞」三射舞と姥舞

(2) 鳥海山信仰が育んだ蕨岡の歴史と文化－杉沢比山－

「杉沢比山」は、鎌倉時代から鳥海山入峰修行の二之宿であった杉沢集落に伝わる番楽で、鳥海山を道場とする修験者によって伝えられ、1978（昭和53）年5月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。毎年8月6日（仕組）、15日（本舞）、20日（神送り）の3日間、杉沢熊野神社境内で舞が奉納されています。

番楽とは修験者達によって演じられてきた神楽で、能楽が大成する以前のいろいろな芸能の要素を含んでいます。舞台は拝殿前向かって右側の神社境内に組み、夜遅くまで笛、太鼓、銅拍子、小太鼓等の囃子の音が響き、舞手は、ほとんど無言で謡に合わせて踊ります。

(3) 1,200年の伝統を受け継ぐ舞楽－林家舞楽－

「林家舞楽」は、河北町の谷地八幡宮宮司林家に伝わる舞楽で、1,200年の伝統を持ち、1981（昭和56）年1月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。昔は山形各地で舞楽が行われていましたが、現在は谷地八幡宮の秋の例祭（9月14日・15日）に同社境内で、寒河江市の慈恩寺の春の法会（5月5日）に同寺山門に設けられた舞台で舞われています。

(4) 安久津八幡宮「延年の舞」－安久津延年－

高島町の安久津八幡神社の秋の例大祭では、およそ1,000年の歴史を持つ「延年の舞」を地元の小学生が気品高く、古式豊かに舞います。

延年とは、平安末期から室町時代に栄えた寺院芸能の一種で、法会・法要などで舞ったものと伝わる舞楽です。神社へ奉納する舞であるため、地元では神楽舞として継承され、2005（平成17）年3月に県の無形民俗文化財に指定されました。

舞楽は全部で7曲あり、「姥舞」などの2曲は舞師が舞いますが、「三射舞」などの5曲は稚児舞とも呼ばれ、地元の小学生の男児が舞います。

コラム 10 奇習「アマハゲ」 遊佐の小正月行事

「アマハゲ」とは、遊佐町吹浦地区の滝ノ浦・女鹿・鳥崎集落に伝わる「遊佐の小正月行事」の一つで、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

「ケンダン」という蓑を身にまとい、鬼の面をつけた若者が奇声を上げながら家々に上がり込み、小さい子どもを抱き上げて脅かしたり、玄関に投げつけたりして暴れます。一方、アマハゲはお年寄りの肩をもむなど優しさも併せ持ち、一家の当主は酒と餅を用意して歓待します。

冬季間、仕事をしないいろいろにあたってばかりいると手足にできるという火だこ「あまみ」をはぎ取る「あまみはぎ」が転じたものとされ、怠け心を戒める行事として江戸期に始まったと考えられています。



There are many folk performing arts that have been handed down from generation to generation in Yamagata Prefecture. In Kurokawa, Tsuruoka City, their original *noh* has been performed for more than 500 years. Warabioka, Yuza Town, has an original *bangaku* called the “Sugisawa Hiyama Dance.” *Bangaku* is a type of *kagura* (shinto song and dance dedicated to the gods) performed by the ascetics of Mt. Chokai.

Also in Fukura, Yuza Town, they have an event called “Amahage.” At this event young people disguised as *oni* (ogres) visit houses. They say it began in order to warn children against laziness. In Yachi, Kahoku Town, they have the “Hayashi-ke *Bugaku*” (Hayashi Family Court Dance). This is *gagaku* music accompanied by dancing, and it is one of the four greatest *bugaku* in Japan. *Gagaku* is one type of traditional Japanese music, and it is said to be the oldest form of orchestra in the world.



西ノ前遺跡（山形県舟形町）



西ノ前遺跡の場所（赤丸）



西ノ前遺跡発掘作業の様子（平成4年舟形町）



「縄文の女神」の出土状況



上空から見た西ノ前遺跡

3 国宝土偶 「縄文の女神」 —美と祈りの世界—

コラム 11

山形の国宝

2011（平成23）年まで、山形県内では、致道博物館所有の「太刀 銘信房作」、
「太刀 銘真光」、出羽三山神社の「羽黒
山五重塔」、米沢市所有の「紙本金地著
色洛中洛外図」、上杉家文書が国宝と
して指定されていましたが、2012（平成
24）年に土偶「縄文の女神」が国宝に指
定され6件となりました。

国宝に指定されている土偶は全国で5
体あり、写真左から、「仮面の女神」（長
野県茅野市）、「中空土偶」（北海道函館
市）、真ん中に堂々と位置しているのが
山形県の「縄文の女神」です。その右隣
が「合掌土偶」（青森県八戸市）、そして
「縄文のビーナス」（長野県茅野市）です。



VR作品「DOGU - 国宝になった女神-」より

(1) 国宝土偶「縄文の女神」の価値

1992（平成4）年に舟形町西ノ前遺跡から出土した大形の土偶「縄文の女神」が、2012（平成24）年9月6日に、国宝に指定されました。「縄文の女神」は、4,500年前の縄文時代中期に作られた現代彫刻にも通じるフォルムで、国の文化審議会は「縄文時代の土偶造形の一つの到達点を示す優品として代表的な資料であり、学術的価値が極めて高い」と高く評しました。また、高さは45cmを誇り、完全な形の土偶としては国内最大となります。遺跡からは他の土偶の破片も見つかっていて、この破片47点（残欠土偶）もあわせて国宝になりました。

これまで、フランス、中国、ドイツ、イギリスの各国で展示され、日本の縄文時代の逸品として広く知られています。フランスの展示では、当時のシラク大統領がこの土偶を高く称賛しました。土偶は「縄文時代の人々の精神文化が生み出したもの」と言われ、その目的は、安産や豊穡への祈り、生命の再生を願うものと考えられています。「家族が病気やけがをしないように」「食べ物がたくさんとれますように」という願う気持ちなども込めて作られたのかもしれませんが、また、壊すことを前提に作られている土偶も多くあり、壊して、ムラの中に廃棄する行為を「よみがえり」の象徴とする考え方もあります。

◇西ノ前遺跡について

西ノ前遺跡は、奥羽本線J R舟形駅の西約300mにあります。遺跡のすぐ北側には鮎釣りで有名な小国川、西側には最上川が流れ、周りは豊かな森が広がっています。1992（平成4）年の発掘調査で縄文時代中期、今から約4,500年前の集落と判明しました。竪穴住居跡9、袋状の穴60、沢状のくぼ地などが見つかっています。くぼ地は東西36m、深さ2.5mの落ち込みで、そこから整理箱で約750箱分の土器・石器が出土しました。「縄文の女神」もこのくぼ地から5つに割れて見つかっています。

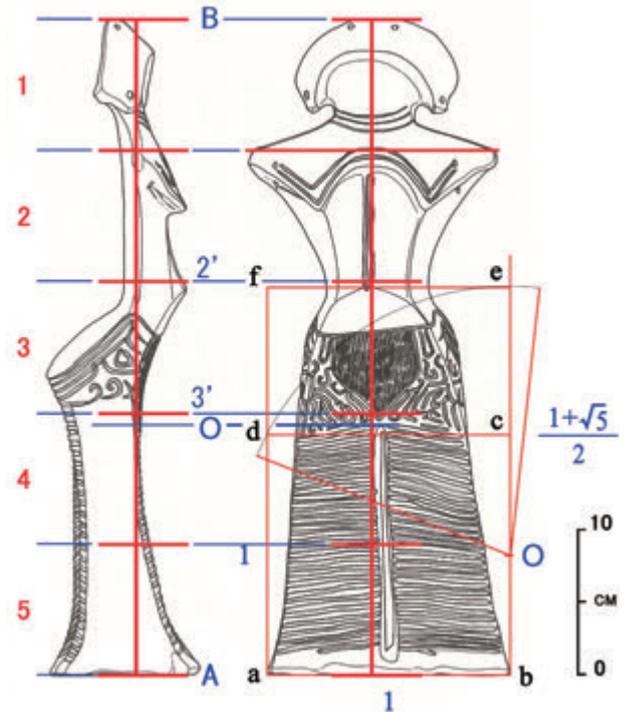
出土品には、調理に使用する縄文土器、装飾品として使用されたと考えられる耳飾り、狩りや調理で使う石器などがありました。どれも当時の生活の様子を生き活きと語るものです。



縄文の女神（正面）

縄文の女神（右側面）

縄文の女神（背面）



縄文の女神5等分と黄金比分割

—西ノ前土偶の美しさについての—考察（安部実）より—

（2）縄文の女神、その美しさの秘密

「縄文の女神」は学術的な価値とともにすらりとした美しさ、姿も注目されています。まず、正面ですが、張り出した胸、腹部そして後ろに突き出した尻など、表面の丁寧な調整とともにシャープな造形は、見た者を魅了する力があります。次に、胴部は板状で薄く作られ、ややのけ反っています。シャープに突き出した腹部から尻にかけて絶妙なバランスを保持しながら、安定的な角柱状の脚部へと流れていきます。最後に背面ですが、全体を4度ほど傾け、左右の脚を前後に少し開いています。頭部の穿孔や背中の背骨など均整のとれた表現がされています。

また、日本情報考古学会誌（Vol.18 no.12,2012）に掲載されている「西ノ前土偶の美しさについての—考察（安部実）」では、縄文の女神の美しさについて次のように考察しています。

土偶を主に正面から見て、その造形の中に均整（バランス）良い比率がどのように取り入れられているのか焦点を当ててきた。基本には身長が5等分されていることがあり、これに協応するように円弧の意匠があり、黄金比分割（1：1.618 芸術・建築・デザインなどの分野で美しいバランスを生み出すものと考えられてきた比率）が潜んでいることがわかった。これらは均整ある比率を持つものは安定して美しく見えるということであると考えられる。

コラム 12

ウォッチング「縄文の女神」

土偶を真上や真下から見てみるといようなことが推察できます。

真上から見ると、頭や肩に小さな穴が開けられています。鳥の羽や草花などを飾ったのかもしれませんが。

真下の足の裏側には、穴が開けられ、竿などにさして象徴として高くかざしたのかもしれませんが。



真上からの様子



真下からの様子

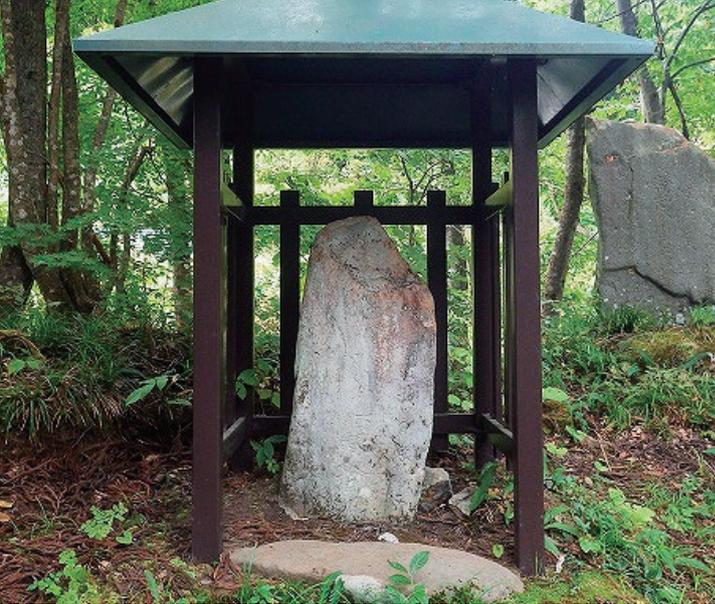
※国宝土偶「縄文の女神」は県立博物館に常設展示されています。



The Nishi-no-mae site is located in Funagata Town, Yamagata. It is a 4,500-year-old site, from the Jomon period. In 1992, a *dogu*, or clay figure, in the shape of a very beautiful woman was discovered there. It was named the “Jomon-no-Megami” (Goddess of Jomon), and was designated a national treasure on September 6, 2012. It was exhibited in France, China, Germany, and the UK, and is known to people all over the world.

It is thought that people of the Jomon period made *dogu* to pray for the safe delivery of a baby, good harvests, and rebirth. They prayed that their family would not suffer from injury or disease, and that they would have lot of food.

Jomon-no-Megami is a wonderful *dogu* that is important for studies about the period. At the same time, it attracts many people with its beautiful slender figure.



米沢市入田沢塩地平の草木塔（1780年建立—最古の草木塔）



草木塔の里 田沢マップ（米沢市田沢地区）

4 山形人の心が見える世界

コラム 13 草木塔のこと

「ふるさと山形の信仰を探る」千歳 栄
（平成8年7月11日NHKラジオ放送より）

立石寺で有名な山寺に、山形市が数寄屋建築の山寺芭蕉記念館とその隣接地に民間の方が山寺風雅の国という施設を建設した時に、私はその建築を担当させていただきました。敷地に立っていた樹木のうち、どうしても切らなければならないので、止むを得ず切った樹木が数本ありました。その切った樹木の霊を供養したいと考え、施主の方をお願いして、草木塔を建立させていただきます。

山形県には、草木の恵みへの感謝と神秘への畏敬の念から草木塔を建立する風土がありました。この草木塔は、私たち山形県民の精神的モニュメントではないかと、私は思っております。現代は科学技術が急速に発展しておりますが、その反面、自然破壊が地球規模で進み、自然を保全し、自然と人間との関わり方が非常に難しい時代であるだけに、草木塔の思想は、人間と自然が共生するための一つの示唆を与えてくれると思うのであります。



（1）草木塔が語りかける自然と人間の共生

草木塔は、「草木供養塔」「草木塔」などという碑文が刻まれている塔であり、ほとんどが採石された状態のままの自然石です。草木塔には、自然を畏れ敬い草木に感謝して生きてきた昔の人々の生活が刻まれており、地域を受け継いできた多くの人々の歴史が刻まれています。

江戸時代の1780（安永9）年に建立された米沢市入田沢塩地平の草木塔は、現存する草木塔の中で最古のものとされ、1997（平成9）年には、米沢市の有形文化財に指定されました。しかし、山間部の自然環境下で、200年余りの間厳しい風雪等に晒されてきた結果、草木塔（石造物）の風化が進み、塔の左上部の欠落や多数の亀裂が塔全体に生じていることから、現在は、屋根をかけて保存しています。

田沢地区は昔から林業がとても盛んなところでした。御林と呼ぶ米沢藩（上杉氏）の御料林を抱え、パイタ（薪材）を川を使って米沢城下へ送る大規模な「木流し」が、江戸時代から昭和初期まで続いていたのです。田沢の人々にとって、山仕事と木流しは暮らしの中でなくてはならないものであり、昔から草木（樹木）に対する感謝の心、自然の力に対する畏敬の念を抱いてきました。

草木塔の総数は全国で184基（2013年）、江戸期の草木塔は34基で、そのうち32基が置賜地方にあり、中でも草木塔発祥の地とされる田沢地区には、江戸期に建てられたものが10基あります。

（2）世界に伝える「草木塔の精神」

～山形大学の取組み～

2007（平成19）年8月29日、山形大学の小白川キャンパス人文学部棟の南側に草木塔の碑が建てられました。碑文は「草木塔の心 自然と人間の共生」で、「心」を付した碑文は全国でも初めてのことです。

山形大学は、山形県置賜地方を中心に江戸時代から信仰された独自の文化である「草木塔」は、自然を畏れ敬い、自然の恵みに感謝し、草木の命さえいとおしむもので、山形の風土文化を特徴づけるものとし、その上で、この草木塔の精神を全国に、そして、世界に広めていきたいと考え、様々な活動に取り組んでいます。



山形大学小白川キャンパスの「草木塔の心」の碑



天童市若松寺のムカサリ絵馬



日本で初めての給食（鶴岡市大督寺内私立忠愛小学校）
メニュー（おにぎり・塩びき・煮びたし）

（3）親の深い愛情が見えるムカサリ絵馬

「ムカサリ絵馬」は、若くして亡くなった子どものために親が婚礼の儀式（ムカサリ）の絵を作り、寺社に奉納したものです。「冥婚」「死後婚」と言われているもので、天童市若松寺の他に山形にはムカサリ絵馬奉納の寺社がいくつもあります。

交通事故・戦争・病気等の理由で結婚せず亡くなった子のため、親や兄弟、親戚が描き、供養します。もちろん相手は架空の人物で、「せめて来世で幸福になってほしい、そして、今度は健康で長寿をまっとうできる人として生まれ変わるように…」という親の深い願いが込められています。また、昭和以前の絵馬は、現世で果たせなかった夢を描いたものが数多く残っていて、若松観音堂が重要文化財に指定されるまで、御堂の四面に重なるように掛けられていましたが、その後、元三大師堂下に安置、1988（昭和63）年絵馬堂を建立し、絵馬を修復し整理しました。現在は約1,300体以上あり、近年供養中の絵馬は本坊（祈祷所）に安置しています。

（4）すべての子どもを笑顔に～日本最初の学校給食～

1872（明治5）年に学制が發布され、全国に小学校が置かれることになりましたが、家庭生活が困窮して小学校に入れられない子どもも多くいました。特に山形県の就学率は当初50%に満たない状況でした。

このため貧しい子どもたちにも教育の機会を与えようと、鶴岡の寺院が宗派をこえて、1889（明治22）年に、大督寺の本堂の一部を利用して“私立忠愛学校”を開設しました。しかし弁当を持ってこられない子どもも多くいたため、無償で昼食を支給しました。この時の給食メニューは、おにぎり・塩びき・煮びたしだったということです。笑顔で給食を食べ元気に勉強する子どもたちの姿が浮かんでくるようです。

これが日本における学校給食の始まりとされています。

戦後の1947（昭和22）年になって、全国の児童300万人に対し、学校給食が開始されました。

コラム 14 心が見える方言（感謝の言葉）

- ありがとうさま（村山）
- ありがとうさん（最上）
- おしょうしな（置賜）
- もっけだの（庄内）

「ありがとう」という感謝の言葉を表す山形の方言に「もっけだの」という庄内弁があります。これは、「ありがとう」の他に、「すまねえ、わりなあ」という申し訳ない謙虚な気持ちがあるとされています。

同じような言葉に置賜地方では「おしょうしな」という言葉があります。「しょうしい」という方言は恥ずかしい、恐縮ですというような意味ですので、「おしょうしな」は「こんな大したことないことで喜んでいただいて恐縮です」「こんなに良くしていただいて恐縮します」というような意味から使われだした言葉だと思われます。

また、感謝の言葉で村山地方では「ありがとうさま」、最上地方では「ありがとうさん」と大変丁寧に言っています。「お互い様」「お陰様」「ご苦労様」の様文化は日本の精神文化でもあると言われ、山形の方言にもよく表れていると考えられます。

このように、謙虚になり、相手を思いやる気持ちを言葉に表している山形の方言は、山形の誇るべき県民性と言ってもいいのではないのでしょうか。



The people of Yamagata have given thanks to the blessings from nature since the olden days, and have made monuments called *somokuto* (grass-tree tower). Many *somokuto* can be seen in the Okitama area of Yamagata Prefecture. The *somokuto* of Iritazawa-shiojidaira in Yonezawa City is the oldest in Japan, made in 1780.

The people of Yamagata also care deeply for others. In Jakushoji Temple in Tendo City, there are many dedicated wooden plaques called *mukasari ema*. On *mukasari ema* the wedding scenes of children who died young are drawn. The *mukasari ema* hold the parents' strong wishes for their children to be happy—at least in their next life.

Tsuruoka City in Yamagata Prefecture is the place where the school lunch system started for the first time in Japan. Free school lunch was offered to children whose families were too poor to make their own *bento* lunches.

2章 母なる川「最上川」



楯山公園からの眺望

1 未来に伝える山形の宝 「最上川の文化的遺産」

コラム 15

国選定重要文化的景観

「文化的景観」は、新しい考え方の文化財であり、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの。」のことで。

(文化財保護法第2条第1項第5号)

文化的景観の中で、特に重要なものとして保護の措置が講じられているものが、都道府県又は市町村の申出に基づき、国の「重要文化的景観」に選定されます。山形県では、大江町の景観が選定されています。

(1) 大江町の最上川の文化的景観が 国の重要文化的景観に選定

山形県では、最上川を軸に、市町村とともに文化的景観保護事業を進めています。

2013（平成25）年、県内初の重要文化的景観として、大江町の「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」が選定されました。最上川舟運の河岸として発展してきた左沢には、最上川などの自然環境と、左沢楯山城跡や小漆川城跡が物語る政治的拠点としての歴史、そして舟運や農山村との流通・往来に根ざした生活・生業が結びついた、複合的で重層的な文化的景観が形成されています。

左沢の町場は、最上川舟運の中継地であり、町の西部に広がる農山村との活発な交流を背景として、月布川の河口に開けた集落でした。物資集散地という地域性に根ざした町の暮らしは、舟運安全が祈願された社寺や疍子屋台、旧家の佇まいなどからうかがうことができます。

楯山には国史跡左沢楯山城跡があります。城跡からの眺めは河川交通の要に立地していることがわかります。ここには、最上川舟唄碑が建てられており、楯山公園からの眺望は、最上川の景観を代表するものの一つとして知られています。

大江町の最上川では、「用のハゲ」や「左巻」、舟道開削跡など、舟運と関わる五百川溪谷の自然景観をみることができます。また、左沢の「百目木」や「旧最上橋」、民謡「最上川舟唄」など、川と暮らしが密接に関わって形成された風景や文化が継承されています。

(2) 最上川の文化的資産50選と写真コンテスト受賞作品

【山形の宝「最上川の文化的資産50選」写真コンテスト受賞（最優秀賞、優秀賞、奨励賞）8点】



荒砥鉄橋（白鷹町）
（撮影：佐藤正信さん）



最上川三難所三ヶ瀬（村山市）
（撮影：樽石良一さん）



古口舟番所最上峡舟下り（戸沢村）
（撮影：三浦民雄さん）



角川合流点の眺め（戸沢村）
（撮影：奥山喜久雄さん）



眺海の森からの眺め（酒田市）
（撮影：佐藤維宥さん）



漁ろう用具 最上峡（戸沢村）
（撮影：鈴木一夫さん）



玉ノ井の眺め（朝日町）
（撮影：長岡京子さん）



白鷹ヤナ公園あゆ茶屋（白鷹町）
（撮影：藤田正治さん）

舟運文化産業

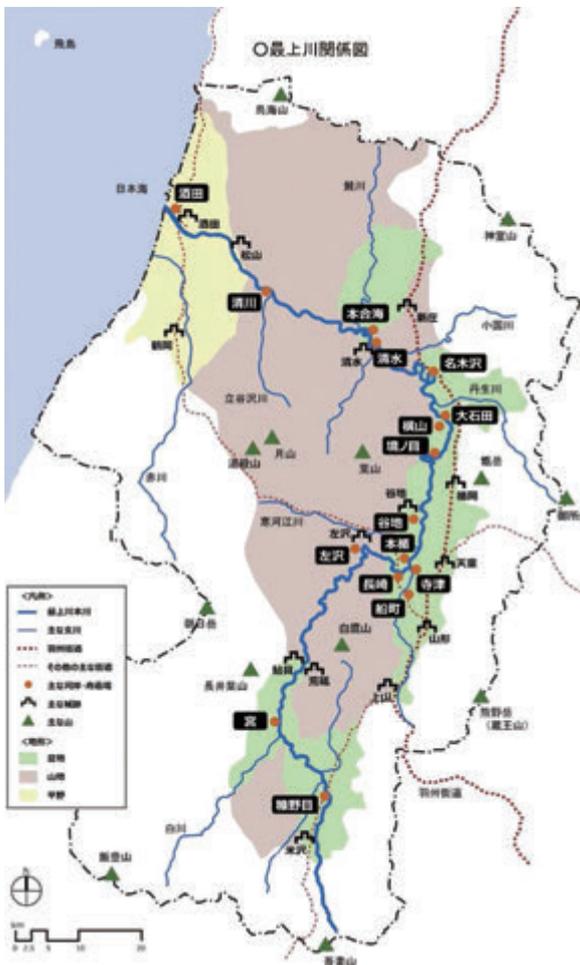
あおそ 青芋 紅花
最上川の川絵図
最上川水系の漁ろう用具

雛人形（ひな祭り）
最上川舟唄



The Mogami River flows through Yamagata Prefecture from south to north. It starts from Mt. Azuma in Yonezawa, and flows into the Sea of Japan in Sakata. Out of the rivers that flow from source to mouth within one prefecture, it is the longest in Japan. Along the river, we see many beautiful landscapes and cultural scenery.

In 2012, Yamagata Prefecture took a vote from the citizens to decide on 50 cultural assets which they want to preserve for future generations. From among them, “transportation and shipping on the Mogami River and the landscape of Aterazawa” was designated the first nationally Important Cultural Landscape in Yamagata Prefecture.



最上川の主な河岸・船着場



基点 (村山市)



三ヶ瀬 (村山市)



隼 (村山市)



黒滝 (白鷹町)



大石田河岸絵図 (大石田町東町地区所蔵)

2 最上川舟運の発展を支えた人

コラム 16

舟運の安全祈願

この絵馬は大江町巨海院が所蔵している「小鷄飼船押絵馬」です。

最上川のいたるところに舟運の難所がありました。最上川を上り下りした船乗りたちは、流域の寺社へ熱心に安全祈願をし、船絵馬を納めました。



小鷄飼船押絵馬 (大江町巨海院所蔵)

(1) 三難所「基点・三ヶ瀬・隼」(村山市)を開削した最上義光



最上義光

道路が現在のように整備されていなかった時代、最上川は便利な交通手段として活用されていました。また、人口の集中している都・江戸の穀倉地帯とされていた東北から、年貢米を輸送する交通路としての役割もありました。この最上川の重要性に注目したのが山形城主最上義光でした。義光は商業の流通を促進するために、舟運に力を入れていました。特に、最上川の三難所と言われている「基点・三ヶ瀬・隼」では、大掛かりな工事によって開削を推進し、最上川の舟運をさらに発展させました。

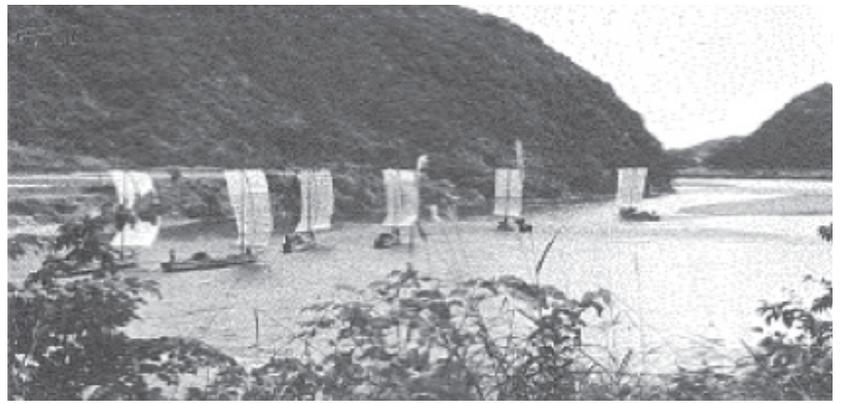
これにより村山地方だけでなく、内陸地方に産出する物産の多くが酒田港に運ばれるようになり、大石田及び酒田は、商業都市として発展を遂げました。

(2) 自費を投じて黒滝 (白鷹町) を開削した西村久左衛門

最上川の舟運を語る上で、米沢藩京都御用商人・西村久左衛門を欠かすことはできません。最上義光が山形から酒田までの舟運を整備しました。一方で、西村は、米沢から左沢までの最上川上流の舟運を整備しました。彼は、米の輸送に苦勞している米沢藩に対して、松川で船が通れない黒滝の難所を開削すれば、米沢から酒田までの水路が開け、物流が盛んになり、藩の利益は莫大なものになると申し出ましたが、財政難を理由に断られ、結局、独力(自費1万7千両)で河川整備を行いました。この水路の誕生によって、直接舟で物資の輸出入ができるようになり、米沢藩の経済や文化が大きく発展しました。



「六十余州名所図会 出羽 月山最上川遠望」
初代歌川広重（広重美術館所蔵）



◇舟運で賑わう最上川 山の内を通る小鶴飼船 1925(大正14)年(長井政太郎著 山形県交通史より)

最上川舟運を支えた船



弁財船（模型）
（酒田市立資料館所蔵）



ひらた船（模型）
（県郷土館「文翔館」所蔵）



小鶴飼船（模型）
（県立博物館所蔵）

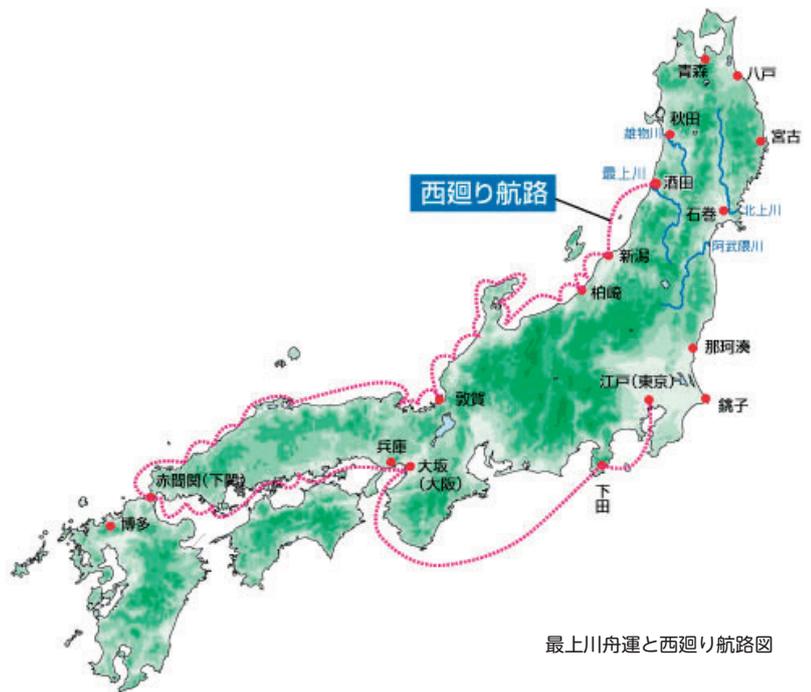
(3) 大阪・江戸に向かう西廻り航路の整備をした河村瑞賢



河村瑞賢

最上川の舟運が発達した一つの原因として、河村瑞賢かわむらざいけんによる西廻り航路の刷新は忘れることができません。江戸経済が安定してくるにつれ、人口が増加し、主食である米の不足がクローズアップされてきました。そこで米どころの多い

日本海を通る航路を整備するため、幕府の御用商人である瑞賢が派遣されました。瑞賢は苦心の末、酒田から下関経由の日本海西廻り航路を確立し、最上川を通して運ばれた物資を、安全に江戸に回送することに成功しました。これにより酒田は、日本海航路上重要な拠点として繁栄をみせ、湊町としての賑わいは井原西鶴の「日本永代蔵」で「西の堺、東の酒田」と並んで称されるほどになりました。



最上川舟運と西廻り航路図



Long ago, roads were not as good as those of today. For Yamagata, because it is surrounded by mountains, the Mogami River was the only useful means of transportation. However, the river flows fast in some places, and in others it was too shallow and rocky for rafts to go. There were two people who made efforts to change such dangerous areas into safer places for rafts.

One was Mogami Yoshiaki, lord of Yamagata Castle. He conducted large-scale improvement projects for three dangerous places on the Mogami River: Goten, Mikanose, and Hayabusa. Thanks to his efforts, rafts were then able to pass through these areas easily. The other was Nishimura Kyuzaemon, *goyo-shonin* (trader to the government) for Yonezawa Domain. He put a lot of his own money into river improvement at Kurotaki, Shirataka, to make it passable by raft.

Kawamura Zuiken, the *goyo-shonin* given special powers and sent to Sakata by the Tokugawa Bakufu (the shogunate), opened up the westward shipping route, which went from Sakata to Edo via Shimonoseki.



紅花文化を伝える「紅花屏風」左（北前船 京都紅花問屋 取引の様子）◎長谷川家寄贈・山寺芭蕉記念館所蔵

3 最上川が育んだ 鮮やかな世界 「紅の国」

コラム 17

べにばな国体で披露された振袖

1992（平成4）年第47回国民体育大会（べにばな国体）の会場は秋にもかかわらず咲き誇る紅花に囲まれました。

表彰式では、紅花で鮮やかに染め上げられた振袖をまとった女性たちがプレゼンターとして華を添えました。



べにばな国体表彰式でプレゼンターが着た
紅花染めの振袖（河北町紅花資料館）

（1）紅花屏風絵に見える紅花産業

江戸初期から栽培された山形の紅花は、「最上紅花」として京西陣の染織物に歓迎されました。上の絵は、山形の特産物であった紅花の生産のありさまを描き、その取引、運送に至るまでを一双の屏風にまとめたものです。屏風の右には、春の農家の庭先に始まり、花摘み、花団子干しまでの作業の様子が描かれ、左には問屋の荷造り、船の敦賀港入り、京都の店先までが描かれています。

右の一番右端の絵は、農家ののどかな庭先の風景で紅花の豊作を祈る意味が込められていると考えられます。満開の桜のもとで、農夫が出て、それぞれ整地や種まきの作業をしています。畦の近くには、一休み中の女性が幼児を抱いて乳を飲ませており、若い娘がかいがかいしく立ち回っています。川の上流はるか遠方の畑では、花摘み乙女たちの笠が朝日に映えて美しく散らばっています。屏風絵はいよいよ佳境に入り、右の左端は紅餅製造の場面を描いています。老若男女およそ20数名が、それぞれの持ち場を使って、いきいきと働いています。

左の屏風絵を見ると、まず、紅花問屋の庭の広場で、大人の男たちが、紅餅発送のための荷造りを行っています。かっぶくのいい旦那が、縁側に腰掛け仕事の指示をしています。この紅餅は大石田まで陸送しそこから最上川を舟で下り、酒田港で大船に積み替え、敦賀に入り京都へ輸送されました。屏風絵中央には、屋号を印した紅花問屋の船が見えます。

船の荷は敦賀の荷問屋の手を通じて、馬の背に移り、琵琶湖の北岸に運ばれ、塩津や大津を通って京都の紅花問屋に向かいます。運ばれてきた荷物は、車や馬からおろされ、店頭の左右に積み重ねられています。店は下座敷と二階座敷があり、多くの人が集まって商談が行われました。帰りには、衣料、砂糖や塩、上方産の雑貨類などを仕入れて敦賀から酒田へ、最上川を上って内陸に戻りました。



紅花畑



加工された紅花



「紅花屏風」[右] (春の種まき・花摘み・紅餅ができるまでの工程) 長谷川家寄贈・山寺芭蕉記念館所蔵

(2) 川が運んだ文化～上方文化との交流～

最上川舟運の発展により上方（京都・大阪）と交流も盛んになりました。山形の内陸からは、上方に向けて、紅花、米、大豆、青芋、煙草などが積み出され、帰りの舟では、塩、魚、茶、古着、雛人形、仏像、石灯籠など上方の物産を積んできました。

今でも、紅花の里として有名な河北町の国指定重要無形民俗文化財「林家舞楽」の衣装や、鶴岡市櫛引地区で奉納



林家舞楽（国指定重要無形民俗文化財）
（河北町谷地どんが祭り）

される国指定重要無形民俗文化財「黒川能」の衣装に艶やかな紅花染めを見ることができます。

紅花が京都へ送られる一方、京都からもたらされた文化も数多くあり、その中の一つに、河北町をはじめ最上川流域に残る「雛人形」があります。

享保雛、有職雛、立ち雛など、みごとな京の雛人形が旧家に代々伝えられ、今でも、毎年春に一般公開されています。

最上川舟運貿易品



Benibana (safflower) is the flower of Yamagata Prefecture and beloved by people in Yamagata. The quality of *benibana* grown in Yamagata was excellent, and thus it was highly valued throughout Japan. In summer, farmers picked the petals of *benibana* and pounded them into *benimochi*, a kind of small cake of pounded petals. *Benimochi* were shipped out down the Mogami River to Sakata, then carried to Kyoto across the Sea of Japan. The ships came back to Sakata carrying salt, fish, tea, secondhand clothes, *hina* dolls, Buddhist statues, stone lanterns, and more. *Hina* dolls are one of the most famous products of Kyoto culture and we can still find them in many places around Yamagata. Lip rouge made from *benimochi* was also brought to Yamagata from Kyoto.

Kimono dyed with *benibana* shine brightly. The costumes for “Kurokawa Noh” in Tsuruoka City and “Hayashi-ke Bugaku” in Kahoku Town are also dyed with *benibana*. When the National Athletic Meet was held in Yamagata in 1992, presenters wore *kimono* dyed with *benibana* for the award ceremonies.

3章 語り継ぎたい山形の人



最上義光騎馬像（霞城公園内）

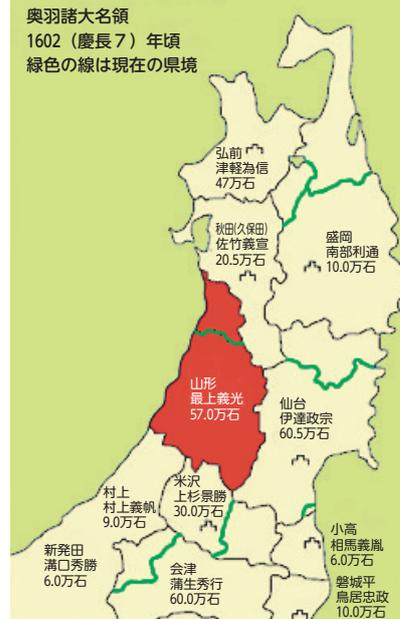


山形城三の丸東大手門



最上家が城諸家中町割圖による三の丸CG合成 山形城

奥羽諸大名領
1602（慶長7）年頃
緑色の線は現在の県境



山形57万石の領土図

1 山形の産業・くらしの土台を築いた人

(1) 山形県の産業・経済の土台を作った最上義光

最上義光は、今から400年以上前の戦国時代に、山形を愛し、人を愛し、出羽国に平和と安定をもたらし、現在の山形の基礎を築きました。城下町や最上川交通路を整備し、庄内平野を開発するとともに、領内各地に優れた文化を移入するなど山形の発展に大きく貢献しました。

義光は、羽州街道沿いに、七日町、十日町などの市日町、職人町をつくり、近江商人をはじめ外来商人の自由貿易を積極的に進め、その繁栄ぶりは東北最大とも言われていました。町づくりも、町人の経済活動・商工業が重視された巧みな城下町であったと言われています。山形藩は最上氏改易後も商業は大いに発展して江戸時代の山形を支える商業都市として繁栄しました。

義光は山形全体の経済の発展のために、内陸と庄内の交流を盛んにするとともに日本海を通じて領内の経済と文化を全国に結びつけました。その一つが、村山から大石田までの最上川「三難所」（碁点・三ヶ瀬・隼）開削工事でした。本格的な整備が図られ、最上川舟運は交易の大動脈になっていきました。最上川舟運の開発で、上方との物資の交流は飛躍的に発展し、全国でも良質の染料として人気のあった「最上紅花」をはじめ、山形地方の特産である「青芋、米、大豆、小豆」などを上方に運び、上方からは、「木綿、塩、砂糖、お茶、小間物」などを運んできました。また、内陸と庄内を結ぶ「六十里越街道」や新庄から庄内にぬける道路（現国道47号線）の改修や、大堰をつくらせ、荒地だった庄内平野の新田開発を進めました。

コラム 18

大きな権力の象徴「金箔瓦」

山形城の発掘調査で、当時中央政権の意向が働き、特に認められた大名にのみ使用が許可された大きな権力を象徴する「金箔瓦」が発見されています。「金箔瓦」は織田信長が安土城で初めて使用し、その権力を受け継いだ豊臣秀吉が大坂城や肥前名護屋城などで用いられていました。最上義光は、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に、肥前名護屋城に在陣していますが、この時秀吉の築城した新しい城に影響を受けたと考えられます。

義光が三の丸まで拡がる広大な城の拡張工事を行ったのは、庄内や秋田県沿岸南部まで収め、57万石と言われる領国を獲得する1600年関ヶ原合戦以降だと考えられています。

「金箔瓦」もこの時に使用されたと推測されます。

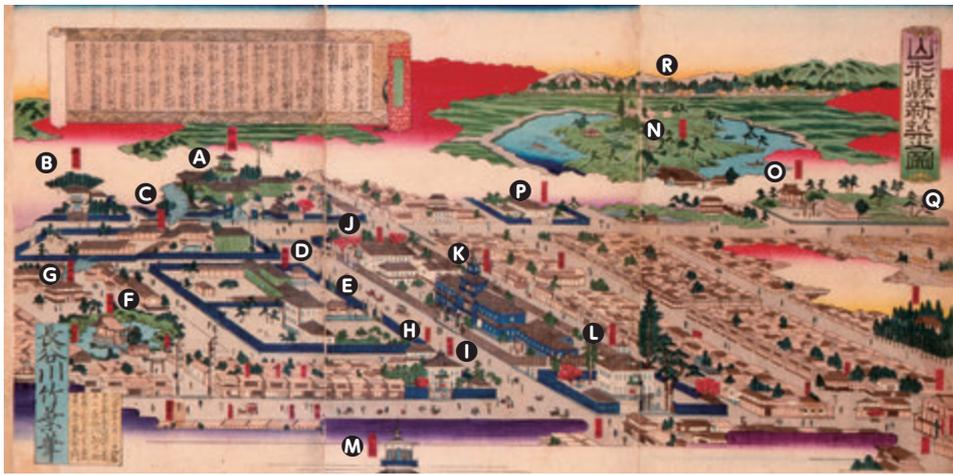


出土した「金箔瓦」
(山形市教育委員会所蔵)

最上義光の偉業



- ①57万石を領する大名で東日本随一の山形城の建築
- ②城下町での初市、植木市などを勧め商業の活性化を図る
- ③最上川の三難所（碁点・三ヶ瀬・隼）の開削、酒田港の改修による舟運で上方文化の移入に努力
- ④北館大学に命じ北楯大堰を作り庄内平野を大穀倉地帯に
- ⑤庄内と新庄、庄内と村山を結ぶ道路の改修
- ⑥紅花栽培を奨励



山形県新築の図（長谷川竹葉筆・山形美術館所蔵）

「山形県新築の図」に見える建物

※（ ）は平成25年現在の建物

- A 初代山形県庁（文翔館）
- B 織文社（旧山形県会議事堂）
- C 山形県勤業製糸場（山形地方裁判所）
- D 山形県勤業博物館（山形市役所）
- E 南村山郡役所（山形市役所）
- F 湯殿山神社（山形市役所）
- G 器機ノ湯（山形市役所）
- H 活版所（民間ビル）
- I 山形警察署（民間ビル）
- J 南山学校（やまぎんホール）
- K 山形県師範学校（山形県JA・山形商工会議所）
- L 山形県警察本部（山形銀行本店）
- M 済生館・現郷土館（山形市立病院済生館）
- N 千歳園（山形東高周辺）
- O 三島神社（三島神社）
- P 山形県水力機織場（遊学館西）
- Q 馬見ヶ崎湖畔（教育資料館）
- R 国分寺薬師堂（国分寺薬師堂）



首都東京に向かう表玄関
栗子隧道（米沢市）



山形を太平洋に結んだ新道
関山隧道（東根市）



米沢から越後へ、峠の難所を拓く
片桐門（小国町） ※立入禁止区間



川口の眼鏡橋
堅磐橋（上市市）

（2）山形県の近代化を進めた三島通庸

三島通庸は東京府参事から教部省の教部大丞を経て、1874（明治7）年に酒田県令として赴任し、1876（明治9）年に初代山形県令となりました。三島通庸が山形で過ごしたのは、1874（明治7）年から1982（明治15）年までの9年間です。

三島通庸は山形県令に就任する際に、内務卿・大久保利通に県政運営の抱負を次のように述べています。

- ①道路を開き、運輸の便利を良くし、民力を養い、県民の目を広く外の世界へ開かせること。
- ②学校をつくり、人材養成に努めること。
- ③勤業、なかんづく製糸器械場を設け、博物館を開いて実物による教育を施すこと。
- ④病院を設立し、県民の健康維持を図るとともに医学教育も行うこと。
- ⑤警察署とその分署を設置するなど、治安機構の確立を図ること。
- ⑥河川を改修し、これを運輸の動脈として利用促進すること。
- ⑦酒田港の改修を行うこと。（幕内満雄著「評伝三島通庸」より）

これらの方針に基づき、各地で近代化事業を進めました。

特に栗子峠等のトンネル工事には力を入れ、堅い岩を開削するための当時アメリカでも3台しかなかったトンネルを掘る機械を、高いお金を出して買いました。もちろん、日本では初めて使われた機械です。

1880（明治13）年10月19日の午前1時の真夜中、「（栗子峠の）トンネルが抜けたぞ。」という知らせに、三島県令はすぐに飛び起き、現場に駆けつけ、作業していた人達と涙を流して喜んだということです。

三島通庸の偉業



- ①県庁を中心に県都山形にふさわしい新市街地の建設
- ②地方郡役所などの建築（擬洋風建築）
- ③山形県と他県を結ぶ新道開削（トンネルや橋）
- ④製紙工場や新農業（さくらんぼ等）等の殖産興業
- ⑤済生館病院の建設と医療・医学の振興
- ⑥山形県師範学校の建設と教育の推進

コラム 19

イザベラ・バードが見た県都山形

1878（明治11）年、イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが、東北旅行で現在の山形市に7月中旬に到着し、その印象を「日本奥地紀行（1880年初版）」のなかで、「大通りの奥の正面に堂々たる県庁があるので、日本の都会には珍しく重量感がある。」「政府の建物はふつう見られる混合の様式であるが、ペランダをつけたしているので見栄えがする。県庁、裁判所そして進歩した附属学校を持つ師範学校、それから警察署はいずれも立派な道路と町の繁栄にふさわしく調和している。大きな二階建ての病院は、丸屋根があって、150人の患者を収容する予定で、やがて医学校になることになっているが、ほとんど完成している。非常にりっぱな設備で換気もよい。」と紹介しています。



山形市街図（高橋由一画）明治初期



北館大学助利長像 (楯山公園) 北楯大堰利用図



北楯大堰

(3) 荒れ地を豊かな大地に変えた北館大学助利長～北楯大堰～

今から400年前、広大な庄内平野は最上川の水位が低く、作物の育たない原野となっていました。1601（慶長6）年に最上義光から狩川城主として任命された北館大学助利長が、水利に恵まれずに困窮する人々をなんとかしようと、月山を水源とする立谷沢川からの導水を計画しました。1612（慶長17）年3月に堰の開削工事に着手、難工事の末、同年7月に延長10kmを超える北楯大堰が完成しました。その後、3年をかけて整備し、総延長は32kmに及び、狩川から余目、酒田の5,000ha余りの水田を潤し、米どころ庄内平野の基礎を作りました。

逸話として、開削工事が最も困難な箇所に差し掛かった時、最上川が氾濫し、法面が崩れて工事が進められずにいると、北館大学公は自分の馬の鞍を最上川の淵に投げ入れて川を鎮め、それ以降、順調に工事が進められたと語り継がれており、「青鞍之淵」として石碑が建てられています。この北館大学公の功績を称えて「北館水神社」が建立され、現在の「北館神社」となり、今も庄内平野を見守り続けています。

コラム 20

多くの人の努力で作られた砂防林「クロマツ林」

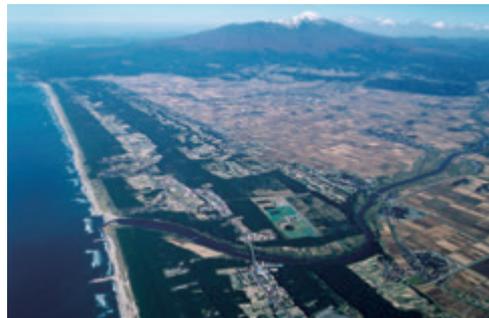
毎年11月、遊佐町立藤崎小学校の体育館では、植林事業に生涯を捧げた佐藤藤蔵の偉業を讃える「藤蔵祭」が開かれます。

藤蔵は、砂丘地にクロマツを植林するため、風を防ぐ巨大な垣を作り、砂丘の土壌を改善するための「ネムノキを植えること」を編み出した人であり、現代の植林事業に広く用いられています。

佐藤藤蔵や本間光丘の他にも、最上川以北の砂丘地植林先駆者の来生彦左衛門、最上川以南の砂丘地植林先駆者の佐藤太郎右衛門、遊佐町菅里地区の植林を進めた曾根原六蔵、戦後の海岸砂防の父と言われた富樫兼治郎など多くの人の努力で砂丘地植林が行われました。



佐藤藤蔵翁時代の植林風景 (佐藤家所蔵)



庄内砂丘の砂防林風景



庄内砂丘砂防林マップ (「身近な松原散策ガイド」より)

(4) 砂嵐から大地の恵みを守った本間光丘



本間光丘 (東北芸術工科大学所蔵)

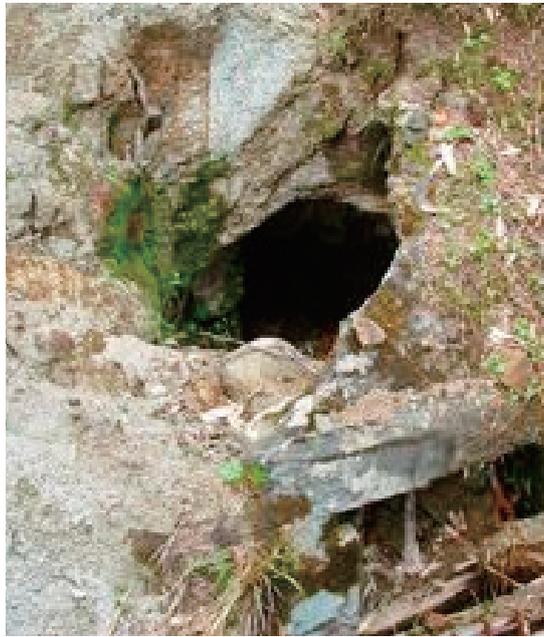
本間光丘は、「天下第一の豪農」として、庄内藩14万石の領内において24万石の大地主であり、「本間様には及びもないが、せめてなりたや殿様に」とうたわれた羽後酒田の本間家中興の祖と言われる人物です。

酒田では1729（享保14）年頃から植林が始められましたが成功せず、町民の依頼に応じて本間家二代目光寿が植林に取り組みました。光寿は1754（宝暦4）年に没し、三代目光丘が植林を継承します。光丘の手法は数十万個の砂囊による人工砂丘築造、グミやネムを植えてから、能登（石川県）から取り寄せたクロマツを植林するという現代の砂丘地植林技術に通じるもので、幾多の困難がありながらも卓越した実践力と財力により、植林を成功させました。1918（大正7）年には、光丘の功績をたたえて植林地の地名を「長坂」から「光ヶ丘」に改称され、現在も「光ヶ丘松林」として市民に親しまれています。

光丘は、地域全体が自らの経済活動の基盤であることを知り抜き、その整備活性化こそが一族の繁栄をも支えていくと考えた人です。



米沢藩士黒井半四郎
(米沢市上杉博物館所蔵)



飯豊山穴堰



黒井堰風景



飯豊山穴堰マップ

(5) 奇跡の堰「飯豊山穴堰」を作った

黒井半四郎

黒井堰は上堰と下堰からなり、堰の長さは合わせて約8里(32km)と大規模なものでした。このうち上堰は、米沢市窪田の千眼寺裏で松川(現在は最上川)の水を堰き上げ、糠野目で松川に樋を掛け水を渡し、高島・赤湯方面の水田をうるおしました。

この大工事を計画し、責任者となったのが、黒井半四郎忠寄くろい はん しろうただよりです。米沢藩の中級家臣団である五十騎組ごじゅうきぐみの出身で、幼いころから和算(算術)の勉強に励み、中西流和算の最高免許を受けました。その力が認められ、藩の財政を司る勘定頭かんじょうがしらに任命され、無駄な出費を削るなど、藩財政の改善につとめました。

また、黒井は奇跡の堰とも言われる「飯豊山穴堰あなげき」の工事も進めました。今から約200年前、小松、黒川方面(今の川西町)は、水不足で上杉藩の藩主上杉鷹山が黒井半四郎に命じて、飯豊山にトンネル(穴堰)を掘って、水量の多い玉川(小国町)の水を白川に流すという大工事をを行いました。トンネルは、標高約1,500mの山の中にあり硬い花崗岩でできています。当時の技術では難工事で、約20年かかって完成しました。

この穴堰は、近年まで川西町の田んぼに命の水を送っていましたが、現在はその役目を終えて、県指定文化財の史跡として保存されています。

コラム 21 蝦夷地探検家 最上徳内



「最上徳内肖像画」
最上徳内記念館所蔵

最上徳内もがみとくないは、村山市楯岡出身の北方領土探検家で日本で最初に択捉島えとろふじまを探検した人です。この時、ロシア人・イジュヨヅフに出会い、択捉島や、ウルップ島以北の知識を得ています。

下記の地図は、徳内自身の調査と、アイヌやロシア人から聞いた知識によって描かれたものです。徳内の地図では、千島列島の島々にロシア語の名称が記され、主要な島にはアイヌ語の地名が併記されています。



最上徳内『蝦夷国風俗人情之沙汰附図』(1790年)
北海道大学附属図書館・北方資料室所蔵



Let me introduce five people who laid the foundation for the industries and lifestyle of Yamagata:

The first person is Mogami Yoshiaki, the lord of Yamagata Castle. Mogami held an area of 570,000 *koku*, and laid the foundation for present-day Yamagata. He developed the castle town and the Mogami River transportation route, and spread the latest culture in the area. The second person is Mishima Michitsune, the first Prefectural Governor of Yamagata. Mishima carried out modernization projects such as town development, the digging of tunnels, and the building of bridges. The third person is Kitadatedaigaku-no-Suke Toshinaga, lord of the castle of Karikawa. He achieved the very difficult irrigation of the Shonai Plain with water from the Tachiyazawa River, and changed the Shonai Plain from a wasteland into rich rice paddies. The fourth person is Homma Mitsuoka, the third master of the Homma family. Homma was rich and practical, and planted a lot of trees to protect the natural resources of Sakata from sandstorms. The fifth person is Kuroi Hanshiro, a samurai of Yonezawa fief. He constructed dams, Kuroi-Zeki and Iidesan-Ana-Zeki, and made the firm ground of Okitama area into rich rice fields.



浜田広介



ココロノヤサシイ
 オノウチデス。
 ドナタデモ
 オイデクダサイ。
 オイシイオカシガ
 ゴザイマス。
 オチャモ
 ワカシテゴザイマス。



浜田広介記念館童話ルーム上演作品「泣いた赤おに」より

広介の心にあるまほろばの里高畠の風景

2 郷里山形を愛した文学者たち

コラム 22

「道ばたの石」の詩碑

広介の子どものころまでは、道ばたに腰をおろせる「休み石」というものがあつたそうです。

重い荷を背中にしょって行く人が、ところどころで腰をおろして休めるようにしようとの、人間同士の心づかいの石だったのかもしれない。

広介の母校・高畠町立屋代小学校の庭に、彼の詩を刻んだ記念碑があります。

道ばたの石はいい
 いつも青空の下にかがみ
 夜は星の花をながめ
 雨にぬれても風でかわく
 それにだいいち
 だれでも腰をかけてゆく



母校の屋代小に立つ「道ばたの石」の碑
(平成27年5月28日 山形新聞)

(1) 母の語りとふるさとの風土に育まれた「ひろすけ童話」

① 浜田広介と泣いた赤おに

『泣いた赤おに』は、^{はまだ ひろすけ}浜田広介(1893~1973年)の代表作と言われる児童文学であり、学校教科書にも採用され、道徳の題材にも多く使われています。

「ドコマデモ キミノ トモダチ」、これは、ラストに青おにから赤おにへ残した言葉です。浜田広介の童話は、相手を思いやる心と優しさに溢れており、子どもだけでなく、大人にも読まれ、愛されています。

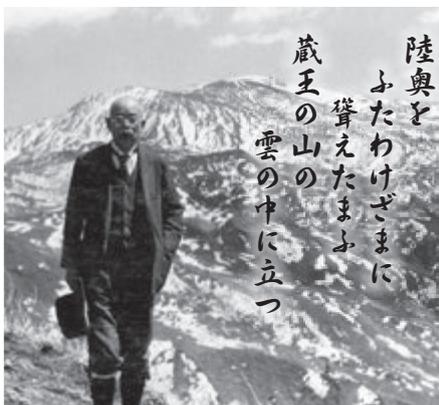
浜田広介は、1893(明治26)年、山形県東置賜郡屋代村(現高畠町)に農家の長男として生まれました。美しく、豊かな恵みを与えてくれる自然は、時に厳しくもあり、特に東北地方の冬は雪に閉ざされます。そんな冬の夜に、自宅の囲炉裏の火のそばで、幼い広介は、母や母方の祖母からいろんな昔話を聞き、それが後に文学を志す礎になったと言われています。

② 「ひろすけ童話」の世界

広介が童話を書くようになったのは、早稲田大学在学中にお伽話として応募した「黄金の稲束」という作品が入選したからです。当時のお伽話のほとんどは悪役が滅ぼされることが多かったのですが、「黄金の稲束」には悪役は出てきません。老いた馬をいたわる百姓が、その思いやりの結果として、三頭の若駒^{わかこま}と黄金の稲束に恵まれるという善意の話です。

広介は、その後、コドモ社の雑誌「良友」(1916(大正5)年創刊)に誘われて童話を書くようになりました。1918(大正7)年の7、8月号には、『呼子鳥』を、翌年の1月号には、『椋鳥の夢』を発表しました。『呼子鳥』が哀しい母の視点から書かれた作品であるのに対し、『椋鳥の夢』は、いなくなった母を慕う椋鳥の子どもの視点から書かれています。どちらも、広介の子どもの頃の境遇を織り込んでおり、ひろすけ童話は作者の心情が込められています。

『泣いた赤おに』の作品に出てくる鬼や、『りゅうの目の涙』に出てくる龍は、本来、人々から恐れられ、嫌われた存在でありましたが、ひろすけ童話で、心やさしい、思いやりのある存在として登場します。広介は、社会的に弱い立場にある者に目を向け、その思いやりが童話に込められたと言われています。



陸奥を
ふたわけざまに
聳えたまふ
蔵王の山の
雲の中に立つ

蔵王を背に瀧山山頂に立つ茂吉(斎藤茂吉記念館提供)



最上川を見つめる茂吉(大石田町/昭和22年)
(撮影:佐々木勇 斎藤茂吉記念館提供)



最上川
逆白波の
たつままでに
ふぶくゆふべと
なりにけるかも

晴れた冬の日の最上川(大石田町川前地区)

(2) 郷土の自然を、風土を精根込めて歌った斎藤茂吉

① 茂吉と蔵王

「陸奥をふたわけざまに聳えたまふ蔵王の山の雲の中に立つ」これは、蔵王山頂の歌碑に刻まれている歌です。斎藤茂吉(1882~1953年)は14歳で上京し、晩年、1945(昭和20)年4月に戦争を避けて帰郷しました。1946(昭和21)年から約2年間、最上川のほとりの大石田に住みます。したがって、茂吉の文学は「蔵王を父に、最上川を母に」と言われます。しかし、蔵王のお釜(火口湖)を詠んだ「死にしづむ火山のうへにわが母の乳汁の色のみづ見ゆるかな」という歌もあることから蔵王を母なる山とする気持ちもあったと言われています。

② 茂吉と大石田

1893(明治26)年8月、正岡子規が松尾芭蕉を慕い「はて知らずの記」で立ち寄った大石田の地に、茂吉もまた、芭蕉を思慕して訪れたのが初めてで、その後も幾度か立ち寄り、また、戦後生活の場となりました。

大石田の住まいは、野鳥の音が聞こえることにちなんで命名した「聴禽書屋」に1947(昭和22)年11月まで滞在しました。聴禽書屋は、最上川からほど近く、芭蕉を懐かしむに好都合の環境でした。

茂吉が、山形の悠久たる自然とともに大石田の人々と触れ合う中、晩年の「最上川逆白波のたつままでにふぶくゆふべとなりにけるかも」に代表される64歳から65歳にかけて詠んだ歌の数々は第16番目の歌集『白き山』に収録され、1949(昭和24)年に刊行されました。

コラム 23

「観光地百選」全国一位を祝う歌

「万国の人来り見よ雲はるる
蔵王の山のその全けきを」

これは、1950(昭和25)年、新聞社主催の「日本観光地百選」の山岳部門で、蔵王が全国第一位に選ばれたことを祝い、茂吉が詠んだ歌です。

上市市出身の歌人斎藤茂吉が蔵王を国内外に自慢したい思いが感じられる歌です。



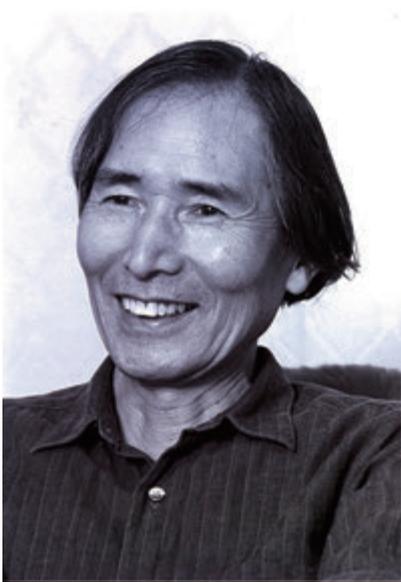
J R山形駅の壁面に設置されている
茂吉の銅板レリーフ



Yamagata has produced many men of letters. Among them, here are two who loved their home, Yamagata:

The first is Hamada Hirosuke, writer of children's stories, born in Takahata Town. Hamada wrote many stories such as *Naita Akaoni* (The Crying Red Ogre) and *Mukudori no Yume* (The Dream of a Gray Starling). The stories written by Hamada are full of sympathy and kindness, and are loved not only by children but also by adults.

The second is a *tanka* poet, Saito Mokichi, who came from Kaminoyama City. Saito loved the nature of his home, Yamagata, and put his affection for it into his *tanka* poems. He especially loved Mt. Zao as seen from his hometown, Kaminoyama City, and Oishida Town, where he was evacuated during World War II. He also loved the Mogami River, which flows through Oishida Town.



藤沢周平 (写真提供 文藝春秋)



記念館に移築再現している書斎の写真 (藤沢周平記念館提供)



教師時代ゆかりの地「湯田川温泉」



藤沢周平記念館 (藤沢周平記念館提供)



庄内藩居城鶴ヶ岡城址



金峯山から望む鶴岡市街地 (藤沢周平記念館提供)



海坂城下を流れる五間川のモデルとなった「内川」から望む金峯山 (藤沢周平記念館提供)

コラム 24

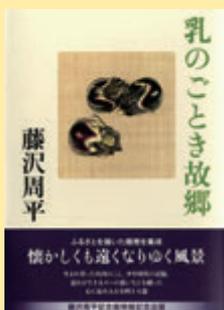
藤沢周平と故郷

『乳のごとき故郷』というエッセイ集の中で藤沢周平は故郷庄内への深い思いを綴っています。

藤沢周平は、山形師範学校を卒業後、郷里の中学校の教師となりましたが、病気のため教師を続けることができず、新たな職に就くために30歳で故郷をあとに上京します。

金峯山の麓に広がる庄内平野の、のどかな農村に生まれ育った藤沢周平は、終生、庄内への思いを抱き続けていたようです。藤沢文学に描かれた世界には、故郷の自然の中で遊び、家業の農業を手伝いながら成長した少年時代の体験が、映し出されているようです。

エッセイ集『乳のごとき故郷』は、自分の生まれ育った庄内のこと、少年時代の記憶、忘れがたき人々への思いなど、藤沢周平の愛してやまなかった庄内・鶴岡に関するエッセイを集めた作品です。



(3) 郷里鶴岡の面影を作品に記した藤沢周平

①海坂藩と鶴岡

鶴岡市出身の作家、藤沢周平 (1927～1997年) は、江戸時代を舞台に、庶民や下級武士の哀歓を描いた時代小説作品を多く残していますが、物語の舞台としてしばしば登場するのが、架空の藩『海坂藩』です。この藩のモデルについての藤沢さんの明言はなかったものの、藩や城下町、領国の風土の描写は、藤沢さんの出身地を治めた庄内藩とその城下町鶴岡がモチーフになっていると考えられています。唯一、海坂城下を流れる川としてしばしば登場する「五間川」については、藤沢さん自身鶴岡市内を流れる「内川」であると語っています。

鶴岡市では、藤沢周平作品に登場する城下町・鶴岡の面影など、藤沢作品ゆかりの地25カ所に、案内板を設置し、訪れる人を小説の舞台へと誘っています。また、鶴岡公園内にある「鶴岡市立藤沢周平記念館」では、藤沢文学に親しみ、鶴岡・庄内の豊かな自然と歴史ある文化に触れながら、藤沢周平の作品をさらに味わい深めていくことができます。

②山形県内を舞台とした作品

藤沢周平の時代小説『たそがれ清兵衛』『蟬しぐれ』などの作品は映画化され、多くの人に愛され、今もなお多くの読者に親しまれています。藤沢周平は、「海坂藩」のほか、「庄内藩」「米沢藩」「戸沢藩」や庄内など郷土山形を舞台とした作品も数多く書いています。また、エッセイ『半生の記』には、青年期まで過ごした鶴岡でのことや、山形師範学校に通っていた時の山形市での生活の様子も書いています。

庄内藩・庄内を舞台とした作品

『義民が駆ける』『回天の門』『長門守の陰謀』『又蔵の火』『ただ一撃』『証人』『龍を見た男』『春秋山伏記』『三年目』『夜が軋む』

米沢藩を舞台とした作品

『漆の実のみのる国』『密謀』『幻にあらず』『雲奔る 小説・雲井龍雄』『一夢の敗北』

戸沢藩を舞台とした作品 『上意改まる』



井上ひさし (撮影 落合高仁)



遅筆堂文庫山形館 (シベールアリーナ内)



井上ひさし直筆の「遅筆堂文庫堂則」



井上ひさしと座右の銘



遅筆堂文庫「本の樹」(川西町)

(4) 「遅筆堂文庫」に込めた井上ひさしの願い

「遅筆堂文庫は置賜盆地の中心にあり、置賜盆地はまた地球の中心に位す。我等はこの地球の中心より、人類の遺産であり先人の智恵の結晶でもある萬巻の書物を介して、宇宙の森羅萬象を觀察し、人情の機微を察知し、あげて個人の自由の確立と共同体の充実という二兎を追わんとす。個と全体との幸福なる共生を追求せんとする我等は彼の幼稚なる理想主義者のドン・キホーテと同じく嗤われるべきであるか。応、嗤わば嗤え、我等は日本のドン・キホーテたちである。町の有司、若人たちの盡力によりいまここに発足する当文庫は、有志の人びとの城砦、陣地、かくれ家、聖堂、そして憩いの館なり。我等は只今より書物の前に坐し、読書によって、過去を未来へ、よりよく繋げんと欲す。1987年8月敗戦記念日」

これは、1987(昭和62)年、川西町出身の作家・劇作家、井上ひさし(1934~2010年)が遅筆堂文庫開館にあたり自ら書いた「遅筆堂文庫堂則」です。『遅筆堂』とは「遅筆でも良い作品を書きたい」という井上ひさしの号で、それをそのまま、文庫の名称に冠しています。

遅筆堂文庫は井上ひさしから寄贈された蔵書7万冊をもとに川西町が開設した図書館です。1994(平成6)年には、遅筆堂文庫を核に、劇場と川西町立図書館を併設した複合文化施設「川西町フレンドリープラザ」が完成しました。開設以降も井上ひさしからの寄贈は続き、資料22万点を収蔵しています。2008(平成20)年には、山形市の洋菓子販売(株)シベール本社敷地内に分館(シベールアリーナ&遅筆堂文庫山形館)が開設され、川西町の「遅筆堂文庫」から約3万冊の蔵書を移動させ展示しており、閲覧することができます。

コラム 25

ひょっこりひょうたん島

『ひょっこりひょうたん島』とは、NHK総合テレビで放送された人形劇です。(1964.4.6-1969.4.4)

個性豊かなキャラクターたちがミュージカル形式で笑いと風刺、冒険の物語を繰り広げ、本放送当時子どもたちの多大な人気を得ました。この番組で歌われた印象的な歌も含めて、NHK人形劇の代表的作品の一つとして数えられています。



©井上ひさし/山元護久 ひとみ座 NEP21
人形デザイン/片岡昌



Here are two more writers who loved their home, Yamagata:

The first is Fujisawa Shuhei. He wrote many stories describing the joy and sadness of ordinary people and lower class samurai in the Edo period. *Tasogare Seibei* (The Twilight Samurai) and several of his other works have been made into films and are popular among many people.

The second is Inoue Hisashi. He was writer and playwright born in Kawanishi Town. In Kawanishi Town and in Yamagata City there are libraries called “Chihitsudo Bunko,” or “libraries of a slow but good writer,” full of books donated by him. Inoue is also known as the author of *Hyokkori Hyotan-jima*, which is one of the main works of the NHK puppet play programs.



新庄市鳥越八幡神社内土舞台上で公演された朗読劇「土に叫ぶ人」



松田甚次郎



全国から集まった最上協働村塾の塾生



松田甚次郎石碑と胸像（鳥越八幡神社境内）

3 地域とともに 生きた人

コラム 26

宮澤賢治名作選

～賢治を有名にした甚次郎～

宮澤賢治の没後、『宮澤賢治全集』（全3巻）が1934～35（昭和9～10）年に出版・発行されましたが、発行部数が少なかったことから間もなく絶版となり、一部の愛好家に読まれたに過ぎませんでした。その後、1939（昭和14）年3月、『土に叫ぶ』のベストセラー作家松田甚次郎が編者となり、『宮澤賢治名作選』が出版・発行されると、間もなく文部省推薦図書となり、戦時下の貧しい中、しかも当時3円（当時の10kgの米価相当）とかなり高価だったにも関わらず、この本は飛ぶように売れました。また、初版発行から4年も経たないうちに第11刷まで印刷されました。



名作選の後書きには、多くの方々に宮澤賢治先生の遺作に触れてもらい、芸術家や宗教家、また科学者でもあり、貧農救済に生涯を捧げた聖農としての先生の姿を通じて、芸術や宗教、農業を見直してもらいたいとした甚次郎の願いが込められています。

この『宮澤賢治名作選』こそ、宮澤賢治の名や作品、賢治の思想を全国に広く知らしめる役割を果たしたと言っても過言ではありません。

(1) 「土に叫ぶ」村おこしの先駆者 松田甚次郎

松田甚次郎（1909～1943年）は稲舟村鳥越（現新庄市鳥越）の旧家に生まれました。甚次郎に転機が訪れたのは、盛岡高等農林学校の卒業間近に、花巻の宮澤賢治を訪ねた時です。賢治は、真に農民を豊かにするためには、まず自分が「本当の百姓」になり、農民と直接科学や文化を共有しなければならないと考え、教職を辞し、農耕生活に入っていました。

学校で学んだ知識を生かし、合理的な農業を目指す甚次郎に、賢治は、「一つ 小作人たれ。二つ、農村劇をやれ。」と諭します。甚次郎はそれを生涯の実践課題としました。

甚次郎は村に帰ると、父甚五郎に六反分の田を借り、小作人の生活に入るかわら、村の青年を集め、鳥越倶楽部を結成し、演劇活動を始めます。鳥越八幡神社境内に造られた「土舞台」を会場の中心とした公演は36回も行われました。

一方、甚次郎は、農業恐慌により疲弊していく村の生活を守るため、自然堆肥による有機農業の実践、麴・醤油・味噌などの調味料の自家製造など、自給自足的な農業経営を実践するとともに、村に消費組合などを組織し、地下足袋や軍手など自給できないものを共同で安く購入できるようにしました。

1932（昭和7）年には、村に最上協働村塾を設立し、全国から集う塾生とともに農耕に励むとともに、農業経営について学び合い、農村更正を志す農業青年の育成にあたりました。

1933（昭和8）年には、それまでの実践活動が認められ、有栖川宮記念厚生資金を受け、これをきっかけに、農繁期の相互扶助実践の場となり、県で第1号のモデルケースとなった“鳥越隣保館”を建設します。ここでは、農繁期の託児所が開設されたほか、栄養改善の講習会や母の会、敬老会も開催され、農村婦人の保護にも暖かい手を差し伸べました。

1938（昭和13）年、賢治と約束した10年間の実践記録をまとめた『土に叫ぶ』を刊行すると、これがただちに、東京有楽座で劇化上映されたこともあり、甚次郎の名は一躍全国に知れ渡ることになりました。



昭和13年ベストセラー
松田甚次郎「土に叫ぶ」



大井沢診療所で保健文化賞を手にする志田周子医師 1959(昭和34)年



旧大井沢診療所 奥に見えるのが月山(平成27年6月18日 山形新聞)



大井沢小学校での検診



地域住民とふれあう志田周子



西川町大井沢地区

(2) ^{へきち}僻地医療に生涯をかけた女医 志田周子

山形県西川町大井沢は月山と朝日連峰の間にある山村で、毎年3m以上もの雪でうずまり、その雪が消えるのは5月も末のことです。当時(昭和初期)は、自家用車も少なく「陸の孤島」とさえ言われ、医者もいませんでした。

そんな、医者にも診てもらえないで死んでしまう村人の多いことがくやしいと思っていた志田周子(1910~1962年)の父(当時大井沢小学校校長)は、東京女子医学専門学校(現在の東京女子医科大学)の付属病院に勤務していた周子に、「3年だけでいい、大井沢へ、村の人のために帰ってきてくれ」と、頼みました。その年、1935(昭和10)年6月、周子24歳の時に村へ帰る決心をしました。

約束の3年までもう半年となった1938(昭和13)年の冬、母が病気でなくなりました。医者である自分が母の病気も見極められず救えなかったことを悔やみました。また、残された幼い弟や妹たちを哀れに思い、大井沢に残り、医者として弟たちの母代わりとして生きていこうと決意しました。周子27歳の時でした。

それから、お腹をこわして死ぬ子ども、生まれて間もない赤ちゃんの死亡、働き過ぎで亡くなる若いお母さんなど、山村に多い病気が大井沢から年ごとに減っていきました。

1959(昭和34)年9月、全国保健文化賞の贈呈式が、東京第一生命ホールで行われ、志田周子女医が表彰されました。質素な黒のスーツ姿の周子は、人一倍カメラマンのフラッシュに輝いていました。

コラム 27

映画「いしゃ先生」

2015.11.7 志田周子銀幕デビュー

2010(平成22)年6月、志田周子生誕100周年を契機に、『やまがたの宝「志田周子」資源活用化実行委員会』が設立しました。

その後、本委員会は、2012(平成24)年2月、これまでの活動経過、実績を踏まえるとともに、改めて、民間主体による映画制作を目指していくことを確認し、『志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会』に引き継がれました。制作費の捻出で多数の有志が募金に応じ、ボランティアとしても支えていきました。また、多数の県民がエキストラとしても出演しました。多くの人たちの賛同と協力を得て、2015(平成27)年11月7日、志田周子が山形の地で銀幕デビューしました。

西川町大井沢の冬の厳しい自然、貧しい人々の暮らしの中で懸命に生きる人々、志田周子の医師としての生き方とともに、月山や寒河江川、田園地帯の中で咲き誇る満開の桜など、山形の自然美が輝くように描かれました。

2016(平成28)年1月9日より全国で上映されました。



In Yamagata, there are some who dedicate their entire lives to the benefit of their communities.

Matsuda Jinjiro received guidance from Miyazawa Kenji and became a *kosaku-nin* (tenant farmer) in order to live as a true farmer. He also started a drama group for young people in his village. They built a clay stage and gave performances to show their way of living. He wrote a record of his practice in *Tsuchi ni Sakebu*, which became a best-seller.

Shida Chikako dedicated her whole life as a doctor to caring for people in the mountain community of Oisawa, Nishikawa Town. She saved many sick people who were suffering because they could not get medical care. On November 7, 2015, she made her on-screen debut in Yamagata with the film *Isha Sensei*.

4章 理想郷山形!未来に輝く山形の産業



つや姫の刈り取り (庄内平野)



東京よみうりランドでのつや姫PR

1 豊かな自然を活かした産業

コラム 28

亀ノ尾と阿部亀治

亀治が26歳の1893(明治26)年、立谷沢村(現庄内町立川地区)の冷立稲(別名・水口稲)が冷害にあい、青立ち(不稔実)となっている中に、黄色に稔った3本の見事な稲穂を発見しました。



阿部亀治

これを抜き取って帰り、2、3年間これを育成し、固定した1つの純系をつくり、これに亀治の友人である太田頼吉が「亀ノ尾」と名づけ、ここに世紀の水稲大品種「亀ノ尾」が誕生したのです。

この品種の特徴は、風害に対して比較的強く、出穂より結実までの期間が短いために、種々の災害による被害が少ないこと、また肥料を多く必要としないで安定した収量を得られることであります。

この性質は、水苗代育苗や金肥の未普及、冷害対応技術が不十分だった当時であっては、画期的なものでした。

1925(大正14)年は全国で19万4,114haに栽培され、神力、愛国とともにわが国の水稲三大品種の一つに数えられ、今日の優良品質米の代表、コシヒカリ、ササニシキ、そして、つや姫にその特質が受け継がれています。

1925(大正14)年は全国で19万4,114haに栽培され、神力、愛国とともにわが国の水稲三大品種の一つに数えられ、今日の優良品質米の代表、コシヒカリ、ササニシキ、そして、つや姫にその特質が受け継がれています。

(1) 日本一おいしいブランド米「つや姫」

① 「つや姫」おいしさの秘密

山形県には、米づくりに適した気候、日本一を誇るブナの原生林が育む滋養に満ちた水系、農家が長年かけて丹精込めて育てた水田があります。この恵まれた環境の中で、生産者を一定の要件をクリアした農家に限定し、また、安全性を高めるために農薬や化学肥料を半分以下に抑えた「特別栽培米」または「有機栽培米」に限定し、さらに食味をチェックして合格したものだけを「つや姫」として出荷しています。

② 「つや姫」おいしさのルーツ

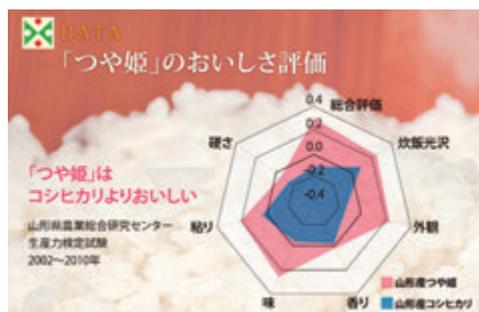
明治時代に山形県庄内町(旧余目町)で阿部亀治氏が育成した水稲品種「亀ノ尾」は、品種改良の交配親として盛んに用いられ、その良食味が「コシヒカリ」や「はえぬき」に引き継がれました。その「亀ノ尾」をルーツとして、10年の歳月をかけて開発されたのがこの「つや姫」です。



③ 「つや姫」おいしさの評価

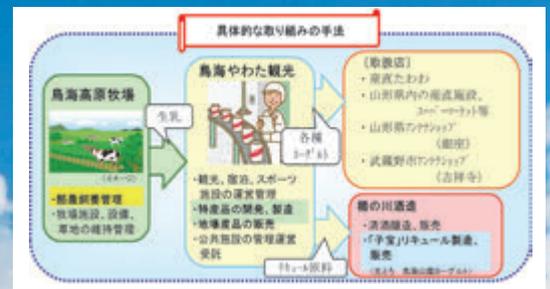
「つや姫」の際だつ「粒の大きさ」「白い輝き」「旨さ」「香り」「粘り」は、ご飯そのものがご馳走となります。また「冷めても美味しい」のも「つや姫」の優れた特長です。

山形県農業総合研究センターが行った生産力検定試験(2002~2010年)の食味に関する試験でも、「コシヒカリ」よりも「つや姫」が、全ての評価項目で高評価を得ています。





山形県内で作られているヨーグルト



生産から販売までの仕組み（鳥海高原ヨーグルトの例）



鳥海山を望む「鳥海高原家族旅行村」

(2) 食産業王国やまがた 地域に根ざした6次産業化

① 鳥海山の恵みをヨーグルトに！～鳥海やわた観光株式会社～

鳥海やわた観光株式会社では、鳥海山の恵みを受けている八幡地域の1次産品を使い、加工し販売することで、6次産業化を地域全体の力で成し遂げようとしています。

例として、鳥海高原ヨーグルトの製造から派生したレトルトタイプの鳥海高原ヨーグルトカレーの開発と発売があります。酒田市八幡地域にある「産直たわわ」内の飲食コーナーで提供していたカレーには、隠し味に鳥海高原ヨーグルトを使用していました。このカレーがこくとまろやかさがあると好評でリピーターも多いことから、製造元の鳥海やわた観光株式会社にレトルトカレーの新製品開発の誘いが来しました。具材となる高原野菜は地元の生産農家に、そして加工は升田缶詰にそれぞれ協力してもらいました。地域内で生産した1次産品を地域内で使用していくことで、地域内で作った商品を地域外で販売していくことができれば、地域全体が潤うという考え方で進めています。

② 6次産業化に取り組む高校生

6次産業化の推進に力を入れている村山市は、市民らと連携し、市の花「バラ」を活用したオリジナル商品の開発を進めています。市から依頼を受けた村山産業高校農業科の生徒たちは、新作スイーツとしてバラロア、プレミアムローズケーキ、バラジャムサンドクッキーの3種類を作りました。



村山産業高校の生徒が作った「バラ」の菓子オリジナル商品

コラム 29

6次産業とは

6次産業とは、1次産業である農林水産業をベースに2次産業（加工）、3次産業（流通販売、交流・観光）などを総合的に展開し、付加価値の高い商品やサービスを創出する新しい産業です。6次産業化はこれまで交流のなかった1次・2次・3次産業の人々が連携（ $1 \times 2 \times 3 = 6$ ）し、地域に新しい動きを生み出す「力」として期待されています。



People are busily farming in Yamagata, putting to use its rich natural resources. “Tsuyahime,” the brand-name rice of Yamagata, is particularly delicious. It has been evaluated as more delicious than “Koshihikari,” which is said to be the most delicious rice in Japan. Tsuyahime was developed from Kamenoo rice after many years of selective breeding.

Yamagata is also a “food industry kingdom,” and is now promoting sixth sector industrialization based in each area of the prefecture. Chokai-Yawata-Kanko Co., Ltd. produces yogurt as a sixth sector industrialization product. It also sells Chokai Kogen boil-in-a-bag yogurt curry, popular for its rich yet mild taste.



鳥海山と日本海



海に続く鳥海山麓の森と川



庄内おぼこサワラ



庄内浜の岩ガキ



紅エビ



小学生の放流活動



ズワイガニの雄（芳ガニ）



ガサエビ



マダラ

コラム 30

クラゲドリーム館（加茂水族館）

山形県内唯一の水族館「クラゲドリーム館（加茂水族館）」の最大の見どころは世界最大級の5mのクラゲ大水槽です。その中には、約2,000匹のミズクラゲが浮遊しています。クラゲの展示コーナー「クラネタリウム」の最後に待ち構えるこの大水槽「クラゲ ドリームシアター」では、まるで宇宙のような神秘的な空間を味わうことができます。

クラゲの展示種類は50種類以上でギネス世界記録に認定されています。他にも、庄内沖に生息する約140種類の魚などを展示しています。

平成26年6月1日にリニューアルオープンして、平成27年8月12日に来館者100万人を突破する人気ぶりです。



加茂水族館 クラネタリウム

(3) 森と川と海が一体となった豊かな海洋資源

① 豊かな海を育む森と川とその恵み

山形県の海「庄内浜」に注ぎ込む最上川、赤川などの河川は、奥羽山脈、出羽山地などの山々を源とし、日本有数の米どころとして知られる庄内平野を潤しながら、森の豊富な栄養を庄内浜にもたらしています。また、庄内浜には鳥海山の伏流水が湧き出すほか、沖合には珊瑚群生地の北限である飛島を擁するなど、多様な環境があり、暖流系と寒流系の魚介類が水揚げされる好漁場となっています。

県の魚であるサクラマスをはじめ、アユ、サケ、モクズガニ、岩ガキなど、多くの生き物が豊かな森林の恩恵を受けています。豊かな森が豊かな川を生み出し、最上川などの豊かな川が多くの生き物を育みます。森づくりは美しい川を通して、豊かな庄内浜の海づくりに通じています。

② 庄内浜を代表する魚たち

庄内浜では約130種類の魚介類が水揚げされていますが、庄内おぼこサワラ、マダラ、マダイ、ズワイガニ（芳ガニ）、ガサエビ、紅エビ、岩ガキなどが人気です。

庄内おぼこサワラは、脂の乗りが良く、刺身でも熱を通して美味しくいただけます。独自の活メと神経抜きの技術により、一般的なサワラより長い7日～10日間もの間高鮮度を維持できるようになりました。東京の築地市場では日本一のサワラであるとの評価を受けています。

寒の時期に獲れるマダラは、冬の日本海の荒波にもまれて引き締まった身、コクと旨みの肝、濃厚な味わいの白子にタラコなど、最上級の素材がとれる「寒鱈」と呼ばれ、特に由良漁港に水揚げされる寒鱈は高級ブランド「由良鱈」として人気があります。

紅エビは、冬場になると、真っ赤に色付き、身のしまったエビが水揚げされ、庄内ブランド「紅エビ」として全国に出荷されています。



山形県が進める「森林（モリ）ノミクス」



日本初となる大型木造耐火の文化ホール(南陽市)

南陽の森からとれたスギ材を積極的に活用した国内最先端の耐火木造技術を取り入れた集成材を採用しています。主要構造部（柱・はり）を耐火構造でつくることで、火災等の災害においても建物が倒壊せずに自立し続けられる性能を持った木造軸工法による耐火建築物です。日本初となる大型木造耐火の文化ホールとして、全国から注目を集めています。

2015（平成27）年12月21日、「世界最大の木造ホール（Largest wooden concert hall）」としてギネス世界記録®に認定されました。

（４）「森林ノミクス」で育てる林業から使う林業へ

①山形県発「森林ノミクス」

山形県は、面積の約7割を森林が占めています。「森林（モリ）ノミクス」は、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として積極的に活用し、林業の振興や雇用の増加につなげていくことで、地域を元気にしていこうとする取り組みです。2013（平成25）年11月には、県と県内全市町村が連携して「やまがた里山サミット」を設立し、知事が「やまがた森林（モリ）ノミクス」を宣言しました。

②最上町木質バイオマスエネルギー地域冷暖房システム

最上町は面積の8割以上を森林が占めています。町では昭和50年前後に植林が一斉に行われました。植林後下草刈り等の育林作業を行い管理してきましたが、社会構造の変化や木材価格の低迷などにより森林整備が行き届かなくなっていました。

森林には間伐という森林整備が必要です。町では森林を管理していくことで発生する間伐材に燃料としての価値を持たせ、エネルギーの地産地消と循環型社会の実現を目指した、ウエルネスプラザ（保健・医療・福祉の統合施設）に冷暖房及び給湯システムを導入しました。地域で生産されたバイオマスエネルギーを活用した地域の活性化の構想が認められ、平成27年度に国の「バイオマス産業都市」に選定されました。

コラム 31

ペレットストーブ

地球温暖化は、石油や石炭などの化石燃料を利用してきたことによる二酸化炭素の増加が最も大きな原因だと言われています。21世紀は環境の時代と言われています。

木質ペレットは、乾燥した木材を細粉し、圧力をかけて直径6～10mm、長さ10～25mmの粒状に圧縮成型した燃料です。燃やすときに出る二酸化炭素は、原料の樹木が成長する時に大気中から吸収した二酸化炭素ですから、石油や石炭などの化石燃料のように大気中の二酸化炭素を増加させることはありません。

山形県では、二酸化炭素を増やさず、環境負荷の少ないペレットストーブを推奨しています。



The Shonai beach area is a rich fishing ground where 130 kinds of fish and shellfish can be caught throughout the year. The rich forests produce rich rivers, like the Mogami, which helps many kinds of sea creatures to grow. Creatures such as cherry salmon (the prefectural fish of Yamagata), sweetfish, salmon, mitten crabs, and rock oysters, all benefit from the rich forests.

In Yamagata, certain fish and shellfish have been certified as top-brand seafood: Spanish mackerel (*Shonai obakosawara*), pacific cod, red sea bream, snow crab, mantis shrimp, and Alaskan pink shrimp.

Yamagata Prefecture has introduced “Yamagata Morinomics,” which aims to make local areas more active by using natural forest resources and promoting industry. In the Mogami region, wood chips that are left behind after cutting down trees are used as fuel. That fuel is used for heating, cooling, and supplying hot water to local facilities.



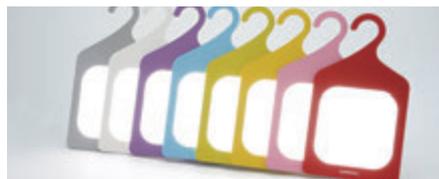
有機EL照明を使った山形県庁知事室



世界初の印刷で作ったトランジスタ



山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター



レッドドット・デザイン賞に輝いた「Hanger」



半透明の有機薄型太陽電池パネル（平成27年3月15日 山形新聞） 柔らかく薄い次世代の電子回路



2 山形から生まれた「世界の最先端」

コラム 32

世界初の白色有機ELを 発明した城戸淳二氏

世界で初めて照明用の白色有機ELを開発し、官や民を束ねて産業振興をけん引してきたのが山形大学教授の城戸淳二氏です。

出身は東大阪市で、実家はプラスチックの成型工場を営んでおり、幼い頃から日本のものづくりの現場を見てきました。早稲田大学卒業後、米ニューヨークの大学に留学し、白色有機ELの開発を志し、帰国後の1993（平成5）年、山形大学工学部で白色有機ELを開発しました。

米国のメディアは誕生日がエジソンと同じ2月11日だということを知ってか、城戸教授を「ジャパニーズ・エジソン」と言っています。「エジソンの白熱電球は『世界から夜をなくした』と言われましたが、有機ELは『世界から陰をなくす』と思っています」と城戸教授は言っています。



城戸淳二
山形大学大学院理工学研究科教授
（平成27年7月12日 山形新聞）

（1）世界を変える有機エレクトロニクス

炭素を含む分子でできている有機物で発光体（EL）やトランジスタ、太陽電池などをつくる技術が有機エレクトロニクスです。有機物は、柔軟性が高く、薄く、軽く、曲げられ、印刷法で作ることができるといった特徴があります。

①「有機ELといえば山形」

山形県では、山形大学で世界最先端の研究が進む有機エレクトロニクスを活用した産業の振興に取り組んでいます。特に山形大学で世界で初めて開発に成功した白色有機ELは、有機ELパネル製造会社2社を中心に県内で照明機器の開発・生産が進み、有機EL照明を実際に使っている施設も100を超えるなど、全国的にも「有機ELといえば山形」と言えるまでになっています。

②山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）では有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタ及び蓄電デバイスの4領域に関して、産業化に向けた基盤技術の開発とその成果を企業と連携して商品化に結びつける活動を精力的に展開しています。特に、センターには民間企業出身者を中心としたスーパーイノベーターが集結しており、次世代の生活環境を豊かにする高性能な有機エレクトロニクス製品の創造と商品化を目指しています。

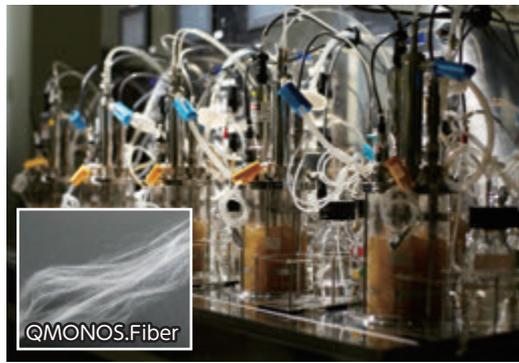
③新しい分野への挑戦

山形大学城戸教授の研究成果を事業化したルミオテック株式会社はその製品をミラノサローネへ出展するなど世界的にも注目を集めており、同社製品「Hanger」は著名なレッドドット・デザイン賞に輝きました。

4領域で技術開発を進めているINOELでは、民間企業と連携した商品化も進めています。進和ラベル印刷株式会社（上山市）と共同開発した「印刷で作る新規介護おむつ用濡れセンサー」や、伊藤電子工業株式会社（寒河江市）と共同開発した「半透明の有機薄型太陽電池」は独立行政法人科学技術振興機構（JST）の支援プログラムに採択されました。有機太陽電池は、室内などの比較的弱い光でも発電し、また透明の電池を作れることが特徴で、車やビルの窓などでも発電所に変えることができ、将来有望な技術と期待されています。さらに、有機トランジスタ分野では、柔らかく薄い、次世代の電子回路の開発を進めています。既に食品ラップの10分の1の厚さのフィルムに電子回路を印刷することに成功しており、人体に貼り付けるバイオセンサー等への応用が期待されています。



QMONOS.Fiber（人工合成クモ糸）で製作されたドレス



微生物にクモ糸タンパク質のDNAを導入し培養している様子



メタボローム解析技術（HMT研究所内）（平成27年2月8日 山形新聞）



慶應義塾大学先端生命科学研究所



Spiber株式会社研究棟



ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株(HMT)

（2）世界が注目するバイオベンチャー

①バイオベンチャー産みの親「先端生命科学研究所」

鶴岡市に2001（平成13）年に設置された本格的なバイオの研究所です。最先端のバイオテクノロジーを用いて生体や微生物の細胞活動を網羅的に計測・分析し、コンピュータで解析・シミュレーションして医療や食品発酵などの分野に応用しています。研究所から生まれた研究成果をもとに、「Spiber(株)」等いくつかのベンチャー企業が設立されています。

②究極の繊維“クモの糸”の人工合成～Spiber～

クモの糸は世界で最も強靱な繊維とされています。もし、太さ1cmのクモの糸を作れたら、離陸するジェット機を止められるほどの強さを発揮することでしょう。クモの糸を人工的に量産できれば、枯渇や環境汚染のリスクのある石油を使わない夢の新素材になります。鶴岡市のベンチャー企業Spiber(株)が世界で初めてその量産に成功しました。

Spiber(株)では、2013（平成25）年に人工的に作った合成クモ糸素材「QMONOS.」で織り上げたドレスを発表、また、2015（平成27）年にはスポーツアパレルメーカー大手のゴールドウィンと共同で、スポーツアパレル製品開発の皮切りとして「QMONOS.」を使用した「MOON PARKA（ムーン・パーカ）」を発表し、世界から注目されています。

③「メタボローム解析」が拓く未来の検診

鶴岡市のバイオベンチャー企業ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株)（HMT）は、ものづくりの“種”を生み出しています。その一例が、うつ病罹患の有無を判断するマーカーとなり得る代謝物質「リン酸エタノールアミン（PEA）」を特定し、血液検査で簡便に検出する方法を確立し、基本的には専門医による問診で判断されていたうつ病診断の常識を覆しました。

コラム 33

未来への先導者 富田勝所長

1957（昭和32）年東京に生まれ、慶應義塾大学工学部卒業後に米カーネギーメロン大学に留学し、指導教官 Herb Simon（ノーベル経済学賞）から博士号を取得し、その後、日本やアメリカにおいて数々の名誉ある賞を受賞しました。はじめは人工知能を専門にしていたのですが、後に生命科学に転じ、システムバイオロジーの分野で第一任者となりました。

慶應義塾大学環境情報学部教授であり、2001（平成13）年から先端生命科学研究所の所長を務めています。また、高校生を対象とした様々な教育プログラムの企画を手がけ、鶴岡市で毎年夏に開催されている「高校生バイオサミット in 鶴岡」の実行委員長を務めています。

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株)の創業者でもあり、Spiber(株)の顧問もしています。



In Yamagata Prefecture, research and development companies and venture businesses are attracting attention from the rest of the world.

The center of the organic electronics industry is Yonezawa City, and one of its most famous inventions is organic electro-luminescence (OEL), used to make the screens for ultra-thin smartphones. Kido Junji of Yamagata University was the first person in the world to discover OEL. Today, he continues to develop many types of goods in collaboration with private companies. As a result, thin and flexible next-gen electronic circuits and more are in development.

The Institute for Advanced Biosciences of Keio University, based in Tsuruoka City, researches biotechnology. A start-up company, Spiber, established by one of the alumni of this institute, has created dresses and parkas from artificial spider thread.

Human Metabolome Technologies (HMT) is another venture company, and has developed techniques for diagnosing depression.



世界が評価するデザインと技「山形鋳物」



数々の名勝負を見届けた駒「天童将棋駒」



こだわりの職人技が細部にまで光る「山形仏壇」



守り伝えられた匠の技「置賜紬」



地域で織り繋いだ古代織の技術「羽越しな布」

3 世界に誇る匠の技 ～山形伝統工芸～

(1) 職人が育む山形の伝統的工芸品

①世界が評価するデザインと技「山形鋳物」

平安時代、源頼義軍と一緒に訪れた鋳物職人が良質な砂・土を発見し、この地で造り始めたのがきっかけとされる山形鋳物。950年もの長い歴史の中で技術は繋がれ、職人それぞれが技を磨き、数々の名品が生み出されています。

②数々の名勝負を見届けた駒「天童将棋駒」

全国の駒生産95%以上のシェアを誇る天童将棋駒。その起源は江戸幕末の頃、天童織田藩が財政難の救済として藩士に駒づくりを奨励したことに始まります。桜の季節に行われる人間将棋や数々の将棋の大会など、天童市では、将棋による地域発展に力を注いでいます。

③こだわりの職人技が細部にまで光る「山形仏壇」

山形の周囲の山岳から良質な漆液が採取できたことで、漆工業が栄え、加えて最上川舟運によって優れた職人技や文化が伝わり、仏壇製作は盛んに行われ、250年の歴史があります。木地・宮殿・彫刻・金具・塗り・箔押し・蒔絵など7部門の分業作業によって総合的に仕上げられます。

④守り伝えられた匠の技「置賜紬」

米沢藩上杉鷹山公が奨励したことで発達した地場産業の一つで、現在は置賜地域で生産される米沢織（米沢市）、長井紬（長井市）、白鷹紬（白鷹町）を総称し置賜紬と呼んでいます。白鷹板締小拵、米琉板締小拵、緯総拵、併用拵、草木染紬の5種類が生産され、受け継がれた技と繊細な紬の美しさを今に伝えています。

⑤地域で織り繋いだ古代織の技術「羽越しな布」

日本三大古代織に数えられるのが羽越しな布です。伐採した木から皮を剥ぐことに始まり、糸作りまで、全ての工程が手作業で行われます。固い皮から糸を紡ぎ出し仕上げるまでに1年間かかります。手間暇かけて創り上げられた作品は使う程に味のある風合いになります。地域では、しな織研修生制度を設け、更なる技の伝承に励んでいます。

コラム 34

日本三大古代織

縄文時代から、日本人の祖先は、山野に自生する様々な植物の繊維から布地を織ってきました。日本三大古代織に「しな織り」「芭蕉布」「葛布」があります。

山形県鶴岡市関川と新潟県村上市山北地区に伝わる「しな織り」は、国内最古の織物です。

「芭蕉布」は、13世紀頃から織られ、サラリ感があって体にまとわりつかず、見た目も涼くなっています。温暖化防止のPRで有名な「かりゆしウェア」も芭蕉布のものは1着数万円以上します。

静岡県の掛川に残る「葛布」は、江戸時代は武士の袴や襦などに使われました。アメリカでGrass Clothの名で最高級の壁紙として歓迎され、ホワイトハウスやバッキンガム宮殿の壁紙として採用されたこともあります。こうした古代布の一部が今日も残っていますが、いずれも自然の材料を使い、数多くの工程を根気のいる手作業で行うため、現在では高級品になっています。



紅花染めの米織りで作られた美しい着物



山形伝統工芸神輿（東北六魂祭より）



銀座手仕事直売所での「関川しな織」



和鉄ポット「まゆ」



和鉄ポット「ふく」



熟練した職人の手作業による仕上げ

(2) 進化する山形の伝統の技

① 置賜紬と山形紅花染めで生まれた美しい着物

山形県産の最高級「最上紅」を自分たちで栽培し、糸を染め、織る、「山形紅花染め」の置賜紬の着物は、古くから伝わる草木染技術や織り技術と合わさって多彩な表情を見せてくれます。日本中で着物に使われている絹糸の9割強が海外産となっている現在、同人会による「山形紅花コレクション」は100%が国産の絹糸によるもので、日本の絹糸と山形の紅花を使ったこだわりの置賜紬が注目されています。

② 山形仏壇の技術で結集した「山形伝統工芸神輿」が六魂祭で躍動

「東北六魂祭2014山形」(2014(平成26)年5月24~25日)メインの祭りパレードが山形市中心部で開催されました。山形花笠まつり、盛岡さんさ踊り、福島わらじまつり、仙台すずめ踊り、青森ねぶた祭、秋田竿灯まつりが披露されました。その先頭で登場したのが山形仏壇の伝統技術の粋を尽くして制作された「山形伝統工芸神輿^{みこし}」でした。

③ 羽越しな布の「関川しな織」が東京銀座に登場

暮らしを見つめ、使う人のことを考え、普通でいて特別な魅力を追いかけてきた作家やクラフトマン、職人、デザイナーなどものづくりに一途な人たちの「手仕事」の品々を、お客様に説明して直接販売する「手仕事直売所」が東京銀座で開催され、鶴岡市の「関川しな織」も参加し、多くの人の注目を集めています。

④ 山形カロツェリアプロジェクトで誕生した和鉄ポット「まゆ」

茶の湯の世界でお釜の最上品を生み出してきた日本最古の工芸鋳物産地「山形鋳物」の老舗菊地保寿堂が世界最高峰の工業デザイナーとコラボした、「山形カロツェリア方式」によって、和風ポット「まゆ」「ふく」が世界にデビューしました。「まゆ」は2006年グッドデザインの特別賞を受賞しました。

コラム 35

スカイツリーに使用された 渡辺鋳造所の滑車

高さ世界一の自立式電波塔・東京スカイツリーのメインエレベーターの滑車に、山形市の渡辺鋳造所(渡辺利隆社長)の鋳物製品が採用されました。直径1.5mという巨大滑車で、地上から350mの高さにある展望デッキへ向かう大型4機のエレベーターを担当しました。一度タワーが完成してしまえば、二度と滑車を交換することができないほどの高さで、絶対壊れない滑車を作らなければなりませんでした。たくさんの課題も投げかけられましたが、社員数36人の小さな企業ながら、極めて高度な技術を武器に大きな仕事を成功させることができたということです。

この滑車を使用したエレベーターは、今日も多くの人を乗せ、感動を与えています。



渡辺鋳造所の滑車



スカイツリー



Over many years, traditional crafts have been perfected and passed down from generation to generation. For as long as 950 years, the craftsmen of Yamagata *imono* (Yamagata's cast iron), have produced lots of fine articles. Most of the kettles used for tea ceremonies are cast in Yamagata. Nowadays, those casting skills are often used to make mechanical parts.

Tendo *shogi koma*, *shogi* pieces made in Tendo, make up over 95% of national production. Tendo City holds many *shogi* events, such as *Ningen-Shogi* (Human *Shogi*), to help develop the local area.

Yamagata *butsudan*, Buddhist family altars produced in Yamagata, have been made with expert craftsmanship for 250 years.

Making Okitama *tsumugi* (silk pongee woven in Okitama), which was promoted by Uesugi Yozan, has been passed down in Yonezawa City, Nagai City, and Shirataka Town. Tsuruoka City's *Uetsu Shinafu* is one of the three best ancient fabrics in Japan.



皇居新宮殿「春秋の間」(オリエンタルカーペット)



世界一の極細モヘア糸
(佐藤繊維)



イタリアでの展示会



きびそ糸(上) kibisoストール(下)
(鶴岡織物工業協同組合)



レコード針「ナガオカ」



4 世界にはばたく メイド・イン・ヤマガタ

コラム 36

材料を世界に求め伝統を守る 「軽部草履」(寒河江市)

歌舞伎役者や相撲の行司が履いている「豊国草履」を生産している軽部草履株式会社は草履の国内生産90%を担っています。

特に、青森ねぶた祭で使用する「ハネト用草履」は、毎年10,000足の注文があり、その原料であるトウモロコシの皮と生産を中国に求めてきました。一人前の職人になるには10年(編み方4年、型押し3年、製品加工3年)必要とされますが、中国の高度経済成長により、若い人が草履づくりに就かなくなってきました。

そこで、軽部草履株式会社では、山形大学工学部とプロジェクトを作り、アフリカや東南アジアのヤシの葉を新たな材料にし、現地で生産するという次の一手に着手しています。



「豊国草履」の作業の様子

◆バチカン宮殿、皇居新宮殿に使用 ～オリエンタルカーペット(山辺町)～

バチカン宮殿、皇居新宮殿、京都迎賓館、吹上御所…。国内外の名だたる要人が集まる施設に敷く絨毯を納めているのが、山辺町のオリエンタルカーペット株式会社です。優れた織りの技術と、独自の仕上げ加工(マーセライズ加工)で、多くの納入実績を積んできました。「手織緞通」は、地元の女性職人たちが毛糸を一条ずつ、手作業で織り上げる技術の結晶で、艶があり、心地よい肌触りの最高級の絨毯に仕上げられています。

◆オバマ大統領夫人のカーディガンに使用 ～佐藤繊維・極細モヘア糸(寒河江市)～

米国オバマ大統領の就任式でミシェル夫人が着用した黄色いカーディガンは世界的ブランド、ニナリッチのカーディガンです。それは、メイド・イン・ヤマガタ、佐藤繊維株式会社のモヘア糸で編まれたものです。柔らかい肌触りが特長で風雅な趣から「フウガ」と名付けられたその糸はアンゴラヤギの毛1gを44mまで伸ばした極細モヘア糸(最も細いものは52mに伸ばしたもの)で、歴史的にも不可能とされてきた極めて細い糸を紡ぐことに成功しました。

◆世界に飛躍する絹伝統工業「kibiso」(鶴岡市)

鶴岡市は、高品質なシルクの産地として明治維新以来の伝統が続いています。そして、今、注目を集めているのが、地元の絹関連企業4社からなる鶴岡織物工業協同組合が立ち上げた新ブランド「kibiso」です。キビソとはカイコが繭を作る際に最初に吐き出す太くて、堅い糸のことで織物に不向きとされていました。新ブランド商品「kibiso」は、そんな素材を活用する逆転の発想から生まれた商品です。

◆ダイヤモンドレコード針 世界トップシェア 「ナガオカ」(東根市)

CDの発売・普及とともにレコードの売上は急速に落ち込み、1989(平成元)年末、ナガオカは解散を余儀なくされました。その後、ナガオカは復活・存続し、ダイヤモンドレコード針の製造で世界トップシェアを誇っています。「レコードがある限り針を供給し、レコード文化を守ることが使命」という心意気で、ダイヤモンドとチタンを加工した、直径0.25mm、長さ1mmの精巧なレコード針を作り続けています。

世界に愛されている山形の製品

高い技術力こそが朝日ブランド

株式会社朝日相扶製作所（朝日町）

発注元企業でブランドとして販売される椅子やソファを中心に木工家具を製造しています。デンマークのワンコレクション社から発注を受けた椅子は、国連本部ビル会議場で使用されています。



本場欧州も注目する謹製靴

宮城興業株式会社（南陽市）

創業以来、一貫して「Goodyear Welted（グッドイヤーウエルト）」という製法にこだわり、選び抜かれた素材と磨き抜かれた技術で200を超える工程を経た良靴を作り続けています。



世界が求め続ける良質低価格品

山形クラッチ株式会社（鶴岡市）

山形クラッチの主要製品はクラッチカバーとクラッチディスクで、軽自動車から大型車両まで、約400種類ものクラッチを製造しており、世界の自動車に使用されています。



機能美を実現した高度なフォルム

株式会社ダイユー（新庄市）

ダイユーで製作された自動車シートは、ホンダ、スズキ、三菱、レカロなど、多くの自動車メーカーの車種に採用されています。そして、その縫製作業のほとんどを女性社員が担っています。



生産の国内回帰をめざし自社開発

株式会社ウエノ（鶴岡市）

パソコンやエアコン、テレビ、冷蔵庫などの各種家電製品、通信機器など、あらゆる電子機器に使われているノイズを除去する「トロイダルコイル」をつくっています。右の写真は完全自動化可能にした装置です。



真摯にもつくり、大胆にソリューション

株式会社タカハタ電子（米沢市）

自社ブランドの液晶カラーモニターは、各種産業用のモニターに使用されています。さらに、ドイツ車及び国内自動車メーカー向けのカーナビモニターや車載用、自動販売機用、FA操作パネル用液晶モニターの開発生産をしています。



観る、診る、測る、その最先端を一貫生産

株式会社トプコン山形（山形市）

トプコン山形では、医師が眼球を診察するための機器、スリットランプと3次元眼底像撮影装置をつくっています。右の写真は、その最終検査の風景です。



超精密加工を核にした製品開発

エムテックスマツムラ株式会社（天童市）

超精密加工を得意とし、各種製造装置、半導体、カメラ用部品、自動車部品の事業を展開しています。半導体デバイスを成型する金型も自社で製造しており、製品の薄型化、小型化による、ミクロン（1/1000mm）単位の厳しい精度に対応しています。



海外市場を見据えた超小型化戦略

ワテック株式会社（鶴岡市）

一般監視カメラをはじめ、工業、医療、天文系のCCDカメラ等の生産、販売を行っています。1988年ソウルオリンピックの開闭幕式、パラシュートで空から舞い降りてきた出演者のヘルメットにはワテック製の超小型CCDカメラが装着されていました。



世界が求める精密精巧な技術力

ハイメカ株式会社（米沢市）

下の写真はタンタルコンデンサ製造装置の内部で、海外から注文を受けてハイメカが設計、開発したものです。製品の品質が均一で、優れていると高い評価を受け、国内外から注文を受けています。



「発電する窓」の開発

伊藤電子工業株式会社（寒河江市）

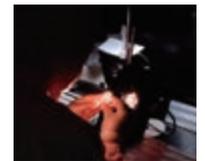
太陽や蛍光灯などの光を受け、電気を起こす次世代の太陽電池パネルです。軽量なのでだれでも気軽に設置ができ、また透明なので窓に取り付け、紫外線などを吸収することでまぶしくも無く、日焼けも抑えられます。近年量産化を目指しています。



他の追従を許さない精密度

アヒコファインテック株式会社（新庄市）

アヒコファインテックの主力製品はCCDカメラの心臓部である半導体を守るカバーガラスです。マイクロ単位の塵も許されない精密な加工作業には細心の注意と技術が要求されます。写真は、暗室のクリーンルームでの目視による最終検査の様子です。



Many of the products made in Yamagata are loved all over the world. Oriental Carpet in Yamanobe has made carpets used in the Vatican Palace. Sato Sen-i in Sagae succeeded in spinning one of the finest mohair yarns in the world; at President Obama's inauguration ceremony, his wife Michelle Obama wore a yellow cardigan woven with mohair yarn from Sato Sen-i. Four silk companies in Tsuruoka have worked together and developed a new brand, "kibiso," which is quickly becoming famous around the world. Nagaoka in Higashine makes 80% of the needles for record players in the world. They continue to satisfy customers all over the world by making delicate record player needles with a diameter of 0.25mm and a length of 1mm.

5章 まち・ひと・しごと 地方創生への道



庄内米の秋の収穫



魚介類が豊富に捕れる庄内浜



焼畑で栽培される赤かぶ



庄内の恵み、海・山・大地の食材



庄内砂丘のメロン



白山地区のだだちゃ豆



種のない柿「庄内柿」

1 山形発！ 世界に発信

コラム 37 砂丘メロンと地域づくり ～鶴岡市西郷地区～

庄内砂丘では、強風と飛砂から暮らしを守るために、江戸時代から砂防林の整備が進められ、西郷地区でも砂防林に守られて、メロン生産などの砂丘地農業が発展してきました。

「鶴岡市西郷地区農林活性化センター」は、このような地域の歴史や自然を後世に引き継ぐための交流拠点施設として、鶴岡産のスギで建築され、燃料には砂防林のクロマツから作られたペレットを使うなど、地域の資源をふんだんに生かして整備されました。

当センターは、森づくり関係の研修会や、メロンなどの農業体験、帰省客を含む地域住民の夏祭りなど、地域内外の人が集まる拠点となり地域づくりに大きく貢献しています。



センターにおける砂防林の下刈体験

(1) 世界に認められた食の都「庄内」

①日本初のユネスコ創造都市（食文化）に 認定された鶴岡市

2014（平成26）年12月1日、鶴岡市は、日本で初めて食文化部門においてユネスコ創造都市に認定されました。鶴岡の誇る食文化がユネスコによって世界的に認められたということです。

鶴岡市の面積は東北地方でもっとも広く2,000m級の高山から0mまでの高低差があり、幅広い温度帯をつくり出しています。さらに四季の変化がはっきりし、多種多様な農産物や山菜などに恵まれています。市の西側は日本海に面しており、対馬暖流の影響で、季節ごとに様々な旬の地魚が水揚げされます。そして、市の北部は広大な庄内平野が広がる、日本有数の穀倉地帯となっており、おいしいと評価の高い「つや姫」を開発した県の試験場があります。

鶴岡市の豊かな食文化は突如実現したものではありません。種のない不思議な柿の木に将来性を感じ苗木を育成し普及に励んだ「庄内柿」や庄内砂丘の特性を生かした庄内砂丘メロン等、先人たちが自然と生命の営みに誠実に向き合い、たゆまぬ努力と研さんにより培われました。また、だだちゃ豆などの在来作物が50種類以上も継承されていますし、温海かぶの生産では、自然と一体に進める伝統的な焼畑農法を守り伝えています。

家庭には、四季折々に数百種の郷土料理が受け継がれています。鶴岡市で生まれた学校給食では、地元の食材を用いた料理が提供され、子どもたちの食の教育も進められています。さらに、伝統的な調理法を守る料理人とクリエイティブな料理人の双方の取り組みにより、郷土料理は発展し国内外で高い評価を受けています。



出羽三山の精進料理

舞茸と厚揚げの煮物、胡麻豆腐のあんかけ、煎りなめこ、季節の野菜の天ぷら、カサノモト（菊）の酢の物、カラトリ（ズイキ）の胡麻みそ和え、イタドリとトマトの酢の物、ぶなかのか（キノコ）の和え物、あけびの皮の煮物、きのこの味噌汁



- ① 黒豆ご飯
- ② 焼き豆腐の田楽
- ③ ハタハタの田楽
- ④ 黒豆なます
- ⑤ 納豆汁
- ⑥ 米炒り

大黒様のお歳夜の献立（提供：つるおか おうち御膳）



- ① ご飯
- ② 赤かぶ漬
- ③ 口細カレイ
- ④ イクラなます
- ⑤ 雑煮餅
- ⑥ 鮭と大根の煮付け
- ⑦ 菊のお浸し

田の神上げの献立（提供：つるおか おうち御膳）

② 庄内に伝わる伝統的な御膳

～ミシュランも認めた出羽三山精進料理～

ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに羽黒山の「杉並木」^{さんじん}「三神合祭殿」^{ごうさいでん}の他に、出羽三山精進料理を出す「斎館」^{さいかん}などが紹介されています。羽黒山には、山伏が食べていたという多くの種類の精進料理が伝わっています。山伏の食事は、もともと、自給自足だったと言われていました。昔はその日に採れたものを、その日のうちに生のままで食べていましたが、だんだんと火を通す調理方法も取り入れるようになりました。生では食べられないアクの強いものも、おいしく食べる方法を探して、塩漬けや乾燥させて保存するようになり、山に来られた方に振る舞うようになったと言われていました。2011（平成23）年には、フランスとハンガリーで、羽黒山伏による山伏文化の紹介と斎館料理長による調理デモンストレーションが開催され、精進料理の背景にある「庄内の豊かな自然」と「羽黒修験道の精神」^{きょうしん}を凝縮した味が絶賛されました。また、2015（平成27）年には、イタリア・ミラノで開催された国際博覧会でも紹介され、精進料理が世界の注目を集めました。

そのほかにも、鶴岡市では大黒様のお歳夜の献立や田の神上げの献立が家庭の中で受け継がれています。大黒様のお歳夜（12月9日）は大黒様が妻を迎える夜とされています。豆炒りや米炒り、まっか大根（二股大根）を供え、納豆汁や黒豆料理と大根料理を食べて、豊作と子孫繁栄を祝います。豆と大根は畑作物の代表であり、それらを供えることは大黒天を農神として信仰していることを示しています。

田の神上げ（11月23日）は、1年間田を守っていただいた神様に感謝し、田の神が山に帰るのを送る日に食べる献立です。今年採れた新しい餅米で餅をつき、箕に入れ、稲穂、お神酒、新米と尾頭付きの焼き魚とともに神棚に供えます。その年の新米は田の神上げの際に初めて食べていました。

コラム 38

ミラノ万博で山形・鶴岡の食文化を発信（2015年10月）

イタリア・ミラノ国際博覧会（万博）の「日本館」イベント広場で2015（平成27）年10月2日、日本で初の「国連教育科学文化機関（ユネスコ）食文化創造都市」に認められた鶴岡市が、だだちゃ豆に代表される伝統野菜や出羽三山の精進料理など地元の食文化を発信するイベントを行いました。東奥三大霊場の一つ、出羽三山にある羽黒山斎館の料理長伊藤新吉さんは、ごま豆腐や地元産タケノコなどを使った精進料理を振る舞い、鶴岡市のイタリア料理店のオーナーシェフ奥田政行さんは、だだちゃ豆と庄内米を使ったりゾットなどを紹介しました。



羽黒山精進料理



Tsuruoka City was the first city in Japan to be selected as a UNESCO Creative City of Gastronomy. Tsuruoka has areas with very different altitudes and clear difference between the seasons, so a wide variety of agricultural products are grown there. The mountain areas in Tsuruoka are rich in natural blessings, like various *sansai* (edible wild plants). In the western part of the city, facing the Sea of Japan, delicious fish are caught in every season. The northern part of the city, where the vast Shonai Plain spreads, is one of the leading rice production areas in Japan. Also, more than 50 kinds of conventional crops, such as *dadacha-mame* (gourmet soybeans) and *atsumi-kabu* (red turnips), have been passed down.

In the Shonai region, traditional cuisine has been passed down as well. “*Dewa Sanzan shojin-ryori*” (Buddhist vegetarian cooking) is included in the *Michelin Green Guide Japon*. Moreover, the dishes *Daikokusama-no-Otoshiya* and *Tanogamiage* have been handed down in each home in Tsuruoka.



山形国際ドキュメンタリー映画祭2015（平成27年10月9日 山形新聞）



多数のエキストラが参加した撮影



フィルムライブラリー



子ども映画ワークショップ

（山形国際ドキュメンタリー映画祭2015より）



桜の霞城公園撮影



東北芸術工科大学

コラム 39

ヒット映画誘致の秘密

—山形フィルム・コミッション—

豊かな自然が残る原風景、^{そうごん}荘厳な歴史建造物、そして東京から新幹線で一本という利便性などもあり、今、山形は多くの映画・TV関係者が注目する場所になっています。ヒット作誘致には、「おもてなしの心」を持って映像の撮影が円滑に進むよう、陰で支える「山形フィルム・コミッション」の存在があります。

「山形フィルム・コミッション」の支援の一つは、許可申請を一手に引き受けることです。「るろうに剣心 京都大火編／伝説の最後編」の撮影では、旧県庁舎「文翔館」で撮影したいという希望を受け、県への許可申請を進めました。

二つ目は、「必ず撮影に立ち会う」ということです。映画の撮影では、制作者と地域住民が互いに信頼されることが大切で、そのために、必ず撮影に立ち会い、撮影を円滑に進めています。



撮影場所となった文翔館

（2）映画分野で創造的資産のある山形市が ユネスコ創造都市を目指す

山形市は、日本で初めてとなる映画分野でのユネスコ創造都市への認定を目指しています。山形市では、これまでも映画分野で創造的な活動をしてきており、多くの実績を積み重ねています。

①毎回2万人以上参加する「山形国際ドキュメンタリー映画祭」

本映画祭は、世界最高のドキュメンタリー映画祭の一つと評され、世界が注目し続けています。映像文化の多様性を保持し、映画と人との深い交流を目指した四半世紀にわたる実践の歴史は揺るぎないもので、世界の映像作家たちから厚い信頼を寄せられています。

②13,000余りの記録映画を収蔵する

「山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー」

山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催のたびに、集積されてゆく貴重な世界の記録映像は、現在、13,000余りで、それらの作品をすべて収蔵しています。その価値は今後ますます高まり、まさに世界遺産クラスの貴重な「映像現代史」となっています。

③地域活性化に貢献する「山形フィルム・コミッション」

映画、テレビドラマ、テレビコマーシャルなどの映像作品の撮影を地域に誘致し、実際に撮影が円滑に行われるための様々な支援を行う非営利公的機関で、山形市役所内の事務局で運営されています。撮影支援に関するサービスは無償で行い、撮影実績は10年間で480件になっています。

④数多くの映像クリエイターを輩出している「東北芸術工科大学」

若い文化芸術の担い手を育成しているのが東北芸術工科大学です。これまでも、数多くの映像クリエイターを輩出し、日本で、世界で活躍しています。また、2014（平成26）年から、山形をアートの街とした「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」を開催しています。

⑤子ども映画ワークショップの取組み

小学生から高校生までを対象として、映画に関するワークショップを開催しています。学校では学べない「観る」「作る」「表現する」喜びに子どもたちの目が輝いています。



2015（平成27）年度新庄まつり260年祭ポスター



三國志赤壁の戦い「諸葛亮孔明の知略」（H27最優秀賞）



新庄まつり神輿渡御行列

（3）ユネスコ無形文化遺産を目指す 「新庄まつりの山車行事」

①国指定重要無形文化財からユネスコ無形文化遺産に

2009（平成21）年3月、「新庄まつりの山車行事」が、「日本の山・鉾・屋台の祭りの変遷を知る上で重要である」として、国の重要無形民俗文化財に指定されました。そして、2015（平成27）年3月、京都祇園祭の山鉾行事等とともにユネスコ無形文化遺産に提案されました。

②市民がつくり上げる日本一の山車まつり

初日の「宵まつり」、各町内の若連が1か月余りかけ、精魂込めてつくり上げた山車は、8月24日の夕刻、子どもたちに引かれて動き出します。歌舞伎の名場面や歴史絵巻を再現した山車に照明が入ると、人々を光と影が織り成す幽玄の世界へといざないます。2日目、神輿渡御行列が戸澤神社を出発し、いよいよ豪華絢爛の20台の山車の登場です。そして、最終日、新庄市や日本各地の郷土芸能が披露される中、各町内山車小屋を出発した山車全20台が市内中心街に一同に集結（飾り山車）し、街中、鹿子踊が開催されます。南本町十字路での手締め式で新庄まつりはフィナーレを迎えます。

ここには、神輿担ぎ手や鉄砲組の子ども、山車の作り手である若連や曳き手となる小若、囃子若連など世代を超えて市民でつくり上げている姿を見ることができます。また、商業地域の人たちが山車を作り、農村地域の人たちが囃子を担当するという都市と農村の連携など、「新庄まつり」を通じた地域コミュニティの活性化が図られています。

コラム 40

新庄まつりの起源

藩政時代の1756（宝暦6）年、時の藩主戸澤正諲が、前年の大凶作で打ちひしがれている領民に活気と希望を持たせ、豊作を祈願するために、戸澤氏の氏神である城内天満宮の「新祭」を領内あげて行ったのが起源とされています。

約260年前に始まったまつりは、その長い時の流れの中で、少しずつ変貌を遂げてきました。しかし、いくら歳月を重ねても、変わらなかったものは、人々のまつりにかける情熱です。宵まつり・本まつりに絢爛豪華を競う日本一の山車パレード、古式ゆかしい神輿渡御行列、新庄城址で踊られる風雅な萩野鹿子踊・仁田山鹿子踊…。藩政時代をしのびせる歴史絵巻が繰り広げられる新庄まつりは、圧倒的なスケールで、見るものを魅了します。新庄の夏は、毎年、このまつりの興奮と熱気でフィナーレを迎えます。



Yamagata City is trying to be certified as a UNESCO Creative City of Film, and takes creative part in the field of movies with events such as the Yamagata International Documentary Film Festival. The Yamagata Film Commission has invited as many as 480 movies, TV programs, dramas, and commercials to Yamagata in the past ten years.

The Agency for Cultural Affairs proposed the *yatai* (festival float) events in the Shinjo Festival as an Intangible Cultural Heritage. This festival actively involves the local communities: people in the commercial areas make *yatai*, while people in the agricultural areas play festival music. All of the citizens, both young and old, work together to hold this festival.



さくらんぼ狩り



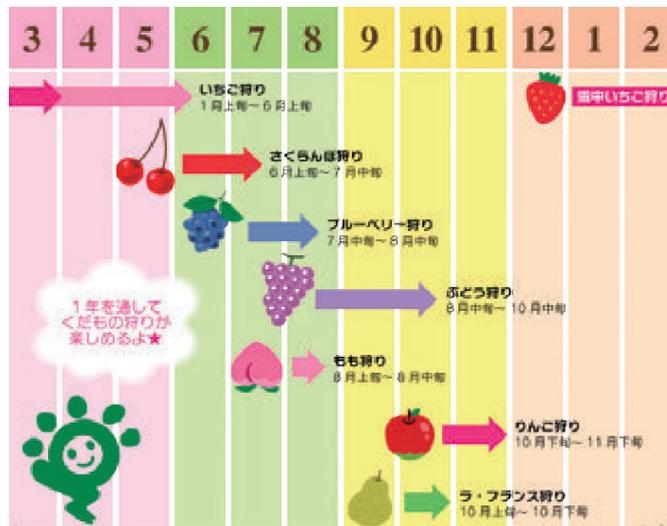
ぶどう狩り



ブルーベリー狩り



いちご狩り



寒河江市観光果樹園周年カレンダー



「道の駅寒河江チェリーランド」



食と農の拠点「さがえ西村山アグリランド」

2 山形らしく、地域づくり

コラム 41

日本有数のばらの産地

湯船に浮かぶ無数のばらの、ゴージャスな香りに包まれて…寒河江市特産品・ばらを使ったユニークなお風呂が評判を呼んでいます。美肌効果の湯にばらが浮かぶ光景はとっても優雅、芳しい香りでお心まで満ち足りた気分になります。

さくらんぼの産地で有名な寒河江市は、花の栽培も盛んで、ばら、きく、ストック、トルコぎきょう、洋ラン、花木、鉢物等を生産しています。中でも、ばらの生産は急速に伸びており、花き産出額全体の約8割を占め、寒河江市は、日本有数のばらの産地となっています。



新寒河江温泉 ばら風呂

(1) 日本最初のグリーン・ツーリズム(観光農業)を進めたまち寒河江市

①一年を通して果物狩りが楽しめる観光農園

寒河江市はさくらんぼの産地として全国的に有名で、現在は年間120万人の観光客が訪れています。しかし、30年前はたった5万人でした。それを大きく変えたのが地域ぐるみでの観光農業(グリーン・ツーリズム)への取組みです。さくらんぼ狩りだけでなく、いちご、もも、ぶどう、りんご、ブルーベリー狩り、田植えや稲刈りなどを『体験』し、それぞれを観光化する企画を考えたことにより、年間を通して途切れることなく観光客が訪れています。

日本の観光農業(グリーン・ツーリズム)が、農林水産省により提唱されたのは1992(平成4)年のことですが、寒河江市はそれよりずっと早い1984(昭和59)年に、農協、寒河江市、農家に加えて、温泉旅館、鉄道・バス会社、飲食店などのあらゆる観光関連事業者が参加する「寒河江市周年観光農業推進協議会」を設立しています。

②大規模施設を拠点に「食と農」による地域の活性化

寒河江市では、「道の駅寒河江チェリーランド」と「さがえ西村山アグリランド」の大規模施設を拠点に「食と農」による地域の活性化を目指しています。

「道の駅寒河江チェリーランド」には、さくらんぼの資料を展示する「さくらんぼ館」のほか、「チェリードーム」、「トルコ館」などがあります。また、人気の手作りアイスは米やゴマなど常時14種類を用意しています。特産品「豊国草履」の販売や「雪中いちご狩り」も行われています。「さがえ西村山アグリランド」の産直センターには、500名を超える農家が、新鮮でおいしい農産物を出荷しており、そのひとつひとつが顔の見える安全で安心な逸品です。県内最大級の売り場面積を誇っており、朝採りの新鮮な野菜や、他店では販売されていない珍しい野菜も販売しています。



大石田元気プロジェクトー OGPー



南陽市の若い力「米部」のスタッフとその仲間

(2) 地域興しの若い力

①郷土料理による地域活性 大石田元気プロジェクトーOGPー

大石田町は、「そばの里」として有名ですが、「にぎりばつと」というそばの郷土料理を活かして食を通したまちづくりを行っているのが、若者の地域興しサークル「大石田元気プロジェクトーOGPー」です。

昔、麺状にしたそばは殿様への貴重な献上品で、庶民が食することは禁じられていました。しかし、当時の人々は、飢えをしのぐため何とかそばを食べようと、にぎっておつゆに入れて食べたのが「にぎりばつと」の由来です。にぎって指のあとを付けることとご法度がかき合わされ、なまって「にぎりばつと」となった郷土料理です。県内各地の様々なイベントに出展し、大石田町をPRしています。

また、地元の高校生と連携して取り組んでいる「大石田そばシリーズ」では、そばの種まき、そば挽き、刈り取り、そば打ち、そば染め等の体験活動を企画・運営し、町内外から多くの参加者が集まっています。「大石田の元気と魅力を新発見・再発見」をコンセプトに郷土愛あふれる活動を展開しています。

②地域づくりに励む南陽市の若き農民グループ「米部」

南陽市では、若者によるまちづくりの活動が積極的に行われています。その中の一つに若者5人による「米部」があります。米を用いた独自の南陽ブランドを生産から販売まで一貫している点が高く評価され、「夢はぐくむ故郷南陽コンペティション」で大賞に輝きました。

大切な人に贈りたいと思うような甘くておいしいお米をつくりたいという発想から、りんごの堆肥を使ったお米「あまい」をつくることを思いつきます。米農家であるメンバーの田んぼを借り、果樹農家でできた傷モノのりんごをフルに活用しました。より甘くするために、りんごを堆肥としてだけでなく丸ごと田んぼにまいたり、恋愛の俳句を稲に読み聞かせたりと、異例の米づくりに挑戦しました。りんごが功を奏してか、より糖度の高いお米ができました。



贈答用ブランド米
米部作「あまい」

コラム 42

若い力が躍動「徳内まつり」

むらやま徳内まつりは、若い力が躍動する新しい祭りで、1995（平成7）年から始まりました。

「徳内ばやし」は、郷土出身である、江戸時代の北方探検家『最上徳内』が建立した神明宮（現・厚岸神社）に伝わるお囃子が村山市に伝わり、独自の発展を遂げました。

豪華絢爛な山車に、鉦、笛、大太鼓、綿太鼓、掛声等からなる囃し手が乗り込み、踊り手は鳴子を手にアップテンポなお囃子に合わせて勇壮かつ華麗に踊ります。

8月下旬、村山市内を会場に開催される祭りでは、各団体が特色のある踊りを繰り広げます。会場となる沿道では、山車や躍動感溢れる踊り手たちを間近で見られ、ステージ観覧席では、趣向を凝らした演出による「SHOW」を体感できます。



In 1994, Sagae City started agritourism, or “green tourism,” for the first time in Japan. Green tourism is popular in Europe, and was first proposed in Japan in 1992. Tourists come to Sagae all year round to enjoy picking cherries, strawberries, peaches, grapes, apples, blueberries, and more, or to experience rice planting and harvesting.

Some young people in Yamagata actively engage in *machizukuri*, or community development. Among them are five young people in Nanyo. They call their group “Komebu”(The Rice Club). Komebu succeeded in creating a special rice, “Amai,” grown in apple compost. Amai-brand rice is popular as a gift.



三川町「菜の花まつり」での写真撮影風景



山形県トラック協会と連携した朝日町の菜の花栽培

コラム 43

ばら栽培で地域づくり (鮭川村)

鮭川村の山間の曲川地区にばら栽培のハウスが8棟並びます。同じように京塚地区にも8棟あり、約60種類のばらを年間350万本生産しています。

冬期間の日照不足を補うために、ばら栽培では日本で初めてナトリウムランプを取り入れた水耕栽培、アーチング方式(地上50~60cmの架台上的ベッドで栽培する方法)など最新の技術と管理で高品質のばらを日本全国に届けています。

地元の多くの人たちが誇りを持って働いています。



ばら栽培の曲川ハウスとスタッフ

(3) 花を活かしたまちづくり

① 菜の花が町中に咲き誇る三川町

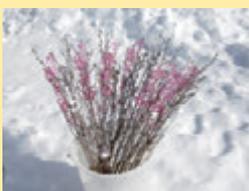
春は菜の花の季節です。この時期、三川町では鳥海山や月山を背景にして菜の花が美しく咲き誇り、県内外から大勢の観光客が訪れます。ゴールデンウィークには「いろり火の里」において『菜の花まつり』が開催されます。紺の着物に赤い前掛け姿の笑顔も愛らしい菜の花娘をモデルにした写真撮影会には、県内外から多くのアマチュアカメラマンが訪れます。

② トラック協会と連携した「菜の花プロジェクト」~朝日町水本~

山あいを開けた朝日町水本地区では、農産物価格の低迷や担い手不足から、田んぼ、ホップ畑、牧草地などの耕作放棄地の増加に悩んでおり、耕作放棄地を活用して地域農業を支援する団体を募集していました。一方、公益社団法人山形県トラック協会では、菜の花を栽培し、それを原料にしてトラックの燃料にする環境負荷軽減に取り組もうと事業候補地を探していました。

お互いの目的が一致し、トラック協会と地区の住民で構成する協議会を設立し、町と連携して「菜の花プロジェクト」に取り組むことになりました。2007(平成19)年度から取り組み、耕作放棄地だった場所は、一面の菜の花畑に生まれ変わりました。5月の連休明けに開催される「水本菜の花観写祭」には多くの人を訪れるようになり、地域の活性化につながっています。また、菜の花食用油を学校の給食施設に無料で提供したり、収益金の一部を子どもたちの環境教育のために、町に寄付したりするなどしています。

コラム 44 日本一の啓翁桜~正月を可憐に彩る冬の花~



啓翁桜はつぼみの状態で出荷され、届いた人の手元で満開を迎えます。



雪に覆われた畑のなかで休眠中の啓翁桜。この枝を切り出し、ハウスの中で温度調節しながらつぼみまで育てます。

冬に観賞できる桜として人気の高いのが『啓翁桜』です。山形県は、栽培に適した気候風土や高い技術力から全国一の出荷量を誇っています。

山形の秋から冬にかけての厳しい寒さで木は休眠し、出荷にあわせて、休眠打破処理や促成管理を行います。すると木は「春が来た!」と勘違いするという仕組みです。ちなみに、啓翁桜の出荷時期は12月から翌年の3月までです。

現在は正月を可憐に彩る冬の花として人気が高く、卒業式や入学式といったハレの日を華やかに彩る花としても注目が集まっています。

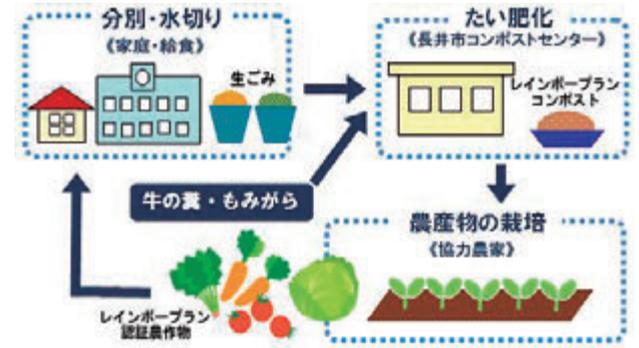


除草剤を使わず手作業での除草



田んぼの生きものを指標に学ぶ

上和田の特別栽培米



長井市レインボープランの仕組み



生ごみの回収



コンポスト



レインボー野菜

(4) まち全体が協力し合う有機農業

①全国に知られる有機農業の里“高島町”

まほろばの里・高島町、その中の和田地区は全国に知られる有機農業の盛んな地域で、「ゆうきの里」と呼ばれています。高島町は、約30年も前から若者が中心となった有機農業運動のたゆみない足跡があり、生命と環境にやさしい農の未来を目指してきました。

上和田地区の水田では、動物94種類、植物59種類の多くの生き物が確認できます。これは、化学肥料や農薬、除草剤を使わず、オリジナル有機肥料や天然鉱石を原料としたミネラル肥料を使用し、組合員が一丸となって手作業で除草をするなど、土壌の環境や生き物にやさしい米づくりをしているということです。

このような農業で生産されたのが上和田有機米生産組合の「特別栽培米」で、全国米食味鑑定コンクールで5年連続で金賞を受賞、第15回環境保全型農業推進コンクールで農林水産大臣賞を受賞しました。

②循環型社会への挑戦～長井市レインボープラン～

レインボープランは、長井市の家庭生ごみの分別収集、長井市コンポストセンターによる生ごみの堆肥の生産、農家による安全な農作物の生産という、地域内での有機資源の循環利用システムです。

長井市では、農家と消費者との相互理解を深めることで、自然環境の改善と健康な食生活を生み出し、自然と人間の永続的な共存を図ることを目指しています。特に、レインボープランで作られた堆肥のすべてが長井市内の田畑に戻され、生産された農作物（レインボー野菜）が市民の食卓に提供されることが高く評価されています。

生産者の顔が見える、安心して食べられる農産物として、学校給食やNPO法人レインボープラン市民市場「虹の駅」、NPO法人レインボープラン市民農場、JA直売所「愛菜館」、常設店（「長井村塾」やレインボープラン農産物取扱店）を通して市民の食卓に届けられています。

コラム 45

置農MOTTAINAIプロジェクト

置農MOTTAINAIプロジェクトは、県立置賜農業高校を中心とした産学官連携の地域資源リサイクルシステムです。

ワイン製造事業者等から排出される「ワイン残さ」を、置賜農業高校で飼料化し、その飼料を同校や畜産農家で飼育している豚や鶏に与え、肉のブランド化を図っています。さらに、畜産農家から排出される糞尿で堆肥を作り、その堆肥でぶどうを栽培し、そのぶどうをワインづくりの材料にします。

このプロジェクトには、高島ワイン株式会社、山形食品株式会社、野川豆腐店、置賜MOTTAINAI研究会、やまがた地鶏振興協議会が参加しています。



置賜農業高校MOTTAINAIプロジェクトチーム



Flowers are used as a means of community development in Yamagata. In Mikawa Town in spring, rapeseed blossoms bloom against the background of Mt. Chokai, and this beautiful scenery attracts many tourists. The Yamagata Trucking Association grows rapeseed plants in Asahi Town and uses them as fuel. In Sakegawa Village, they build greenhouses in mountainous areas and produce about 3,500,000 roses (about 600,000 kinds) every year. *Keiozakura*, a variety of cherry blossoms that bloom in winter, are grown in many places in Yamagata.

In some parts of Yamagata, people are working to introduce organic farming and promoting a recycling society. Takahata Town is famous nationwide for organic farming, and the organic rice produced in the Kamiwada district has won several awards. Nagai City promotes a recycling society with its Rainbow Plan, which is a regional distribution system. They grow vegetables and fruits using the compost made from the raw garbage.



ひじおりの灯2015の開催 (撮影/FLOT 瀬野広美)



ひじおりの灯を制作する東北芸術工科大学の学生



酒田市飛島風景



島の祭典「アイランダー」で飛島を紹介する、東北公益文科大学と島の若者たち

3 大学生と取り組む 地方創生

コラム 46

飛島のスタチ ～北限のかんきつ類へ

地球温暖化に伴い植物の生育環境が変化する中、県は2010(平成22)年から「温暖化対応プロジェクト」に着手し、常緑果樹であるかんきつ類の試験栽培を、酒田市の浜中と飛島で始めました。その結果、飛島では、5年目の2015(平成27)年には、3本の樹から300個のスタチが収穫されました。

離島の飛島は県の最北に位置していますが、周囲を対馬暖流が流れているため、年平均気温が12度以上と県内で最も高く、積雪も10cmに達することはまれで、タブノキやヒサカキなどの常緑広葉樹に覆われる温暖な気候であることから、試験栽培地に選ばれました。

成木になり安定した収穫が得られれば、「北限のかんきつ類」として、島の新鮮な魚介類などに利用した料理レシピや加工品が開発できると期待されています。



飛島のスタチ

(1) アートプロジェクト「ひじおりの灯」 (肘折温泉×東北芸術工科大学)

「ひじおりの灯」は、大蔵村肘折地区と東北芸術工科大学が、肘折温泉開湯1200年を迎えた2007(平成19)年の夏から共同で開催しているアートプロジェクトです。霊峰月山の麓で、いにしへの湯治文化を今に伝える肘折温泉では、毎夏、山形に縁ある若手画家に作画を依頼した灯籠絵「ひじおりの灯」を、夏の夜の温泉街で点灯しています。

東北芸術工科大学で絵画やデザインを学ぶ学生が2泊3日の合宿を行うなかで、肘折に住む人々から民俗学的手法で聞き取り調査を行います。そしてその話をモチーフとして、手漉きの月山和紙に各自が思い描いた「肘折絵巻」を表現していきます。その絵巻は庄内地方の職人の手で灯籠として組み立てられ、肘折温泉の夏の夜を彩っていきます。

2015(平成27)年7月25日、9年目・9回目の開催となる今夏も、肘折の暮らしの情景や、古くから語り継がれる民話、地藏信仰、周辺の雄大な自然などを描いた、新作18基を含む美しい灯籠絵43景が訪問客を楽しませてくれました。

(2) 若者が文化の拠点をつくる(飛島×東北公益文科大学)

東北公益文科大学では、2001(平成13)年の開学時から「島を元気にする」活動を実践しています。島内外の団体と共創して「飛島グリーンアップ作戦」「天保そば&ごども収穫感謝祭(島民と応援団の交流)」「三島交流会(佐渡・粟島・飛島の島づくりを学ぶ交流)」に運営参加したり、農商工連携「とび魚だしプロジェクト」で特産品開発を進めてきました。現在は、観光情報発信、地区防災計画づくりの支援に取り組んでいます。

その中で、2011(平成23)年に、島民、島の応援団(NPO、大学)、県、酒田市が共に島の未来を話し合い、事業を進める「とびしま未来協議会」が発足しました。住民主体の離島振興計画策定に取り組み、将来を見つめた議論が活発になる中、2013(平成25)年に「合同会社とびしま」が誕生しました。現在20~30代のU・Iターン者8人で、歴史文化の保存・継承の活動を基盤に、1~3次産業までを一体化して行う6次産業を目指しています。また、東北公益文科大学が企画運営した共創・交流拠点「しまの家」の理念が、同会社に新しい形で引き継がれ、島の食や観光情報を提供する「島のカフェスペース しまかへ」「島の駅 とびしま」や資料館「島のミュージアム 潤」、特産品開発を行う加工所等の拠点づくりを進めています。



山形大学COC推進室活動事業 地域の課題を聞く学生



最上地域でのボランティア活動（山形大学）



山形市中心商店街活性化（東北芸術工科大学）



酒田おもてなし隊（東北公益文科大学）

（3）地（知）の拠点大学による地方創生の活動

①山形大学の取組み

～自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成～

山形大学は、県内各地域が抱える課題解決策を研究して、持続的に発展し得る活力ある社会システムを構築するために、地域の課題に対応できる人材を育成することを目指しています。各事業実施地域（山形県、山形市、米沢市、鶴岡市、上市市、真室川町、戸沢村）にはCOC地域推進部会を設置して推進しています。

②東北公益文科大学

～地域力結集による人材育成と複合型課題の解決～庄内モデルの発信～

大学を中心に、庄内の地域課題について共に学びあい解決策を考え、実際に行動する人材を育て、「庄内地域カレッジ」など具体的な活動を展開する庄内モデルの構築と発信を行っています。「酒田おもてなし隊」は、山形デスティネーションキャンペーンを学生の力で盛り上げようと酒田駅にて送迎と案内の活動を実施して多くの観光客をもてなし、また地域の方の笑顔を集めた動画を製作し魅力を発信しています。

③東北芸術工科大学

～人口減少期の芸術・デザインによる地域の新価値創造～

芸術・デザインの潜在力で、人口減少期の地方の「新しい豊かさ」を創造する人材の育成を通して、自治体、市民と協働しながら、「創造的に暮らし活動する人」、「市民活動に関わる“活動人口”」、そして「交流人口」を地域に根付かせる、新しい価値の創造事業を推進しています。

コラム 47

地（知）の拠点大学による 地方創生推進事業（COC+）



文部科学省では、平成27年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組みを支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」を実施しています。

山形県では、山形大学が採択され、東北公益文科大学、県立米沢栄養大学、東北文教大学、東北文教大学短期大学部、鶴岡工業高等専門学校も事業協働機関として参加しています。



University students in Yamagata contribute to the vitality of their communities. The students of Tohoku University of Art and Design carry out an art project called “*Hijiori-no-Hi*,” or “the lantern light of Hijiori.” The beautiful artwork on lanterns shows the lives of the people, the folk tales, and the nature of Hijiori, and delight visitors. Students of the Tohoku University of Community Service and Science help the people of Tobishima Island with work and events and are learning about lifestyles and regional development on the island. Yamagata University, Tohoku University of Art and Design, and Tohoku University of Community Service and Science are designated as COC+ (Center of Community) universities. Students of each university are studying and thinking about how to solve regional problems together.



黒森歌舞伎を演じる子ども（酒田市）

かた雪渡り
かた雪アごっちごち
いぬこちアごっちごち
こち



(絵：高橋貞二)



童唄を歌う真室川町立真室川あさひ小学校の児童（真室川町「安楽城の童唄保存会」）



絶滅が危惧される蝶を観察する子ども（チョウセンアカシジミを守る会 川西町）
（平成23年6月21日 山形新聞）



小田島田植踊（東根市「小田島田植踊子供伝承会」）

4 地域を元気にする『ふるさと塾』

コラム 48

『ふるさと塾アーカイブス』について

県内全体の伝承活動を網羅する地域文化データベースとして次世代に継承するために、映像記録・資料（アーカイブス）を収集しています。アーカイブスとは大規模な記録や資料のコレクションの意味です。

このサイトでは、私たちが住む「ふるさと山形」の豊かな地域文化を様々な角度から見るができます。また、子どもたちが伝承活動を自ら学ぶことにより社会との関わり方などを習得する機会となるほか、地域文化の保存団体同士の交流発展の機会となることなどが期待されます。



(1) 地域文化の伝承と地域の活性化

ふるさと塾は、代々受け継がれてきた地域の文化を、地域の方々自らが教え合い学び合いながら子どもたちに伝承していく活動で、子どもたちに郷土愛を育み、地域も元気になることを目指しています。2015（平成27）年10月31日現在で賛同団体が285団体になりました。

酒田市の農民歌舞伎「黒森歌舞伎」は280年以上1回も休まずに演じられてきました。地元の黒森小学校児童による少年歌舞伎は、2015（平成27）年2月の公演で17回目を迎えました。

真室川町の「安楽城の童唄保存会」は1962（昭和37）年から「安楽城小学校（現・真室川あさひ小学校）」と連携して、「安楽城童唄合唱団」を組織し、「安楽城地域文化伝承祭」や「真室川町の昔話と手づくり紙芝居まつり」などで発表しています。

県の天然記念物に指定されている「チョウセンアカシジミ」の生息地の川西町大塚地区では、1996（平成8）年から地元の大塚小学校の児童も卵数調査や蝶の観察など保護活動に取り組んでいます。

300年に渡って受け継がれてきた東根市小田島の小田島田植踊は、「小田島田植踊保存会」が保存活動を行っていますが、小田島小学校の5年生、6年生全員で構成される「小田島田植踊子供伝承会」も、練習と上演を数多く行っています。

県では、各地域で保存されてきた伝統文化を映像記録として、インターネットで発信するとともに、6月に開催される「さくらんぼ祭り」での「ふるさと芸能のつどい」において多くの賛同団体が発表しています。



さくらんぼ祭りでの清流さけがわ太鼓（山形市七日町）

(2) ふるさと塾 県内賛同団体一覧 (平成27年10月31日現在 285団体)

【山形市】

フラワーキッズ日本伝統文化おもしろ子ども教室
山形県花笠協議会
山形昔語りの会
大曾根餅つき保存会
山形五堰の流れを考える会
滝山つ子クラブ
やまがた紅の会
蔵王半郷松尾囃子保存会
紙ふうせんの会
山形市立鈴川小学校山家田植え踊り

【上市市】

月岡神社甲冑隊保存会少年甲冑隊
上山藩鼓笛楽保存会
とんと昔上山会
秋葉山のヒメサユリをふやそう会
西山ホテル保存会
高松観音お年越裸餅搦行事保存会
遊学橋下塾
上山太鼓囃子鼓流

【天童市】

天童市立天童南部小学校
高橋小学校高橋子ども獅子踊り
天童妙見太鼓保存会
津山の自然を守る会
老野森獅子座保存会
天童市立津山小学校
「湯の上太鼓」上貫津村雲龍神太鼓流

【山辺町】

大蔵座を愛する会

【中山町】

お香を楽しむ会
八坂神社倭舞教室
中山昔語りの会

【寒河江市】

金谷田植踊り保存会
日本民謡協会山形紅謡会支部
三味線照美会
清助新田大黒舞保存会
幸生小学校郷土クラブ
日和田弥重郎花笠田植踊り

【河北町】

べにの里昔語りの会
溝延地区老人クラブ連合会
西里地区老人クラブ連合会
北谷地区老人クラブ連合会
NPO法人河北まちづくりネットワークひまわり
中部小豆奴
押切田植踊り保存会
巴会

【西川町】

西川少年少女自然塾
西川とんと昔の会
どんびんさんすけ

【朝日町】

八ツ沼角田流獅子踊り保存会
豊龍神社祭礼実行委員会

【大江町】

おおえ昔語りの会
御免町囃子座保存会
大江町歴史民俗資料館サポーター

【村山市】

むらやま昔語りの会
山ノ内太鼓保存会
杉島諏訪太鼓保存会

大横白山神楽保存会

稲下鹿子踊保存会
楯岡小学校居合道クラブ

【東根市】

神町老人クラブ
東根民話の会
Look for 伝承文化実行委員会
長瀬猪子踊り保存会
長瀬猪子踊りクラブ
小田島田植踊り保存会
小田島田植踊り子供伝承会
関山ばやし保存会

藤助新田菖蒲叩き保存会

桜桃元気太鼓
六田龍太鼓

【尾花沢市】

名木沢豊年田植え踊り教室
野黒沢義経太鼓教室
寺内野尻太鼓教室
延越拓魂太鼓教室
沢沢城跡保存会
尾花沢まつりばやし保存会
牛房野川のホタルを守る会
宮沢翁塾
尾花沢花笠太鼓
安久戸流花笠踊り保存会
上町流花笠踊り保存会
寺内流花笠踊り保存会
原田流花笠踊り保存会
名木沢流花笠踊り保存会
上の畑焼き陶芸センター
尾花沢市花笠踊りお披露目隊
野辺沢霧山太鼓保存会

【大石田町】

雪国鷹巣太鼓保存会
川前地区ギフチョウ・ヒメギフ
チョウ保護会

【新庄市】

新庄民話の会
萩野鹿子踊保存会
仁田山鹿子踊保存会
隠明寺風保存会

【金山町】

有屋少年番楽
明安子ども歌舞伎伝承会
稲沢番楽保存会
安沢歌舞伎保存会
谷口銀山史跡保存会

【最上町】

東法田田植え舞保存会
瀬見伝統芸能保存会太鼓部会
瀬山観音太鼓保存会
大堀神楽保存会
志茂春馬保存会
最上町立富沢小学校
最上町ワラ細工芸品保存会
わらじの会
山と川の学校

【舟形町】

堀内田植踊り保存会
堀前の国ながた猿羽根太鼓保存会
幅神楽保存会
長沢子ども遊々塾
ブナの実21
舟形老人クラブ

【真室川町】

安楽城の童唄保存会

平枝番楽保存会

釜淵番楽保存会
八敷代番楽保存会
釜淵囃子保存会
川ノ内囃子保存会
真室川ふるさとクラブ
及位の童歌語り部の会
甌山探究会
梅の里太鼓保存会
真室川音頭保存会
真室川民話の会

【大蔵村】

合海田植え踊り保存会
大蔵太鼓保存会
おおくろ葉山塾

【鮭川村】

鮭川歌舞伎保存会
清流さけがわ太鼓
段の下田植え踊り保存会
鮭川村食生活改善推進協議会
鮭川村サーモンロードの会
鮭川村自然保護委員会
鮭川村子ども育成会連絡協議会

【戸沢村】

北の妙創郷大学
真柄みこし会
蔵岡ふるさと塾
田舎体験塾つのかの里
乙夜塾
神田妙見塾
松坂自然塾
角川太鼓を育てる会
角川ふるさと委員会
神田きこり倶楽部
和太鼓さみだれ

【米沢市】

六郷豊饒太鼓推進委員会
敬師太鼓推進委員会
米沢とんと昔の会
万世梓山子ども獅子踊り
米沢市立南原小学校
山上学話会
伝国の社こども狂言クラブ
米澤前田慶次の会
綱木獅子踊り
米沢生物愛好会
おいたま草木塔の会
米沢五中敬師太鼓

【南陽市】

池黒みんなの会
漆山鶴寿会
おりはた川をきれいにする会
漆山公民館
民話会ゆうづる
夕鶴の里友の会
南陽市立宮内小学校
南陽市立漆山小学校
金山地区むらづくり委員会
金山地区はたの里検討委員会
金山地区太鼓保存会
金山地区だんご下げ保存会
赤湯温泉暴れ獅子太鼓振興会
赤湯温泉暴れ獅子太鼓振興会
赤小太鼓クラブ
赤湯温泉暴れ獅子太鼓振興会
赤中太鼓
鍋田念仏講保存会

【高島町】

まほろば語り部の会
二井宿語り部の会
亀岡念仏踊り保存会
安久津文化財保存会
やまびこ太鼓保存会
たかはた地区語り部の会
山形ふるさと塾高島町実行委員会

【川西町】

川西小松豊年獅子踊保存会
チョウセンアカシジミを守る会・川西町
里山と下小松古墳群を守る会
川西昔ばなしの会

【長井市】

長井市中央地区女性の会
致芳地区文化振興会
NPO法人日本けん玉協会長井支部
食文化を守る会
伊佐沢地区老人クラブ連合会
長井黒獅子研究会
豊田少年少女河井獅子踊り
平野小学校平小獅子踊り
長井市立伊佐沢小学校
少年少女五十川獅子踊り
昔語りの会 長井小町の会
長井まちづくりNPOセンター
平野昔語りの会

【小国町】

古田歌舞伎保存会
おぐに盆踊り保存会
おぐに話部ゆるり座

【白鷹町】

荒砥地区子獅子育成保存会
八乙女の舞保存会
鮎貝七五三獅子舞獅子連
白鷹ふる里体験塾
鮎貝語り部クラブ
萩野子獅子保存会

【飯豊町】

東部地区高砂会
中津川の昔を語ろうの会
いいで昔語りの会

【鶴岡市】

山五十川古典芸能保存会
文殊太鼓保存会
岩ゆり太鼓振興協力会
関川しな織協同組合
大山祭奴振保存会
鶴岡市立加茂小学校
「森の人」講座実行委員会
大綱子ども大黒舞
山形県立鶴岡中央高等学校
天魄太鼓部
羽黒太鼓こどもクラブ
八岡桐箱踊等保存会
鶴岡市立御引東小学校
念珠関辨天太鼓創成会
少年少女古典素読教室
東栄小学校「獅子踊り」
田川民話の会
西荒川子供獅子舞保存会
大山いざや巻保存会
薬工芸部会
かたばみ太鼓

【庄内町】

西袋獅子踊保存会

跡神楽保存会
吉岡・生三獅子舞保存会
キッズ☆わだこ
西野神楽保存会

【三川町】

フェスティバルぞっこしめ
三川町立東郷小学校
横山小学校 伝承クラブ
わくわく体験塾

【酒田市】

黒森歌舞伎
松諏社
坂本獅子踊保存会
年中行事でござり百万遍念仏
酒田ばやし保存会
鶴渡川原人形伝承の会
檜橋神代神楽保存会
万里の松原に親しむ会
酒田市立地見興屋小学校
松山小学校狂言クラブ
浜田小学校北前太鼓クラブ
宮野浦神楽保存会
酒田市立松原小学校
酒田市立西荒瀬小学校
酒田市立十坂小学校
中平田子供神楽
琢成小学校PTAビオトープ委員会
大沢太鼓保存会
黒森少年歌舞伎・少年太鼓
酒田市立広野小学校
浜田ジュニア箏合奏団
箏・三絃 秋麗会
地見っ子ふれあい協議会
かたりべ玉てばこ
亀ヶ崎小学校鶴渡川原人形クラブ

【遊佐町】

杉沢比山連中
横町神代神楽保存会
蔵岡延年の舞保存会
吹浦小学校鳥海太鼓
蔵岡小学校 比山体操
遊佐とんびんかたりの会
内ノ目おかめ神楽保存会
吹浦祭協賛会
遊佐町立遊佐小学校
(諏訪部権三郎氏記念会)
遊佐町立藤崎小学校
みわの会

【広域】

山形県老人クラブ連合会
教育ボランティア山形支部
教育ボランティア上山支部
教育ボランティア北村山支部
教育ボランティア寒河江・西村山支部
教育ボランティア米沢支部
教育ボランティア東置賜支部
教育ボランティア西置賜支部
教育ボランティア田川支部
里の自然文化共育研究所
おいしい山形の食と文化を考える会
NPO法人yamagata1
だしがや楽校・だしがや倶楽部
置賜社会教育振興会
スポネットおきたま



Nearly 300 groups in Yamagata have joined the “Yamagata *Furusato Juku*,” which passes on local traditional culture to children. In Sakata, Kuromori-*kabuki* is passed down to children as “*Shonen-kabuki*,” performed by the boys and girls of Kuromori Elementary School. Elementary school students in Mamurogawa sing old children’s songs handed down in the community.

The *chosen-akashijimi* (Korean hairstreak butterflies), designated as a prefectural protected species, live in Kawanishi Town. Children of Otsuka Elementary School observe the butterflies, counting their eggs. At Odajima Elementary School in Higashine, children practice and perform a rice planting dance passed down through the local community.

In June every year, the Cherry Festival is held in downtown Yamagata City. Along Nanoka-machi street, you will see various traditional dance, music, and other cultural arts performances.



芭蕉が辿った山形路

知っておきたい山形路の俳句

- ① 蚤虱 馬の尿する 枕もと (最上町)
- ③ 涼しさを 我宿にして ねまるなり (尾花沢)
- ④ まゆはきを 俵にして 紅粉の花 (天童)
- ⑤ 閑さや 岩にしみ入る 蟬の声 (山寺)
- ⑧ 五月雨を あつめてはやし 最上川 (大石田)
- ⑩ ありがたや 雪をかほらす 南谷 (羽黒手向)
- ⑩ 涼しさや ほの三か月の 羽黒山 (羽黒山)
- ⑪ 雲の峯 幾つ崩れて 月の山 (月山)
- ⑫ 語られぬ 湯殿にぬらす 袂かな (湯殿山)
- ⑭ あつみ山や 吹浦かけて 夕すずみ (酒田)
- ⑭ 暑き日を 海にいれたり 最上川 (酒田)



山寺 納経堂と開山堂

特集 芭蕉が語る「山形自然絵巻」

(1) やっと見つかった宿「堺田・封人の家」

芭蕉が「奥の細道」の旅中に宿泊したところで、唯一現存する建造物と言われているのがここ「封人の家」です。「封人の家」とは国境を守る役人の家のことで、仙台領と境を接する新庄領堺田村の庄屋の家、つまりこの旧有路家住宅でした。

「大山をのぼって、日既に暮れれば、封人の家を見かけて、舎を求む。三日風雨あれて、よしなき山中に逗留す。」

日暮れになっても泊まる宿が見つからず、やっと探し当てて泊めてもらった家がこの家でした。現在「封人の家」は国の重要文化財に指定され、最上町によって管理、公開されています。



堺田・封人の家

(2) 紅花大尽鈴木清風との出会い

「尾花沢に清風といふ者を尋ぬ。かれは富める者なれども、志卑しからず。」長旅をしてきた芭蕉にとって、尾花沢は古い友人の住む土地であり、くつろげる場所でした。彼はここで10泊し、その間地元の人々たちと交流をもつなどして滞在を楽しんでいます。

清風は紅花商人として、江戸、京都、大阪などに出向いて手広く商売をし、その間に、談林派の伊藤信徳門に入って俳諧を学び、俳人や商人たちとの交流を深めていました。一方、芭蕉も、談林派の伊藤信徳と交流があり、清風と芭蕉は、こうした談林派の俳人を通して知り合ったと言われています。



山刀伐峠神社

(3) 死者の魂が集まる霊山「山寺」への思い

山寺は、極楽浄土、あの世にいる人々に会いに来る山です。山寺の岩にあの世にいる人々の供養碑が彫り込まれています。山寺は、死者供養の最たるところなのです。

ここで、「閑さや 岩にしみ入る 蟬の声」という、セミの声が山寺の静けさを一層強く感じさせる句を詠んでいます。芭蕉は、この清閑の地・山寺であの世に居る死者の声を聞いたのではないかとされています。



芭蕉・清風歴史資料館

- 一日目：最上町「封人の家」→山刀伐峠→尾花沢「芭蕉・清風歴史資料館」→天童・旧山寺街道→山寺(宿泊)
- 二日目：大石田「高野一栄宅跡」→新庄・渋谷風流亭跡→古口・仙人堂→清川・清川関所→手向(宿泊)
- 三日目：羽黒山→月山→湯殿山(宿泊)
- 四日目：鶴岡→遊佐町(吹浦)→酒田(日和山公園)→鶴岡(旧温泉町)



最上川と仙人堂



月山遠景



夕日の庄内平野と最上川

(4) 時空を超えた義経と芭蕉の出会い「仙人堂」

最上川舟下り「高屋乗船場」の向こう岸、弁慶と一緒に来た義経の家来の常陸坊海尊ひたちぼうかいそんが建立したと言われる「仙人堂」があります。仙人堂は、農業や航海安全の神として信仰されているだけでなく、縁結びや健康長寿の神としても人気を集めています。

義経は清川から舟に乗り本合海まで最上川を上りました。芭蕉は義経とは逆のコースを辿り、最上川を下って仙人堂に立ち寄りしました。芭蕉のみちのくの旅は義経の足跡を辿ったとも言われていますが、いずれにしても時空を超えて義経と芭蕉が出会った仙人堂は、心のロマンの旅となって多くの人々に感動を与えています。

(5) 巡礼 出羽三山

出羽三山(月山・羽黒山・湯殿山)には、自然が持つ霊気と、長い年月の間、数えきれないほどの人々が祈りを捧げてきたパワーが充満しており、人は山に一歩足を踏み入れた途端、山の持つ勢いとおとこ厳かな雰囲気おとこに魅了されます。

江戸時代、「奥の細道」の旅の目的の一つとして、出羽三山に立ち寄った芭蕉は、それぞれの山での感激を句に詠み上げました。

涼しさや ほの三か月の 羽黒山(羽黒山)
 雲の峯 幾つ崩れて 月の山(月山)
 語られぬ 湯殿にぬらす 袂かな(湯殿山)

(6) 芭蕉と酒田

芭蕉は酒田に9日間滞在し、次の代表的な句を詠んでいます。

「あつみ山や 吹浦かけて 夕すずみ(酒田)」(おりからの暑さに縁のある名のあつみ山が彼方に見え、頭をめぐらせば暑気を吹き払うという名の吹浦が見渡されるが、そこへかけての眺望を見渡しながらの夕涼みをするのはまことに気持ちのよいことである)

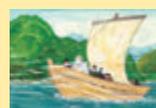
「暑き日を 海にいれたり 最上川(酒田)」(ようやく夕方になったが、あつい一日を海に流し入れてしまった最上川、その河口のあたりから涼しい夕風が吹いてきた)

どちらも、酒田での夏の夕べの心地よさを詠んでいます。芭蕉滞在中は多くの句会かきあひ、歌仙かきせんが行われました。芭蕉直筆の懐紙が本間美術館に残されているなど、酒田と芭蕉とのつながりは深く、時代を超えて親しまれています。

コラム 49 義経伝説と芭蕉



源義経たちが、兄頼朝の怒りにふれ、奥州平泉(岩手県)藤原秀衡をたより逃れる途中、庄内から内陸を通った。



義経一行は、羽黒山から最上川へ行き清川から舟に帆をはり川をさかのぼっていった。



弁慶は途中あやしい人影めがけて石を投げ、その石がめりこんで残っている不思議な「弁慶のつづ手石」などがある。



弁慶と一緒に来た義経の家来の常陸坊海尊ひたちぼうかいそんは、仙人堂の地で義経たちが体を休めた後別れ、そこに仙人堂を建て、終生こもって修行をした。



常陸坊海尊は仙人堂内にある天狗の面や下駄をはき、体をきたえるために木から木へと跳びまわったという。



常陸坊海尊は心をみがくために、最上峡に多くある滝にうたれ、いつも修行を重ねていた。そして義経を追ってくる者をここで防いだと言われている。



それから約500年後、つまり今から約300年前の元禄2年、松尾芭蕉は曾良を伴い最上川を舟で下り、仙人堂に参拜のため舟からおりた。芭蕉の旅は、義経の足跡を訪ねる旅だった。



芭蕉と曾良は、参拝後、仙人堂から見える板敷山とすばらしい最上川の景観をながめた。



Yamagata has beautiful nature and delicious food for each of the four seasons. Every city, town and village in Yamagata has *onsen* (hot springs), and waits for visitors with the spirit of “*omotenashi*” (hospitality). In the Edo period, the traveler and *haiku* poet Matsuo Basho described the rich nature of Yamagata with *haiku*.

He started his trip through Yamagata at Sakaida in Mogami Town, then moved to Obanazawa via Natagiri pass, and in Obanazawa stayed with Suzuki Seifu for a while. After that, he went to Yamadera, one of the main points of his trip, and composed the famous *haiku*: “Silence! The sound of cicadas penetrates the rocks.” After traveling downstream along the Mogami River by way of Oishida and Shinjo, Basho arrived at another destination: the Three Mountains of Dewa (Mt. Gassan, Mt. Haguro and Mt. Yudono). After visiting the mountains, he stayed in Sakata for some days, and then went to Tsuruoka, Oyama and Atsumi. After leaving Yamagata, he headed for Niigata.

1 春 冬を越えて輝く 春の山形美

一日目 小国町小玉川(マタギの郷交流館、残雪の桜)→なかつがわ農家民宿(宿泊)

セラピー弁当

農家民宿郷土料理



飯豊町なかつがわ農家民宿「いろり」



小国町小玉川の熊まつり



セラピー弁当



いろりを囲むなかつがわ農家民宿の女将たち (平成26年1月3日 山形新聞)

(1) マタギの郷 小国町小玉川で新緑を満喫

5月になっても、飯豊連峰の山々には、白く目を射るような残雪が残り、集落を流れる玉川の河原には、まだ雪が山をなしています。飯豊連峰と朝日連峰に挟まれた小国町の南西に位置する小玉川地区は、山とブナ・ミズナラ林とに囲まれたところです。約40軒、120人の集落で、今もマタギの文化が残っています。長い年月、このような厳しい自然の営みに鍛えられた人々の知恵が、地域の暮らしを支えてきました。昔は、4月のクマ狩りが終われば、山菜採り、夏は川狩りで、サクラマスを追ひ、秋はキノコ採り、11月になれば罾でクマを狙ひ、12月になると、ウサギ、タヌキ、イタチ、テンなどの小動物を獲っていました。

小玉川には森林セラピー基地「ブナの森 温身平」があり、地元食材を使い趣向を凝らしたセラピー弁当を食べながら新緑の春を満喫することができます。ブナとマタギの文化が評価されて、全国でも5本の指に入るセラピーの優秀基地とされています。

(2) 飯豊「なかつがわ農家民宿」～山菜料理とおもてなし～

飯豊町中津川地区は、広大な自然と山々に囲まれた素晴らしい場所です。その大自然が織りなす四季折々の景色や、築80年の古民家で昔ながらの食を楽しんでいただくのが、なかつがわ農家民宿「いろり」です。

春は山菜狩り、夏は川遊びや渓流釣りなどが楽しめ、秋は飯豊連峰山麓の紅葉につつまれた絶景を望むことができます。女将自慢の山菜料理や地元中津川に伝わる伝統料理「のりもち」作りも体験でき、夜にはご希望に応じ「あったか昔語り」も聞くことができます。

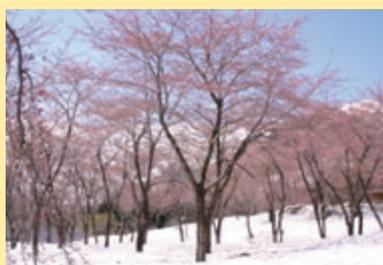
宿泊先を知らずに来日し、宿泊先が民家とわかった時に激怒した外国のお客さんが、翌朝、「離れたくない」と泣く姿を町の観光協会の人が目にしたそうです。ともに食卓を囲み、酒を酌み交わし、そして、何よりも何気ない温かな気遣いがお客さんにとって嬉しかったのかも知れません。いろりを囲む中津川の農家民宿の女将たちは、都会に出た息子や娘を迎えるような温かなおもてなしで、来る人の心をつかんでいます。

コラム 50

残雪の桜

例年4月下旬からゴールデンウィーク頃、飯豊連峰を背景に、残雪の上に咲く桜を見ることができます。小国町の飯豊温泉国民宿舎梅花皮荘前かいらぎにある桜公園、残雪桜と言われる林です。ここは、隠れた桜の名所です。

桜が咲いてから雪が降ったわけではなく、積雪の多いこの地域、昨シーズンの雪が溶けてしまう前に気温が上がって桜が咲くということなのです。



小国町小玉川の残雪の桜

～置賜さくら回廊と飯豊・小国の新緑の山々～

二日目 フラワー長井線花見列車

南陽市(烏帽子山千本桜)→長井市(伊佐沢久保桜)→復興応援25品目弁当 → 白鷹町(釜の越桜)→あゆ茶屋 鮎の塩焼き



南陽市烏帽子山千本桜



長井市草岡の大明神桜



白鷹町釜の越桜



フラワー長井線花見列車



復興応援25品目弁当



白鷹町あゆ茶屋とヤナ場



鮎の塩焼き

(3) フラワー長井線で行く置賜さくら回廊

置賜さくら回廊は、山形県南部の置賜盆地に位置し、赤湯温泉～白鷹町までをつなぐ、山形鉄道フラワー長井線沿いの約43kmの桜の観光ルートです。「烏帽子山千本桜」を起点に、「伊佐沢の久保桜」「草岡の大明神桜」「釜の越桜」など、樹齢1,200年余りの古木や名木、巨木といった古典桜の名所が20か所ほど点在しているのが特徴です。1994(平成6)年、各桜の保存会が集まり「置賜さくら会」を結成し、ルートが設定されました。

南陽市「烏帽子山千本桜」は日本のさくら百選にも選ばれる名所です。園内にはソメイヨシノやシダレザクラなどおよそ1,000本の桜が植えられており、千本桜と称されるその光景は山全体がピンク色に染まったように見えます。国指定の天然記念物、長井市草岡の「大明神桜」は、樹齢推定1,200年で幹周りの太さは全国2位に数えられるまさに日本を代表する名木です。白鷹町「釜の越桜」は、樹齢800年の見事なエドヒガンの名木で、樹高20mと山形県内随一の大きさを誇ります。

花より団子と言われるように、花見に付きものはおいしい食べ物です。まずは、フラワー長井線名物「復興応援25品目弁当」を食してみましょう。さらに、終点荒砥駅から少し足を伸ばし、白鷹町あゆ茶屋のヤナ場を見ながら鮎の塩焼きを味わうのもいいものです。

コラム 51

久保桜伝説

蝦夷討伐で立ち寄った坂上田村麻呂が、地元豪族久保氏の娘「お玉」と、思慕の仲になりました。



長井市伊佐沢の久保桜

しかしお玉は、田村麻呂帰国後にこの世を去ってしまいます。

悲しんだ田村麻呂は、桜を送って植えさせました。この桜が「久保桜(お玉の親、久保氏の桜)」で、別名「お玉桜」と呼ばれるようになったそうです。(伊佐沢振興会ホームページより)



Spring in west Okitama is beautiful. One can experience the bright and beautiful spring of Yamagata after the very cold winter.

New, green leaves in Kotamagawa, Oguni Town mark the arrival of spring. In late April, while there is still snow un-melted, you can see cherry blossoms blooming over the snow. There are many private inns run by farm families in Nakatsugawa, Iide Town. The hostesses give guests a warm welcome with dishes that use *sansai*, edible wild plants growing in fields and on mountains.

Around this time, cherry blossoms in the Okitama area are in full bloom. The "Flower Line" of Yamagata Railway Co., Ltd. runs a special train for passengers to enjoy the cherry blossoms while riding. If you take that train, you can enjoy the *kubo-zakura* of Nagai and the *kamanokoshi-zakura* of Shirataka, famous throughout the country.

2 夏1 山形自慢の「日本一」を満喫

一日目 山形市(高瀬地区紅花摘み)→天童市(紅花染め)→東根温泉(宿泊)
冷やしラーメン



紅花



山形市高瀬地区の紅花畑とスタジオジブリ映画「おもひでぽろぽろ」



おくのほそ道 天童紅花まつり「紅花畑と紅花娘」



紅花染め体験



紅花料理「紅花きり」



河北町紅花資料館

コラム 52 紅花県内一の生産量(白鷹町)

「県の花紅花」にもかかわらず、その咲いているさまを以前は県内でわずしか見ることができませんでした。県や白鷹町の歴史に深くかかわりのある紅花を、地域の文化伝統などと連携を図りながら復活させ、昔のように咲き誇る姿を見てもらおうと、1994(平成6)年に8名の有志で「白鷹紅の花を咲かせる会」が発足し、1995(平成7)年から「白鷹紅花まつり」をスタート、2002(平成14)年からは町あげでの初夏のまつりとして、滝野交流館をメイン会場に開催しています。さらに2007(平成19)年からは、紅花摘みを楽しんでいただき、紅餅づくりまで体験でき、摘んだ紅花の量に応じてお礼をするという「花摘み猫の手隊」もスタートしました。今では栽培面積が約10倍まで拡大し、県内一の生産量で多くの観光客が訪れています。



紅花摘みの様子(白鷹町)

(1)「紅花の里」山形市高瀬地区へ

江戸時代に最盛期を迎えた『最上紅花』は、当時「紅一^{もんめ}匁金一匁」と言われた高級品で、羽州街道から最上川舟運により京・大阪まで運ばれ一世を風靡しました。

山形市高瀬地区は、市そして県の花である『紅花』の里として知られ、スタジオジブリ作品『おもひでぽろぽろ』の舞台にもなりました。毎年7月に開催される『山形紅花まつり』には県内外から多くの観光客が訪れ賑わいます。

(2) 天童紅花まつり

天童市でも、毎年7月に「おくのほそ道 天童紅花まつり」が開催されます。松尾芭蕉が1689(元禄2)年7月13日に天童の地を訪れ、「まゆはきを俤にして紅粉の花」、「行く末は誰が肌ふれん紅の花」と詠んでいる天童の紅花が、上貫津の紅花畑に咲き誇ります。約7万本の紅花が満開になり、紅花畑一面が鮮やかな黄色に染まります。紅花摘み体験、紅花染め体験、紅花すり体験、紅花リップクリーム作り体験ができ、紅花料理も食べることができます。

コラム 53 山形から生まれた冷やしラーメン&冷たい肉そば

冷やしラーメンは、山形市で誕生した郷土料理で、スープも麺も冷たく、氷を浮かべることもあります。冷やし中華とは異なり、通常のラーメンと同じようにたっぷりのスープに麺が浸されています。冷たい肉そばは、河北町におけるそばの食べ方の一つで、具は鶏肉(歯ごたえのある親鶏が中心)とねぎがメインで、つゆは鶏だしで冷たくしてあります。



山形市の冷やしラーメン 河北町の冷たい肉そば

のびないように冷やして出したのが始まりと言われています。地元の店では、温かい肉そばも提供されますが、冬でも冷たい肉そばを注文する客が多いようです。

～さくらんぼ狩りと紅花染め～

二日目 東根市(さくらんぼ狩り)→河北町(紅花資料館)→寒河江市(さくらんぼ会館)

冷たい肉そば



さくらんぼの果樹園が広がる寒河江市



さくらんぼ狩り(東根市)



さくらんぼ会館(寒河江市)



さくらんぼ

(3) 紅花資料館を訪ねて

河北町谷地を訪れると「紅花資料館」があります。この資料館は、近郷さっての富豪だった堀米四郎兵衛の屋敷跡で、屋敷には武器や生活用品及び古文書など5,000点を保存しています。

「紅の蔵」には、林家舞楽「沙羅龍王の舞」の模型、各時代の雛、紅花全盛に活躍した小鵜飼舟や北前船の模型、絢爛豪華な紅染衣装等を展示しています。「工房くれない」は町内に残る蔵を移転復元したもので紅花染め・わら細工などの体験学習の場として利用されています。

(4) 「佐藤錦の里」東根市でのさくらんぼ狩り

毎年、6月から7月にかけて、山形はさくらんぼ狩りで賑わいます。さくらんぼ生産量日本一・さくらんぼの王様「佐藤錦」発祥の地である東根市では、さくらんぼのスーパーブランド「佐藤錦」でさくらんぼ狩りを楽しむことができます。市内にはさくらんぼ狩りのできる32の果樹園があり、温室さくらんぼ園では4月下旬から楽しむことができます。

(5) 寒河江市の「さくらんぼ会館」へ

さくらんぼ生産が盛んな寒河江市に「道の駅寒河江チェリーランド」があります。その中に、スペースシャトルをイメージしたピンクのモダンな建物「さくらんぼ会館」があります。館内には、明治の初め、先人が寒河江市にさくらんぼを栽培した歴史やさくらんぼの栽培に関する写真・パネルなどさくらんぼの資料全てを展示しています。

寒河江市はさくらんぼの原産地であるトルコ共和国のギレスン市と姉妹都市を結んでおり、敷地内には「トルコ館」が建てられています。

コラム 54

佐藤錦誕生秘話

さくらんぼのなかで最も人気の高い「佐藤錦」は、果樹王国と呼ばれる山形県でも特別な存在になっています。

さくらんぼは収穫期が梅雨と重なるせいで実が割れ、生産量が伸び悩んでいた時、新しい品種を作れないかと考え「佐藤錦」を誕生させたのが佐藤栄助翁です。

好奇心が旺盛なことに加え果樹栽培が趣味だった彼は、果肉が固くて酸味のある「ナポリオン」と、甘いが発育の難しい「黄玉」に着目。交配によりできた実を発芽させて苗木を作り、そのなかで良いものを移植して育成し、1922(大正11)年、初結実をみます。さらに選別を重ね、2年後、ついに最も優れた1本、すなわち原木の育成に成功しました。本格的に取り組んでから、15年余りの歳月が過ぎていきました。



佐藤栄助翁像



In early summer, you can fully enjoy Yamagata's proudest things—the best in Japan.

One is a trip to enjoy *benibana*, the prefectural flower of Yamagata. The Benibana Festival is held in Takase, Yamagata City and Kami-Nukutsu, Tendo City, where visitors can experience picking *benibana* flowers or dyeing cloth with *benibana*. They can also eat *benibana* dishes. You can learn all about *benibana* at the Benibana Museum in Yachi, Kahoku Town!

Another “Japan’s best” is Yamagata’s cherries. Visitors can pick cherries in Higashine City or Sagae City, which are the top two cherry-producing cities in Japan, or learn about the history of cherry cultivation at Sakuranbo Hall in Sagae City. In summer, try Yamagata’s local specialties: *Hiyashi Ramen* (chilled ramen noodles) and *Tsumetai-Nikusoba* (cold soba topped with chicken).

夏2 体験 山形の大自然

～最上の巨木、最上川舟下り(仙人堂・幻想の森)→鳥海高原、そして飛島へ～

一日目 金山町(大美輪の大杉)→真室川町(滝ノ沢の一本杉)→鮭川村(小杉の大杉)→戸沢村古口(最上川舟下り 最上川おしん弁当)→仙人堂見学→幻想の森散策→酒田市(鳥海高原家族旅行村宿泊 三元豚バーベキュー)

ライトアップの「玉簾の滝」見学

二日目 酒田港から飛島へ→飛島一日体験 飛島海鮮料理 →(午後3便)→酒田港



金山町 大美輪の大杉



真室川町 女甕山の大カツラ



最上川舟下りと仙人堂参拝



幻想の森 土湯杉

コラム 55

鮭川村のトトロの木

鮭川村曲川の大杉はアニメ「となりのトトロ」のトトロに似ていることから、地元では「トトロの木」と呼んでいます。この木が一躍有名になったのは、かつてJR東日本のポスターに掲載されたことからでした。この木は、近くの小杉地区の名前をもじり、「小杉の大杉」とも呼ばれます。

根元に山神が祀られ、村のご神木として崇められ、芯が2本あることから夫婦杉、縁結びの杉とも呼ばれ、夫婦で手をつないで杉の根元で休むと子宝が授かるという言い伝えもあります。愛らしく、縁起も良いということでこの木を見に、たくさんの方が訪れています。



鮭川村の小杉の大杉

(1) 最上の巨木に耳を傾ける

最上地区には、古代よりこの地に根をおろし、^{そび}聳え立つ巨木が数多くあります。大美輪の大杉(金山町)、女甕山の大カツラ(真室川町)など、雨風に耐え、辛く厳しい冬を乗り越え、今日まで生き抜いてきた巨木の前にたたずむとその存在の大きさに、また、荘厳な姿に言葉が出ないときがあります。

その他にも志津のイタヤカエデ(新庄市)、東法田の大アカマツ(最上町)、^{いわがみごんげん}岩神権現のクロベ(大蔵村)、^{むらさきやまふうき}紫山夫婦センノキ(舟形町)などがあります。『巨木の里 最上』、そんな巨木にそっと耳を傾けてみませんか。

(2) 舟下りで最上川を体感～仙人堂、幻想の森～

新庄市本合海から古口を経て、草薙まで、芭蕉も下った最上川を舟で下ると、最上峡の滝をはじめ大自然を体感することができます。

途中、義経とゆかりがあり、義経の家臣だった常陸坊海尊を祀っている「仙人堂」や「幻想の森」があります。「幻想の森」の土湯杉は天然杉で神の杉とも言われています。



最上川おしん弁当

(3) 鳥海高原家族旅行村と玉簾の滝

鳥海山の麓、標高500mの鳥海高原にある交流型レジャー施設「鳥海高原家族旅行村」は、キャンプ場はもちろん、ケビン棟やツリーハウスもあり、野外でバーベキュー(三元豚)を楽しみながら、キャンプ感覚で宿泊ができます。

すぐ近くに、山形県随一の高さ63m、幅5mの「^{たますだれ}玉簾の滝」があり、夏にはライトアップされます。





飛島全景



飛島クリーンアップ作戦



海岸に咲くスカシユリ



飛島海づり公園



カフェスペース「しまかへ」のランチメニュー

- ①天然岩のりを使った「島おむすび」
- ②飛魚のつみれスープ
- ③島産の野菜、山菜料理
- その他 イカスミブラックカレー
飛魚を使ったアイス 等

(4) 北の離島、自然と伝説の飛島へ

山形県には唯一の離島「飛島」があり、海の自然を満喫することができます。飛島は、酒田港から北西39kmに位置し、酒田港から定期船「ニューとびしま」(定員300名)で90分で行くことができます。周囲を対馬暖流が流れているため、山形で最も北に位置しているのに、年間の平均気温は12℃です。

島の魅力は、東北の日本海では珍しいサンゴのあるマリンスポーツの海、イカ、トビウオ、サザエなどの新鮮な魚介類です。「ごどいも」と呼ばれる美味しいジャガイモもあります。飛島には、旅館・民宿もあるので、島に泊まって島料理を堪能するのも楽しみの一つです。また、飛島は渡り鳥の中継地として、春と秋の鳥の渡りの時期には多くのバードウォッチャーで賑わいます。海釣りも楽しむことができ、大物を求める釣り客も多くいます。近年では海岸に咲くスカシユリなどの花を見ながらトレッキングを楽しんだり、無料の観光用自転車で島内を散策する人もいます。

酒田市の離島・飛島の観光やにぎわいの拠点としてのカフェスペース「しまかへ」があり、地元産の食材をふんだんに使ったランチメニューが人気です。運営しているのは、20~30代の若者で構成している「合同会社とびしま」で、その他にも、空き家を改修した加工所での商品開発、農業や漁業の生産活動等、1~3次産業までを総合的に行う6次産業の場をつくり始めています。

豊かな自然に恵まれ絶好の観光スポットとなっている山形県唯一の離島「飛島」も、一方では、離島であることで漂着ごみも流れ着きやすく、その処理も難しくなっています。この課題を解決しようと始まった飛島クリーンアップ作戦も回を重ね、2015(平成27)年5月30日の開催で15回目を迎えました。

コラム 56

飛島と鳥海山伝説

昔、大きな鳥が3つの卵を抱え飛んできて鳥海山の頂上に巣を作りました。暫く経つと、鳥海、月山両所大菩薩と丸子親王が生まれました。この大きな鳥は地域の先祖となり、荒れ地を耕させ、米を作らせました。その後、北の方の嶺の大きな池に沈み、それからその池を「鳥の海」と呼ぶようになりました。だからこの地の人は鳥は食べず、丸子親王の子孫は鳥を家紋にしました。

この山に手長足長という毒蛇がおり、それを知った神様が山に見張りを置くことにし、木に鳥を置き、毒蛇が出れば「有耶」、居なければ「無耶」と鳴かせて旅人に知らせました。それからそこを有耶無耶の関と呼んだそうです。

ある時、鳥海山が自分より高い山はないだろうと独り言を言いました。ある日、旅人が鳥海山にやってきて、眺めながら立派な山だが富士山の方が高いと呟きました。すると鳥海山は威張っていたのが恥ずかしいやら悔しいやらで、頭だけポンと飛び出しました。それが日本海に落ち飛島となったと言われています。このようなことから、飛島と鳥海山が離れていても同じ神様を祀っています。(秋田の昔話・伝説・世間話「鳥海山」より)



飛島から見た鳥海山



During summer vacation, let's enjoy the vast nature of Yamagata with our families. Begin this experience by visiting the big trees in the Mogami region. There are many such trees, which took root in ancient times and now tower up into the sky. In Sakegawa, there is a massive cedar famous as the "Totoro Tree."

Next, look at waterfalls and experience the great nature of the Mogami Canyon on a boat down the Mogami River. On the first day, enjoy camping at Chokai Natural Family Village. At night, go and see the nearby Tamasudare-no-Taki waterfall which is beautifully illuminated. On the second day, why not enjoy fishing and look at plants, or try bird watching among the abundant nature of Tobishima Island? On Tobishima, there is a cafe called Shima-Kahe: the lunch they offer there is cooked with plenty of local ingredients and is quite popular.

3 秋「本当に、うまい！」山形の秋の味覚

- 一日目 上山観光果樹園→馬見ヶ崎河原で芋煮体験→天童で酒造見学→(温泉泊)
- 二日目 西川町銘水館地ビール工場→ 山菜料理 →朝日町りんご狩り→りんご温泉



直径6mの大鍋には「里芋3t、牛肉1.2t、こんにゃく3,500枚、ねぎ3,500本、味付け醤油700ℓ、隠し味に日本酒50升、砂糖200kg、山形の水6t」を入れ、6tの薪（ナラ材）で煮炊きします。

3万食の芋煮ができるまで

1. 夜が明けない時間から、里芋を洗って準備します。
2. リレー方式で食材を鍋まで運びます。
3. 火入れ
4. 鍋に様々な食材を入れます。
5. 名物の重機を使った調理風景

コラム 57

芋煮の発祥地中山町

山形県を南から北へ、そして日本海へ流れる最上川。江戸時代にはこの山形県の母なる川、最上川を利用した舟運が盛んでした。山形県の内陸部からは米や紅花、青芋などを酒田を経由して京都・大阪へ、一方、京都・大阪からは砂糖や干魚のほか、衣類や雛人形など上方文化を運んできました。

1694(元禄7)年に荒砥(白鷹町)まで最上川舟運が通じるまでは、長崎湊(中山町)は舟運の終点であったとされ、米沢方面への船荷の積み替えが行われた要地でした。その舟運に携わる船頭や商人たちは荷揚げや荷待ちの逗留の間、棒だらと里芋を材料に、川岸の松の枝に鍋を掛けて煮て食べました。これが芋煮会の始まりで、この松の木は『鍋掛の松』と呼ばれるようになりました。



鍋掛の松(中山町)

(1) 地元の食材で作られた「山形芋煮」を味わう

山形では秋になると家族や友人たちのグループが集まり、河原で石を積んでかまどを作り、里芋、牛肉、コンニャク、ねぎなどを入れた野外鍋料理を楽しみます。

そんな芋煮の季節の到来を告げるのが、毎年9月に山形市の馬見ヶ崎河川敷で行われている「日本一の芋煮会フェスティバル」です。これは、山形の「食文化・秋の芋煮会」を全国に発信するために、山形商工会議所青年部が1989(平成元)年に始めたイベントで、6mの大鍋に山形特産物の里芋3t、牛肉1.2t、コンニャク3,500枚、ねぎ3,500本、味付けの醤油700ℓ、隠し味に日本酒50升、砂糖200kg、そして水6tを入れ、6tの薪(ナラ材)で煮炊きする、おいしさもスケールもまさに日本一です。

6mもの大鍋での調理は、通常の調理器具では、なかなかうまくいきません。そこで毎年登場するのが、大型重機のバックホーです。作業するのは、熟練の運転手の皆さんです。

山形風芋煮とその材料(里芋・コンニャク・山形牛・ねぎ・山形水)









～芋煮、地酒、そばに山菜、そして果実～



ぶどう狩り（上山市内の観光果樹園）



朝日町のりんご狩り



西川町の山菜そば



山形の酒



山形のワイン



西川町地ビール

（2）果樹王国山形の秋の果実を味わう

果樹王国山形の秋は、夏から続くぶどう、プルーン、りんご、柿、日本なし、西洋なし、それにあげびとおいしい果物を味わうことができます。国道13号沿いの高畠町から、南陽市、上山市にかけてなだらかな丘陵地の見事なぶどう畑が見えます。日当たりが良く、昼夜の寒暖の差が大きく、成熟期に雨が少ないことなどが好条件となって甘いぶどうが作られています。

また、朝日町では、日本一の蜜入りりんご『ふじ』を作り上げましたし、2006（平成18）年には山形オリジナルの『秋陽』も市場でデビューしました。「太陽に透かすようにして、りんごのお尻を見る。うっすらとアメ色に見えるのが摘みごろ。ここまで待って出荷します。」というのが生産者の声です。

（3）吟醸王国山形の地酒、ワイン、地ビールを味わう

山形は吟醸王国として多くのおいしい酒や、地元のぶどうを使用したワインを作っていますが、西川町では地ビールを作っています。

日本有数の豪雪地帯である月山に降り積もった雪が、長い年月をかけて「月山自然水」になり、「地ビール月山」へと姿を変えています。スッキリした味わいで最も日本人好みなピルスナーをはじめ、その季節ごとに楽しめるビールも各種限定で作っています。

月山をはじめ豊かな山々に囲まれた西川町の秋は山菜料理も豊かで、なめこ、しめじ、まつたけなど多くのきのこがあります。月山地ビールを飲みながら山菜そばを味わうのも格別です。

コラム 58 山形の酒蔵・ワイナリー

全国新酒鑑評会で、全国有数の金賞受賞数を誇る「吟醸王国・山形」。山形県には54の酒蔵があり、県内全域にこれだけの酒蔵があるのは全国的にも珍しく、その土地ならではの気候や風土・文化を生かした銘酒を育み、切磋琢磨しながら品質を競い合っています。

また、酒どころに欠かせないのが、おいしい「水」と「米」、そして「酒を知り尽くしたつくり手」であり、山形にはそれらすべてがそろっています。

また、地元栽培のぶどうを使用し、風土の良さを生かしたワイン作りが盛んで県内には12のワイナリーがあります。これもまた、全国上位になっています。長い伝統と経験をふまえながら、良質のぶどうと最新の醸造技術により、風味際立つかわいしいワインを醸し出します。

天然の山ぶどうを使ったり、旧国道のトンネルを利用したりとちょっと他県ではないユニークなワイナリーもあります。



朝日町ワイン城



Yamagata is full of delicious food in autumn. The best local dish for autumn is *imoni* (taro stew). Every September, the Nihon-Ichi-no-Imoni-kai Festival (Japan's Number-One *Imoni* Picnic) is held on the bank of the Mamigasaki River in Yamagata City. Visitors are surprised at the huge cooking pot, which makes enough food for 30,000 people. The ingredients: taro, beef, *konnyaku* (devil's tongue root), leeks, soy sauce, *sake* and water are all produced in Yamagata.

Yamagata is also a "fruit kingdom." You can eat delicious fruit, such as prunes, apples, persimmons and La France pears in autumn. Yamagata produces many kinds of tasty *sake* and wine made from local grapes. In Nishikawa Town, they produce local beer with pure water from Mt. Gassan.

4 冬 山形「雪の芸術」の旅

一日目 米沢→小野川温泉かまくら村→米沢(宿泊→雪灯籠まつり参加)

米沢ラーメン

米沢牛のすき焼き



小野川温泉のかまくら村 (米沢市)



上杉雪灯籠まつり (米沢市)

コラム 59 米沢牛の話

山形県と牛肉との密接な関係は明治初期からで、一人の英国人が米沢へ来たことに端を発します。米沢には名君の誉れ高い10代藩主、上杉鷹山公が創設した藩校「興讓館」がありました。1871(明治4)年、東京開成学校から赴任してきたのが英国人のチャールズ・ヘンリー・ダラス氏です。氏はコックとして連れてきた万吉に米沢産の黒牛の料理を所望したところ、そのおいしさに驚嘆。1874(明治7)年には、米沢での牛肉屋第一号となる「牛万」を万吉に開かせてしまいました。ダラス氏は1875(明治8)年、任期を終えて帰京することになりますが当地で食べた牛肉の味が忘れられず、牛一頭を連れ帰ってしまいます。そして外国人の居留が多かった横浜でこの牛肉をふるまったところ、あまりのおいしさに皆が絶賛。これがキッカケで牛肉は「米沢牛」として売り出され、その名声が全国に広まったとされています。

もともと米沢など置賜地域では、古くから南部地方の「上り牛」を導入し、農耕を目的に飼育を行っていたと言います。上杉綱憲公時代の1681(天和元)年当時、すでに牛への課税があったとの記録もあります。(おいしい山形HPより)



(1) かまくら村でのあったかい米沢ラーメン

冬、雪国ならではの楽しみ方がたくさんありますが、山形「雪の芸術」の観賞を楽しんでみましょう。一つ目は「かまくら」です。

米沢市の奥座敷、かつて小野小町が旅の途中で病を癒すため一時期居住していたという伝説が残る小野川温泉では、冬の名物企画「かまくら村」がオープンします。かまくらは、高さ3.5m、直径4mで壁の厚さは約1m、内部は高さ2m、奥行き2mの広さがあり、テーブルと椅子を置き、6人座ることができます。

各旅館宿泊とかまくら遊び、すき焼きなどがセットになったプラン「小野川温泉かまくら村を楽しむ旅」も準備されています。何よりも、かまくらの中から「米沢ラーメン」を注文すると出前で届けてくれます。



かまくらでの米沢ラーメン

(2) 幻想的な世界を体験～米沢の雪灯籠～

山形「雪の芸術」の二つ目は「雪灯籠」です。

毎年2月の第2土曜・日曜日、米沢市松が岬公園一帯を主会場に約300基の雪灯籠と、1,000個の雪ぼんぼり(雪洞)に燭が灯されます。やわらかな灯りが揺らぐ情景には温もりと美しさがあり、幻想の詩情を添えて人々をメルヘンの世界へと誘います。『上杉雪灯籠まつり』には、深々と降る雪に故人を偲び、現代の平和の礎となった戦没者の御霊に献灯し、『命の尊さと世界の恒久平和を次の世代に伝えていきたい』との思いが込められています。

崇高で幻想的な雪灯籠を観賞するとともに、ご当地名物、日本三大和牛に数えられる『米沢牛のすき焼き』を味わってみてはどうでしょうか。



雪灯籠を見ながらの米沢牛のすき焼き

～小野川温泉かまくら村、米沢の雪灯籠、蔵王の樹氷、山寺の雪景色～

二日目 米沢→蔵王(中央ロープウェイ)樹氷見学→水墨画の世界、山寺の雪景色

山形玉こんにゃく

山形のそば



蔵王の樹氷 (山形市)



山寺の雪景色 (山形市)

(3) アイスモンスター～蔵王の樹氷～

山形「雪の芸術」の三つ目は「樹氷」です。

1950(昭和25)年に日本観光地百選の山岳の部で1位に選ばれた蔵王は樹氷とスキーのメッカとして全国に知られるようになりました。樹木が樹氷や雪によって完全に覆われたものが「アイスモンスター」と呼ばれ、その景観を求めて国内外からたくさんの観光客が訪れます。例年2月上旬からが最も見応えがあります。

スキーでなくても、ロープウェイで山頂まで行き、樹氷を鑑賞することができます。とても寒いので、帰りは心も体もあたたまる「山形玉こんにゃく」を食べてみましょう。



蔵王での山形玉こんにゃく

(4) 水墨画の世界～山寺の景色～

山形「雪の芸術」の四つ目は、水墨画のような「雪景色」です。

山寺は正しくは「宝珠山立石寺」と言い、慈覚大師円仁によって開山されました。そして、山寺一体は豊かな自然に恵まれ、四季折々、美しい風景を楽しませてくれますが、中でも冬は格別です。真っ白な雪に覆われて、銀世界となりますが、岩山に立つ山寺の風景は水墨画の世界を表現しているようです。風雅の国から見る眺めも見事で、山形のそばを味わいながら鑑賞してみたいかがでしょうか。



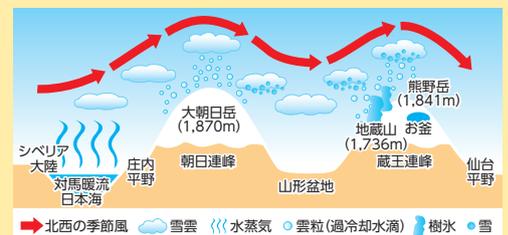
雪景色の観賞と山形そば

コラム 60 樹氷の秘密

氷点下まで過冷却が進んだ水滴が吹雪と一緒にアオモリトドマツなどにぶつかり、そのまま凍りついたものが「樹氷」で、世界的にも珍しい自然現象です。

蔵王の樹氷の着氷は12月中旬ごろから始まり、2月中旬から3月ごろに最も大きく成長します。この時期は、雪の表面も堅くしまり、スキーやスノーボードに最も適した時期で、樹氷原の間を縫って雄大な滑降を楽しめます。

蔵王山の樹氷が“アイスモンスター”と呼ばれるスケールにまで成長する理由は、雪片と『豊富な過冷却水滴』にあります。冬の季節風に乗った過冷却水滴が樹氷の「芯」となるアオモリトドマツや樹氷の先端(エビの尻尾)に衝突すると、水滴は“その衝撃で”凍り付き、その繰り返しで樹氷を巨大に成長させています。



In winter, Yamagata Prefecture becomes a silvery snow country. There are things that you can enjoy only in snowy places, like snow art. One of these is the *Kamakura Mura* igloo village in Onogawa Onsen, Yonezawa City. Eat Yonezawa *ramen* while enjoying fantastic winter moments. Another is *Uesugi Yukidoro Matsuri*, the Uesugi Snow Lantern Festival in Yonezawa City. The importance of life and wishes for peace are put into these snow lanterns.

The third is the *juhyo*, or “ice monsters,” of Mt. Zao. People come from all over the country to see these ice monsters. Finally, the fourth is the snowy view of Yamadera. In winter, the view of Yamadera on the rocky mountainside looks like a *sumi-e* ink painting.



春：ライトアップに輝く桜満開の「あつみ温泉」(鶴岡市)



冬：雪景色に輝く「銀山温泉」(尾花沢市)



夏：鳥海山を望む「湯野浜温泉」(鶴岡市)



将棋の町「天童温泉」(天童市)



朝市で賑わう「肘折温泉」(大蔵村)



秋：秘湯「滑川温泉」(米沢市)

◆温泉王国「やまがた」 一旅を潤す山形の温泉

コラム 61

蔵王温泉とヤマトタケル

湯煙と硫黄の香りに包まれる蔵王温泉。開湯は天皇の命を受けた日本武尊が蝦夷討伐に来た西暦110年と言われている。日本武尊の家臣・吉備多賀由は、戦いで毒矢に当たり、全身がただれ苦しんでいた時、家来が偶然、湯浴みができるほどに温かく、酢のような味がする不思議な泉が湧いているのを見つけます。

そして、その温泉で湯浴みをした吉備多賀由の傷がわずか数日で回復したというのです。その後、多賀由の名にあやかり「多賀由温泉」と呼ばれていましたが、転じていつしか「高湯温泉」と名前を変え、千年以上にわたり親しまれてきました。1950(昭和25)年に、日本観光地百選・山岳の部で蔵王が第1位となったのを期に「蔵王温泉」に改められ、現在に至ります。



(1) 四季折々楽しめる山形の温泉

春、あつみ温泉(鶴岡市)では川辺に配された足湯やウッドデッキでのんびりくつろぎながら花見ができます。4月中は桜並木のライトアップが行われ、あたりはロマンチックな雰囲気に包まれます。

夏、湯野浜温泉(鶴岡市)は海水浴客で賑わいます。日本海に面してホテルや旅館が建ち並びリゾート温泉街で、湯船から水平線に沈みゆく夕日の美しい光景が楽しめます。

秋、紅葉に包まれた東吾妻への山道の途中、前川上流の切り立つような北谷の山中に「滑川温泉」(米沢市)があります。自家源泉の湯が絶え間なく浴槽に注がれ、乳白色の濁り湯は時間によって透明や青透明に変化します。

冬、銀山温泉(尾花沢市)では、銀世界を灯すガス灯の明かりが一段とロマンチックに輝きます。そして、冷えた体には、お風呂と熱々の鍋料理が待っています。大正末期から昭和初期に建てられた洋風木造多層の旅館が銀山川の両岸に沿って軒を並べ、昔ながらの独特な景観を味わうことができます。

(2) 全国唯一35市町村に温泉のある「温泉王国」

山形は全国で唯一、全35市町村に温泉が湧出している「温泉王国」でもあります。各地域ごとに特色ある温泉街が点在し、山や渓谷、日本海を眺めながらの温泉、近代的な大型旅館、昔ながらの湯治の宿等々、様々なタイプの温泉を巡るのもおすすめです。

天童温泉(天童市)は、近代的な大型ホテルから小さな旅館まであり、利用者に合ったバランスのとれた施設が整備されています。将棋駒の生産が有名で、温泉街全体に将棋の駒のモニュメント等を見ることができます。

肘折温泉(大蔵村)は、月山の麓、銅山川沿いに数多くの旅館が存在しています。古くから湯治場であったことから、自炊部を持つ旅館が多くなっています。朝5時からの朝市は、湯治客で賑わいます。また、若手画家に灯籠絵「ひじおりの灯」の作画を依頼し、夏の夜に温泉街で点灯しています。素朴な湯治文化とともに、仙境霊湯の絵物語を楽しむことができます。

(3) 山形観光マップと 主な温泉

赤倉温泉 (最上町)

諸国行脚中の慈覚大師の発見により開湯したと言われる情緒豊かな温泉街。冬は近隣のスキー場の拠点としても利用されています。



湯田川温泉 (鶴岡市)

国民保養温泉地に指定され、古くから「鶴岡の奥座敷」と呼ばれています。約10軒の風情ある純和風旅館が建ち並びます。



瀬見温泉 (最上町)

小国川の左岸に開けた温泉郷。義経伝説が語り継がれ、懐かしさを感じさせる風情とぬくもりがあふれています。



小野川温泉 (米沢市)

ホテルの里でもあり、小野小町ゆかりの地。伝説に彩られた美人の湯は、あの伊達政宗も愛した温泉です。



さくらんぼ東根温泉 (東根市)

西に月山、葉山、朝日岳を遠望する美しい田園の湯。黄褐色のお湯は体の芯から温まり、湯冷めしにくいと評判です。



赤湯温泉 (南陽市)

源義綱(八幡太郎義家の弟)が発見したと伝えられ、藩政時代には上杉藩主も訪れました。湯治場時代の細やかな人情が生き続ける湯の街です。



白布温泉 (米沢市)

開湯700年の歴史がある静かな秘境の地。周辺には豊かな山々が広がり、築300年以上の茅葺き屋根の宿も残っています。



かみのやま温泉 (上市市)

鶴が傷ついた体を湯で癒した伝説から別名「鶴経の湯」と呼ばれています。城下町であり、宿場町としても栄えた温泉街です。



郷土で語り継がれている人たち

会田安明	山形	2000冊もの本を書いた最上流の和算家
安島直円	新庄	多くの数学者に尊敬された日本一の算学者
安達峰一郎	山辺	世界の良心 日本人初の国際司法裁判所長
阿部亀治	庄内	イネの母「亀ノ尾」寒さに負けない新品種づくり
阿部次郎	酒田	深く厳しく哲学を学んだ「三太郎の日記」の著者
伊佐治八郎	酒田	稲作の指導者として米どころ庄内育ての親
石沢慈鳥	中山	わたり鳥のなぞを探究し続けた野鳥研究家
板垣董五郎	東根	若木原の荒れ地の開拓に命をかけた農民運動の創始者
伊藤嘉平治	山形	山形で最初的人力車や自転車をつくったまちの発明家
伊東忠太	米沢	桂離宮の美に魅かれた日本建築の権威者
伊藤礼太郎	天童	アメリカ兵から原崎沼のカモを守るために献身的な努力をした人
上杉鷹山	米沢	米沢藩の名君 再興に向け、知恵を惜しまぬ努力をした人
梅津勇太郎	高畠	酪農のユートピアをめざした粉ミルクの創始者
海老名徳太郎	村山	橋や道路、学校等、村の発展のために一生をささげた人
大森治豊	上山	日本で初めて帝王切開（産科手術）に成功した人
小倉金之助	酒田	みんなにわかる数学を追究し、数学教育の発展に努めた人
隠明寺勇象	新庄	国の子どもにゆめを与えた最上の風絵師
柏倉松蔵	上山	人間愛に燃え、日本最初の肢体不自由学校「柏学園」を建てた人
金子てい	山形	「赤い鳥」の文学少女で日本初代の文部省婦人教育課長
菊地新学	天童	県令三島通庸のご用写真師で東北で最初の写真館を開いた人
岸赤十	金山	「人類はみんな兄弟」天皇にも称賛された赤十字運動の先駆者
喜早伊右衛門	村山	田んぼに水を 東沢溜池を造った人
北館大学助利長	庄内	北楯大堰をつくり、庄内の荒れ地を美田に変えたかんがい用水の恩人
清河八郎	庄内	日本の未来に命をかけた幕末の志士
日下部四郎太	山形	岩石の強さを研究した地球物理学の先駆者
沓沢朝治	真室川	タカ使いの名人 真室川の鷹匠
九里とみ	米沢	女性にも技術と教養を求めた米沢に女学校を創設した人
雲井龍雄	米沢	きよらかに激しく生きた幕末の志士
栗本東明	鶴岡	日本のパストツールと言われた狂犬病ワクチンの開発者
黒井半四郎	米沢	置賜の野に水を引いた、「黒井堰」「飯豊山穴堰」をつくった人
郷目貞繁	寒河江	生きている絵馬を描き続けた戦国時代の武人画家
国分一太郎	東根	生活綴り方の旗手で、日本の作文教育に大きな影響を与えた人
小関三英	鶴岡	ナポレオンに憧れた日本夜明け前の蘭学者
後藤岩太郎	大江	最上川にひびく歌声 最上川舟歌の歌い手
金儀右衛門	小国	病気とたたかいながら、小国町の郷土研究に生涯をささげた人
斎藤外市	鶴岡	斎外式力織機を発明した鶴岡絹織物の育ての親
斎藤篤信	米沢	県令三島通庸に、初代師範学校校長として山形の教育を託された人
斎藤秀一	鶴岡	「世界が一つの言葉で」を願ったエスペラント語の研究者
斎藤茂吉	上山	生命の叫びを歌に 近代作家の最高峰
酒井調良	鶴岡	ただ一本の木から生み出した種のない「庄内柿」の恩人
鮭延秀綱	真室川	戦国乱世の時代、最上地方にあらわれた勇気と知恵を持った若大将
佐藤栄助	東根	さくらんぼの品種改良 「佐藤錦」の生みの親
佐藤里治	西川	明治の近代化政策の中で山形県の産業開発を進めた若き県会議員
佐藤重光・重好	遊佐	「砂丘を緑に」を願い庄内浜の植林に尽力した人
佐藤千夜子	天童	日本で最初のレコード「波浮の港」を吹きこんだ流行歌手
佐藤政養	遊佐	走れ一号機関車 日本鉄道生みの親
佐藤義則	最上	昔話をさがし歩いた民話・民俗の研究者
重野謙次郎	天童	新しい世の中をみんなで作ろうと自由民権運動に尽くした人
志田周子	西川	山村の女医 僻地医療に生涯をささげた人

渋江 長四郎	山形	山形の人形師 伝統の技を受け継いだ人
白崎 五右衛門	酒田	屋根瓦の普及、民間消防隊の創設など酒田消防の父と呼ばれた人
白畑 孝太郎	上山	世界に知られた昆虫研究家で虫を愛したおまわりさん
新海 竹太郎	山形	山形美術館「ゆあみ」の作家で近代彫刻の担い手
菅原 白龍	長井	ほんとうの日本百景を求めた山形の南画家
菅 実秀	鶴岡	西郷隆盛に励まされ、刀を鋏に変えて松ケ岡の開墾を進めた人
鈴木 庄一郎	鶴岡	山形の自然を愛した、庄内浜が生んだ生物学者
鈴木 信教	山形	「今 良寛」と呼ばれた社会福祉の先駆者
鈴木 清風	尾花沢	芭蕉の友人で紅花大尽と呼ばれた紅花商人
鈴木 貞次郎	大石田	山形とブラジルを結んだブラジル移民の父
須藤 克三	南陽	「子どもらは太陽を呼ぶ」山形県児童文化活動に尽くした巨峰
大館 藤兵衛	鶴岡	鶴岡市朝日、櫛引の田畑に水を引く「点保堰」をつくった人
高橋 英雄	天童	はなかみ先生と子どもたちに慕われたアメリカ帰りの自由人
高橋 兼吉	鶴岡	国指定重要文化財「致道博物館」を建てた洋風建築の第一人者
高山 樗牛	鶴岡	日本近代文学の夜明けを告げた若き天才文学者
竹田 清五郎	長井	つむぎの里をつくるために努力した長井つむぎの恩人
田沢 稲舟	鶴岡	女流作家への道 燃え尽きた明治の青春
多勢 亀五郎	南陽	苦心の末、糸とり機械をつくり、製紙工場の発展に尽くした人
田宮 五郎	河北	稲わらをいかした最上ぞうりづくりに尽力した人
遠山 椿吉	山辺	国民病と戦い、結核予防に尽くした医師
直江 兼統	米沢	米沢の町の基礎をつくり、上杉藩を支えた知将
長沢 理玄	山形	ジェンナーの発明した疱瘡の予防方法（種痘）を広めた医師
芳賀忠徳・忠庵	白鷹	毛掘り医者 つつがむし病にメス
浜田 広介	高畠	「泣いた赤鬼」などのひろすけ童話で知られる山形が誇る童話作家
伴 淳三郎	米沢	チャップリンに憧れた日本一の喜劇役者
平田 東助	米沢	農民の自立をめざした「農業協同組合」生みの親
平塚 英吉	新庄	蚕糸研究の神様で新庄市名誉市民第1号に輝いた人
北條 角麿	新庄	教えた生徒4000人、最上に生きた漢学者
本間 光丘	酒田	公益に尽くし、砂丘植林の父と呼ばれた日本一の大地主
真壁 仁	山形	県内外多くの校歌を作詞した詩人、野に生きた思想家
松岡 俊三	村山	雪国のくらしを訴え続けた雪の代議士
松田 甚次郎	新庄	「土に叫ぶ」の作者で、「農民たちの行く手に光を」と叫び続けた人
松本 十郎	鶴岡	アイヌの味方になった北海道開拓の先人
松森 胤保	鶴岡	日本のレオナルド・ダ・ヴィンチと言われた明治の博物学者
三浦 新七	山形	学術・産業の開拓者で山形の郷土文化を育てた人
三島 通庸		山形の近代化を進めた山形県初代県令
嶺 金太郎	新庄	最上地方の灯火を 名もない人々の歴史を伝えた人
村山 俊太郎	天童	生活綴り方教育の推進など山形県における北方教育運動のリーダー
最上 徳内	村山	津軽の海を越えて北の新天地に足を踏み入れた北方探検家
最上 義光	山形	山形の産業・経済の基礎を築いた最上57万石の大名
本沢 竹雲	山形	「格知学舎」（五老学校）を開き、子どもたちの教育にあたった人
森 藤右衛門	酒田	庄内農民の幸せを願い続けた「ワッパ騒動」の指導者
森谷 たま	河北	「私立裁縫精華女学校」を設立した裁縫学校の母
結城 哀草果	山形	郷土を愛し、村里のくらしを歌ったもんぺすがたの農民歌人
結城 豊太郎	南陽	日本経済の舵取りとして日本銀行総裁、大蔵大臣を務めた人
結城 よしを	南陽	童謡「ないしょ話」をつくった若き童謡詩人
吉野 弘	酒田	「I was born」「夕焼け」「奈々子に」「祝婚歌」、多くの人に愛され続ける詩人
我妻 榮	米沢	学問の道ひとすじに生き、文化勲章を受けた民法学者
涌井 弥兵衛	新庄	金山町砂取山の土で見事に成功した新庄東山焼き
渡辺 順之助	山辺	手織りの美を求め続けた山辺じゅうたんの産みの親
A・ローレス	山形	青い目のお医者さん 山形最初の病院「済生館」の外人医師
C・H・ダラス	米沢	明治の近代化の中で米沢に西洋文化を広めたイギリス人

山形県の主要統計指標



	項目	年次	単位	山形県	全国	順位
自然環境	総面積	H26	km ²	9,323.15	377,972.28	9
	可住地面積割合 [北方領土及び竹島を除く]	H25	%	30.6	32.8	28
	森林面積割合 [北方領土及び竹島を除く]	H21	%	69.0	65.6	19
	自然公園面積	H26	ha	155,810	5,434,780	10
人口・世帯	人口総数	H25	人	1,141,276	127,297,686	35
	総面積 1 km ² あたり人口密度	H25	人	122.4	341.3	42
	年少人口割合 [15歳未満人口]	H25	%	12.4	12.9	38
	生産年齢人口割合 [15～64歳人口]	H25	%	58.5	62.1	40
	老年人口割合 [65歳以上人口]	H25	%	29.1	25.1	6
	出生率 (人口千人当たり)	H25	—	7.2	8.2	42
	死亡率 (人口千人当たり)	H25	—	13.2	10.1	4
	総世帯数	H22	世帯	388,608	51,950,504	39
	核家族世帯割合 (対一般世帯数)	H22	%	48.29	56.34	46
	共働き世帯割合 (対一般世帯数)	H22	%	36.05	24.45	2
	3世代同居率 (対一般世帯数)	H22	%	21.5	7.1	1
	離婚率 (人口千人当たり)	H25	—	4.2	5.3	46
	離婚率 (人口千人当たり)	H25	—	1.47	1.84	44
労働・賃金	就業者数	H22	人	565,982	59,611,311	34
	第1次産業就業者比率	H22	%	9.8	4.0	8
	第2次産業就業者比率	H22	%	29.0	23.7	11
	第3次産業就業者比率	H22	%	59.5	66.5	45
	事業所数	H21	事業所	64,257	6,043,300	32
	従業者数	H21	人	552,196	62,860,514	35
	完全失業率	H25	%	3.2	4.0	36
	有効求人倍率 ※1	H25	倍	0.99	0.93	16
	労働者1人平均1か月間の現金給与月額 [事業所規模5人以上]	H25	円	275,663	314,048	32
	労働者1人平均1か月間の総実労働時間 [事業所規模5人以上]	H25	時間	155.5	145.5	3
	高校新規卒業者初任給 [男]	H25	千円	151.0	158.9	35
	高校新規卒業者初任給 [女]	H25	千円	144.4	151.3	31
農業	販売農家の農業就業人口 (自営業に主として従事した世帯員数)	H22	人	64,335	2,605,736	19
	経営耕地面積 (農業経営体)	H22	ha	104,686	3,631,585	10
	農業産出額	H25	億円	2,293	85,742	14
工業	製造業事業所数 [従業者規模4人以上]	H24	事業所	2,797	216,262	25
	製造業従業者数 [従業者規模4人以上]	H24	人	99,063	7,425,339	25
	製造品出荷額等 [従業者規模4人以上]	H24	百万円	2,396,586	288,727,639	32

	項目	年次	単位	山形県	全国	順位
商業	商業商店数〔卸売業＋小売業〕	H24	店	15,281	1,405,021	32
	商業従業者数〔卸売業＋小売業〕	H24	人	92,687	11,225,151	34
	商業年間商品販売額〔卸売業＋小売業〕	H23	百万円	2,210,528	480,332,788	33
所得	県内総生産	H23	百万円	3,650,352	497,411,060	36
	県民所得	H23	百万円	2,789,979	372,515,804	36
	県民1人当たり県民所得	H23	千円	2,403	2,915	34
物価・家計	消費者物価指数〔総合〕※2	H26	H22=100	103.7	102.8	3
	消費者物価指数対前年上昇率〔総合〕※2	H26	%	3.0	2.7	7
	消費者物価地域差指数〔総合：51市平均=100〕※3	H25	－	101.5	100.0	7
	実収入〔勤労者世帯〕（1世帯当たり1か月間）	H25	千円	606.3	523.6	2
	消費支出〔2人以上の世帯〕（1世帯当たり1か月間）	H25	千円	314.9	290.5	5
財政	普通会計歳入決算総額〔県財政〕	H24	百万円	588,293	50,937,229	32
	普通会計歳出決算総額〔県財政〕	H24	百万円	577,462	49,481,842	32
	普通会計歳出決算総額〔市町村財政〕	H24	百万円	532,017	55,664,090	35
	人口1人当たり歳出決算総額〔県・市町村財政合計〕	H24	千円	963.1	824.6	17
教育	小学校数（6～11歳人口10万人当たり）	H25	校	469.9	307.2	9
	中学校数（12～14歳人口10万人当たり）	H25	校	333.5	297.8	23
	高等学校数（15～17歳人口10万人当たり）	H25	校	175.2	136.6	9
	小学校児童数（教員1人当たり）	H25	人	13.76	15.99	35
	中学校生徒数（教員1人当たり）	H25	人	12.75	13.91	27
	高等学校生徒数（教員1人当たり）	H25	人	12.31	14.12	35
医療	一般病院数（人口10万人当たり）	H24	施設	4.8	5.9	37
	一般診療所数（人口10万人当たり）	H24	施設	81.0	78.5	22
	医師数（人口10万人当たり）※4	H24	人	210.0	226.5	32
	看護師・准看護師数（人口10万人当たり）※4	H24	人	941.8	900.4	28
福祉施設	老人ホーム数（65歳以上人口10万人当たり）	H24	所	67.8	49.8	12
	児童福祉施設数（人口10万人当たり）	H24	所	1.48	1.50	33
安全	交通事故発生件数（人口10万人当たり）	H25	件	620.7	494.1	10
	交通事故死者数（人口10万人当たり）	H25	人	3.4	3.4	35
	刑法犯検挙率（認知件数1件当たり）	H24	%	60.4	31.7	1
	火災出火件数（人口10万人当たり）	H24	件	36.0	34.7	23
	消防ポンプ自動車等現有数（人口10万人当たり）	H25	台	234.3	73.0	1
生活環境	持ち家比率〔対居住世帯あり住宅数〕	H20	%	75.5	61.1	4
	住宅の敷地面積（1住宅当たり）	H20	m ²	403	266	2
	下水道普及率	H25	%	74.6	77.0	17
	道路実延長（総面積1km ² 当たり）	H24	km	1.77	3.24	46
	保有自動車数（人口千人当たり）	H25	台	816.2	630.6	10

※1 学卒を除きパートを含む ※2 山形県の数値は、山形市の数値を掲載している

※3 51市とは都道府県庁所在地（東京都については東京都区部）及び政令指定都市（川崎市、浜松市、堺市及び北九州市）のことである。

※4 医療施設に従事する者

注：順位は全国における県の数値の大きい方から付している。（数値の価値判断は行っていない）

出典：「山形県勢要覧 平成27年度刊」

県章



郷土愛ゆたかな県民意識の高揚を図り、県勢の発展と向上を期するため、県政百年を機会に制定されました（昭和51年8月21日山形県告示第1273号）。3つの山の形は、日本百名山にも選ばれている鳥海山や月山、山岳修験の山として広く知られる羽黒山や湯殿山などの本県の山々を表すと同時に、本県の文化や歴史に深く関わり、県民歌にもなっている最上川の流れも表しています。また鋭角的な三角形は、本県の発展を期するという意味も含んでいます。

県の花（べにばな）



昭和29年にNHKが全国的に「郷土の花」を選定したときに、山形県は「べにばな」が選ばれており、また県を象徴する花として親しまれていたことなどから、「べにばな」に決定しました。（昭和57年3月31日制定）

県の木（さくらんぼ）



昭和45年に大阪府で開催された万国博覧会の日本開催を記念して県の木を定めることになり、昭和41年に山形県になじみの深い木の中から3種類の木を選び、県民のみなさんの募集をもとにさくらんぼを選定しました。（昭和57年3月31日制定）

県の鳥（オシドリ）



昭和41年に、野生の鳥獣を愛する気持ちを高めようと、県民の鳥及び獣の制定運動が行なわれました。県の鳥については、昭和42年に、県内でみられる鳥6種類を選び、県民のみなさんの投票をもとにオシドリに決定しました。（昭和57年3月31日制定）

県の獣（カモシカ）



昭和41年に、野生の鳥獣を愛する気持ちを高めようと、県民の鳥及び獣の制定運動が行なわれました。獣は、昭和42年に3種類を選び、県民のみなさんの投票をもとにカモシカに決定しました。（昭和57年3月31日告示）

県の魚（サクラマス）



山形県の水産への理解と親しみを深め、県内産の魚介類のイメージを高めて水産業を発展させること、また、庄内浜や最上川などの山形県の豊かな自然をアピールするため制定されました。山形県の自然をイメージさせる10種類の魚から県民投票により、サクラマスに決定しました。（平成4月3月制定）

①ブナ天然林の広さ	15万ha（全国の16.3%：平成12年）
②東根の大ケヤキ	幹回り16m 推定樹齢1,500年以上（国特別天然記念物 東根市東根）
③川西町ダリア園	ダリア650種 1万8千株（園内約1万㎡ 川西町置賜公園内）
④羽黒山の石段	2,446段（江戸時代以前の石段で最も長い 羽黒町手向）
⑤石鳥居2基	建造推定年代、平安後期～鎌倉初期（日本最古の石鳥居と推定 国指定重要文化財山形市鳥居ケ丘と同市蔵王成沢）
⑥即身仏の数	9体（全国に十数体）
⑦一般世帯の平均人員	2.94人 ※全国平均2.42人（H22）
⑧三世同居率	21.5% ※全国平均7.1%（H22）
⑨さくらんぼ収穫量	13,200t ※全国総収穫量17,800t（H24）
⑩西洋なし収穫量	14,300t ※全国総収穫量23,600t（H24）
⑪たらのめ生産量	45.2t ※全国総生産量208.1t（H24）
⑫きはだ皮生産量	2.5t ※全国総生産量3.8t（H24）
⑬あさつき収穫量	89t ※全国総生産量318t（H24）
⑭うるい収穫量	179t ※全国総生産量247t（H24）
⑮滝の数（長さ5m以上）	230ヶ所 ※全国総数2,488ヶ所（H元）
⑯消防ポンプ自動車等現有数（人口10万人当たり）	234.3台 ※全国平均73.0台（H25）
⑰自動車保有数量（1,000世帯当たり）〔2人以上の世帯〕	2,118台 ※全国平均1,414台（H21）
⑱ボランティア活動の年間行動者率（10歳以上）	35.3% ※平均26.3%（H23）

◇主な参考文献

北の旅学やまがた (2004.7 赤坂憲雄) イザベラ・バードの山形路～「アルカディア街道」散策のススメ～ (2011.7 渋谷光夫)
 山形県謎解き散歩 (2012.9 横山昭男) 少年少女やまがた人物風土記 1～5 (1990 山形県教育用品 (株))
 みちのく山形ものがたり (1994.3 (株) シー・ディー・アイ) 城下町山形観光見聞録 (2012.2 (社) 山形市観光協会)
 有機E L といえば山形 (2015.7 (公財) 山形県産業技術振興機構) ベニちゃんのまるごとやまがた (2013.3 山形市教育委員会)
 まるっと最上川 (2009.11 国土交通省山形河川国道事務所) べにばな～時代をこえて山形を彩る紅の色～ (2012.3 山形県)
 やまがたのうまいもの (1998 山形県農産物マーケティング推進協議会) 私たちの最上川を未来へ (2012.3 山形県教育委員会)
 国宝 縄文の女神 (2013.3 山形県立博物館) 最上川流域の文化と景観 (2013.3 山形県立博物館)

◇協力者一覧

<p>〈ア行〉安久津八幡神社 (株)朝日新聞社 (株)朝日相扶製作所 (有)朝日町ワイン (有)味の農園 アヒコファインテック(株) (株)飯豊ながめやま牧場 伊藤電子工業(株) (株)ウエノ 羽越しな布振興協議会 美しい山形・最上川フォーラム エムテックスマツムラ(株) 大石田元気プロジェクト 大石田町東町地区 置賜文化フォーラム おぐに白い森(株) 小国町観光協会 オリエンタルカーペット(株)</p>	<p>Spiber(株) 関川しな織協同組合 (一財)関山愛林公益会</p> <p>〈タ行〉(株)ダイユー 高瀬紅花ふれあいセンター (株)タカハタ電子 (一社)高島町観光協会 田沢コミュニティセンター管理運営委員会 田中裕子氏 (株)チェリーランドさがえ (公財)致道博物館 茅野市尖石縄文考古館(長野県) NPO法人暹筆堂文庫プロジェクト 千歳 栄氏 鳥海やわた観光(株) 土屋薬局土屋幸太郎氏(東根市) 鶴岡織物工業協同組合 鶴岡市学校給食センター 鶴岡市観光連盟 鶴岡市立藤沢周平記念館 出羽三山歴史博物館 東京国立博物館 東北芸術工科大学 東北公益文科大学 時の宿すみれ (株)トプコン山形 富田 勝氏</p> <p>〈ナ行〉中山町観光協会 長井市レインボープラン推進協議会 (株)ナガオカ 南岳寺(鶴岡市) 日本一の芋煮会フェスティバル協議会 (一財)日本緑化センター</p> <p>〈ハ行〉ハイメカ(株) 函館市縄文文化交流センター(北海道) (株)パストラボ 八戸市文化財センター是川縄文館(青森県) 浜田広介記念館 NPO法人パートナーシップオフィス (一社)東根市観光物産協会 ひじおりの灯実行委員会 ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株) 広重美術館 普門院(米沢市)</p>	<p>プラムレコード (株)プレステージ・インターナショナル (株)文藝春秋 北海道大学附属図書館北方資料室 本間家日本邸</p> <p>〈マ行〉真室川町安楽城の童唄保存会 宮城興業(株) (一社)村山市観光物産協会 最上峡観光開発(株) 最上峡芭蕉ライン観光(株) 最上徳内記念館 最上義光歴史館 (株)モンテディオ山形</p> <p>〈ヤ行〉山形クラッチ(株) (公社)山形県観光物産協会 (公財)山形県産業技術振興機構 (公財)山形県生涯学習文化財団 山形県花笠協議会 山形交響楽団 NPO法人山形国際ドキュメンタリー 映画祭 山形市観光協会 やまがた食産業クラスター協議会 (株)山形新聞社 山形大学 山形鉄道(株) 山形美術館 山形フィルム・コミッション (有)山川牧場 山寺芭蕉記念館 有機エレクトロニクスイノベーション センター NPO法人遊佐鳥海観光協会 遊佐町J Uターン促進協議会 (一社)米沢観光物産協会 米沢市上杉博物館</p> <p>〈ラ行〉立石寺(山形市) 旅館 孝庵</p> <p>〈ワ行〉(有)渡辺鑄造所 ワテック(株)</p>
<p>〈カ行〉(一社)河北町観光協会 上和田有機米生産組合 (株)軽部草履 川西町観光協会 菊地保寿堂 城戸淳二氏 (有)熊谷園芸 (公財)黒川能保存会 慶應義塾大学先端生命科学研究所 (公財)弦 地域文化支援財団 巨海院(大江町) 米部(南陽市)</p> <p>〈サ行〉(公財)斎藤茂吉記念館 埼玉県志木市 砂丘地砂防林環境整備推進協議会 佐藤繊維(株) J A さがえ西村山農業協同組合 事業構想大学院大学出版部 志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会 渋谷光夫氏 若松寺(天童市) 庄内観光コンベンション協会 (株)荘内日報社 庄内農業共済組合 庄内町観光協会 新庄の種プロジェクト 新庄まつり実行委員会</p>	<p>〈ケ行〉(一社)河北町観光協会 上和田有機米生産組合 (株)軽部草履 川西町観光協会 菊地保寿堂 城戸淳二氏 (有)熊谷園芸 (公財)黒川能保存会 慶應義塾大学先端生命科学研究所 (公財)弦 地域文化支援財団 巨海院(大江町) 米部(南陽市)</p> <p>〈セ行〉(公財)斎藤茂吉記念館 埼玉県志木市 砂丘地砂防林環境整備推進協議会 佐藤繊維(株) J A さがえ西村山農業協同組合 事業構想大学院大学出版部 志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会 渋谷光夫氏 若松寺(天童市) 庄内観光コンベンション協会 (株)荘内日報社 庄内農業共済組合 庄内町観光協会 新庄の種プロジェクト 新庄まつり実行委員会</p>	<p>〈コ行〉(一社)河北町観光協会 上和田有機米生産組合 (株)軽部草履 川西町観光協会 菊地保寿堂 城戸淳二氏 (有)熊谷園芸 (公財)黒川能保存会 慶應義塾大学先端生命科学研究所 (公財)弦 地域文化支援財団 巨海院(大江町) 米部(南陽市)</p> <p>〈ク行〉(一社)河北町観光協会 上和田有機米生産組合 (株)軽部草履 川西町観光協会 菊地保寿堂 城戸淳二氏 (有)熊谷園芸 (公財)黒川能保存会 慶應義塾大学先端生命科学研究所 (公財)弦 地域文化支援財団 巨海院(大江町) 米部(南陽市)</p>

山形市 米沢市 鶴岡市 酒田市 新庄市 寒河江市 上山市 村山市 長井市 天童市 東根市 尾花沢市 南陽市
 山辺町 中山町 河北町 西川町 朝日町 大江町 大石田町 金山町 最上町 舟形町 真室川町 大蔵村 鮎川村
 戸沢村 高島町 川西町 小国町 白鷹町 飯豊町 三川町 庄内町 遊佐町
 国土交通省 農林水産省 中小企業庁 山形県

郷土 Yamagata 一語って 創る やまがたの未来一

印刷日 平成28年3月1日

発行日 平成28年3月18日

編集発行／山形県教育委員会 山形市松波2丁目8-1

印刷／大場印刷株式会社 山形市立谷川12丁目485-2

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。